岩手県文化財調査報告書　第124集

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成17年度）

平成19年３月

岩 手 県 教 育 委 員 会

序　　文

本県には豊かな自然とともに、集落跡、古墳、城館跡など多くの遺跡が残っています。

埋蔵文化財は、地域の歴史と文化に深く根ざした国民共有の財産でありますが、現在、物質的な豊かさの追求から教育・文化等の内面的な充実が求められており、人々の埋蔵文化財への関心は高まりを見せています。そのような中で先人の残したかけがえのない埋蔵文化財を正しく理解し、次代に引き継ぎ、地域で積極的に保存活用していくことは、現代に生きる私たちの責務でもあります。

埋蔵文化財にとって、現状のまま保存することが最善ではありますが、近年の大規模な開発事業等によって現状保存することは、難しい場合が多くなってきており、発掘調査を実施し、記録保存しているところです。このような現実の中で、埋蔵文化財保護と各種開発事業との円滑な調整を図るには、遺跡の性格、所在地、範囲等を正確に示し、周知する必要があることは言うまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて、昭和52年度以来、遺跡の分布調査を実施していますが、現在確認されている遺跡数は１万２千近くにも上ります。これらの遺跡を広く周知するとともに、開発事業との調整の中で行った発掘調査の記録や、遺跡の範囲及び内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より報告書を作成しております。

本報告書は平成17年度に実施した県内遺跡の発掘調査、試掘調査及び分布調査の成果を主にまとめたものです。本報告書が活用されることにより、文化財の保護に役立てば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、御指導御協力をいただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。

平成19年３月

岩手県教育委員会

教育長　照井　崇

例　　言

1　本書は、岩手県教育委員会が平成17年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。

2　本事業は、岩手県教育委員会が主体となり、関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。

3　遺跡位置図は国土地理院の１／25,000の地形図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各業者より入手した地形図あるいは工事平面図を原図として掲載した。

4　発掘調査については、概略を記した。

5　試掘調査に係る遺跡の指定範囲についてはアミで示し、試掘トレンチは実線で示した。

6　本事業の調査、整理、報告書編集等は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の高橋　一浩主任主査、菅　常久文化財専門員、花坂　政博文化財調査員、相原　伸裕文化財調査員、溜　浩二郎文化財行政研究員が担当した。

7　本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

目　　次

序文
例言
Ⅰ　発掘調査
1　緊急地方道整備事業（斉羽場館跡）……3
2　緊急地方道整備事業（上和町Ⅰ遺跡・備中館跡）……5
3　ほ場整備事業　神橋地区（田屋遺跡）……7
4　一般県道永沢水沢線満倉地区歩道設置工事（兵法田遺跡）……12
5　下水道施設整備事業（中島遺跡）……14
6　一般国道455号バイパス事業（巣子Ⅵ遺跡）……16
7　畑地帯総合整備事業東奥中山地区（上家向遺跡）……18
8　花巻空港整備事業（石持Ⅰ遺跡）……20
9　ほ場整備事業　大明神地区（上野々遺跡）……22
10　県立花巻厚生・北上病院統合整備事業（蒲沢遺跡）……24

Ⅱ　試掘調査
1　胆沢ダム建設事業（大平野Ⅱ遺跡）……33
2　いさわ南部農地整備事業（宮沢原下遺跡）……35
3　一般県道二戸一戸線堀野地区交通安全設備工事（堀野遺跡群）……36
4　中山間地域総合整備事業　町井地区（徳島遺跡）……37
5　ほ場整備事業　白山地区（小林繁長遺跡）……38
6　ほ場整備事業　満倉地区（崩田遺跡）……39
7　ほ場整備事業　古城地区（可能性あり15）……40
8　ほ場整備事業　白山地区（白山上野遺跡）……41
9　ほ場整備事業　増沢東部地区（岩谷堂柳沢Ⅰ・Ⅱ遺跡、金打遺跡）……42
10　遠野第二生活貯水池建設事業（栃洞遺跡）……44
11　地域振興支援ネットワーク整備事業（清田台遺跡）……45
12　ほ場整備事業（骨寺村荘園遺跡）……46
13　道路改築事業（袈帯遺跡）……47
14　緊急地方道路整備事業（桂平Ⅰ遺跡）……48
15　緊急地方道路整備事業（川口Ⅰ遺跡）……49
16　緊急地方道路整備事業（吉田館跡）……50
17　馬淵川沿岸（一期）農業水利事業（可能性あり８）……51
18　緑資源幹線林道葛巻・田子線葛巻・浄法寺間開設事業（東Ⅳ遺跡）……52
19　松園養護学校整備事業（松屋敷遺跡）……53
20　一般国道4号渋民バイパス改築工事（武道Ⅳ遺跡）……54
21　一般国道4号渋民バイパス改築工事（昼久保Ⅴ遺跡）……55
22　一般国道46号盛岡西バイパス改築工事（細谷地遺跡）……56
23　一般国道46号盛岡西バイパス改築工事（矢盛遺跡）……57
24　一関遊水地事業（坂下遺跡）……58
25　緊急地方道整備事業（境遺跡）……59
26　県単道路改良事業（野田Ⅰ遺跡）……60

27　ほ場整備事業　中寺林地区（八幡Ⅲ遺跡）……61
28　ほ場整備事業　中寺林地区（八坂遺跡）……62
29　ほ場整備事業　白山地区（道上遺跡）……63
30　資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区（島越Ⅴ遺跡）……64
31　資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区（清水野Ⅴ遺跡）……65
32　資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区（浜岩泉Ⅵ遺跡）……66
33　資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区（可能性あり３）……67
35　ほ場整備事業　古城地区（高日向遺跡）……68
36　ほ場整備事業（高日向北遺跡）……69
37　ほ場整備事業（沼尻遺跡）……70
38　ほ場整備事業　更木新田地区（野沢Ⅰ遺跡）……71
39　ほ場整備事業　更木新田地区（野沢Ⅱ遺跡）……72
40　ほ場整備事業　更木新田地区（舟渡Ⅰ遺跡）……73
41　ほ場整備事業　更木新田地区（舟渡Ⅱ遺跡）……75
42　ほ場整備事業　更木新田地区（六日市遺跡）……76
43　ほ場整備事業　更木新田地区（市の川Ⅱ遺跡）……77
44　ほ場整備事業　更木新田地区（八天北遺跡）……78
45　特定交通安全施設整備事業（宇曽沢遺跡）……79
46　特定交通安全施設整備事業（戸仲遺跡）……80
47　農用地総合整備事業下閉伊北区域（真木沢Ⅵ遺跡）……81
48　試掘調査出土遺物図版……82
49　分布調査一覧……91
50　試掘調査一覧……95

Ⅲ　写真図版……103

I　発掘調査

1　緊急地方道整備事業

斉羽場館跡（ＭＥ76－2110）隣接地

所在地：北上市下門岡地内

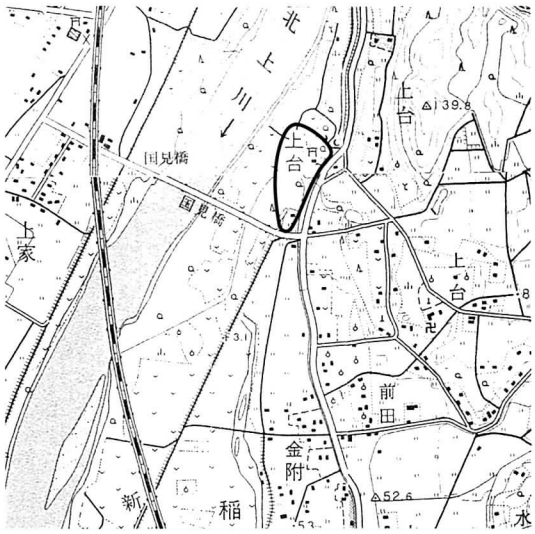
事業者：北上地方振興局土木部

調査期日：平成17年10月７日（試掘調査）

平成17年12月19日、20日（本発掘調査）

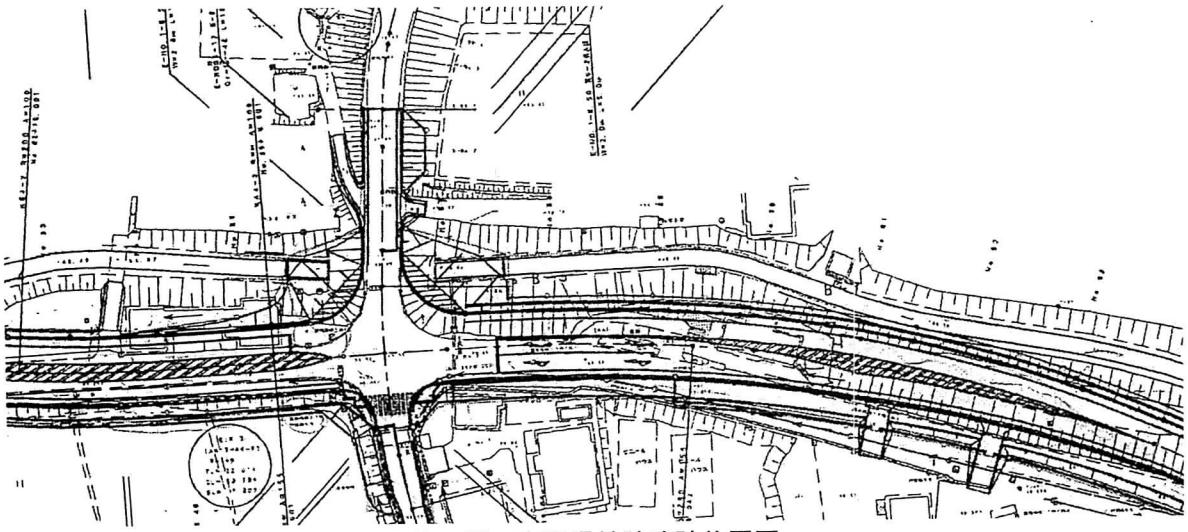
本遺跡は北上市役所の南南東方向約3.8㎞に位置し北上川左岸の砂礫段丘上に立地している。現況は宅地及び山林跡で標高は50ｍ前後を測る。

今回の調査は主要地方道の改良工事事業に係わって平成17年10月７日に当課で試掘調査を行った結果、事業対象区内の一部で土坑が検出されたことから、発掘調査を実施したものである。

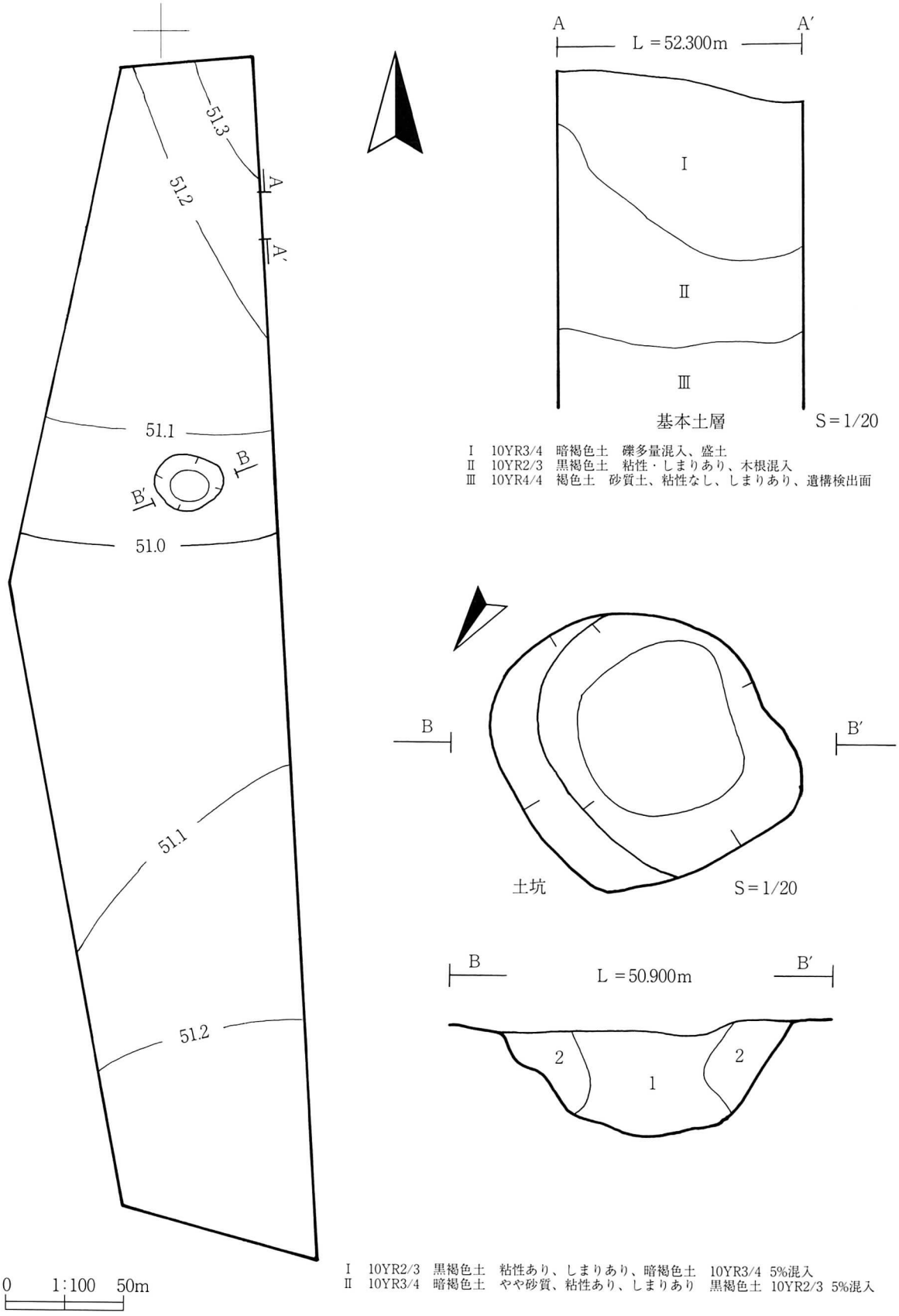


第１図　斉羽場館跡位置図

調査は試掘調査で土坑が検出された部分を中心に行った。その結果、土坑を１基検出したが他に遺構は確認されていない。土坑は表土から約1.1ｍ下の第Ⅲ層褐色土で検出し、形状は円形を呈し、規模は径110×96㎝、埋土の深さは36㎝を測る。遺構に伴う遺物はみつかっていないが、遺構を確認した層位から近世以前のものと考えられる。他に遺構・遺物は見つかっていない。



第２図　斉羽場館跡遺跡位置図



第３図　斉羽場館跡遺構配置図・基本土層・検出遺構

2　緊急地方道整備事業関連調査

備中館（ＬＥ86－2360）

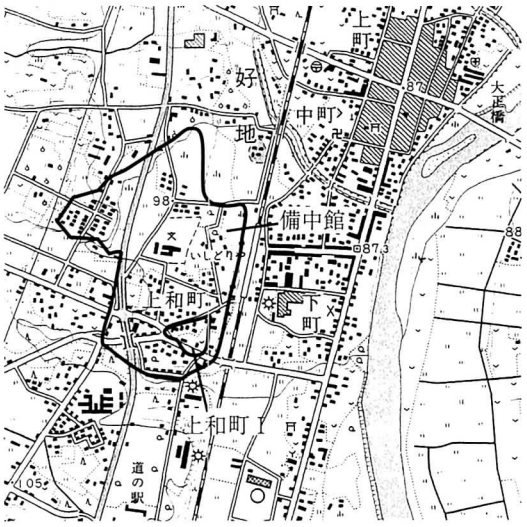
上和町Ｉ遺跡（ＬＥ86－2390）

所在地：稗貫郡石鳥谷町字好地・青雲台地内

事業者：花巻地方振興局土木部

調査期日：平成17年８月１日

遺跡は、石鳥谷町役場の北西約0.5kmに位置し、北上川右岸に形成された河岸段丘上に立地している。今回の調査は県道整備に係る歩道設置工事に伴うもので、調査区は上和町Ｉ遺跡と備中館に係るものであり、上和町Ｉ遺跡は備中館に含まれて所在していることから、本報告は併せて報告するものである。



第４図　備中館・上和町Ｉ遺跡位置図

備中館は、『岩手県中世城館』岩手県教育委員会（1986）によると、200×200mの規模で、現在の石鳥谷小学校グランドの北東から南東方向にかけて幅17～25mの堀があり、北方の段丘面に土塁があったとされているが詳細は不明である。

上和町Ｉ遺跡は、縄文時代の散布地として周知されており、調査区北側の畑地では土器片を採取できるほどである。

今回の調査は、歩道設置工事に伴うもので、平成17年5月9日に当課による試掘調査を実施したところ、遺構及び遺物が確認されたため、本発掘調査を実施することとなったものである。

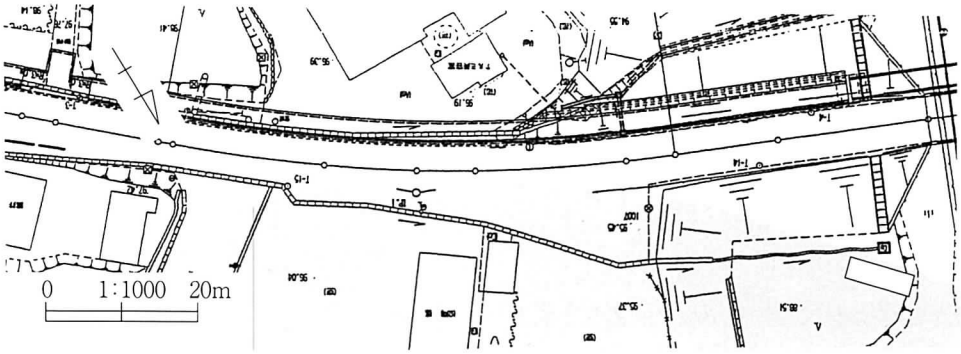
試掘調査では、土器片を表面採取した畑地に近いところに設定したトレンチからは、耕作土から平安時代のものと推定される土師器の甕の口縁部片と坏の胴部数点が出土したほか、縄文土器片２点及び石鏃１点が出土した。このトレンチを設定した畑地は、比較的旧地形が残存していると思われた場所で、このトレンチにおける層序は、耕作土、盛土、旧表土にあたると思われる黒色土、暗褐色土（漸移層）、褐色土（検出面）の順であった。他の試掘トレンチは、大きく地形改変されていることが伺え、表土直下に褐色土の下層があらわれていた。遺物が出土したトレンチを掘り下げたところ、南北方向に走る溝跡１条、柱穴状土坑１基が検出されたが、設計変更等も不可能であったため記録保存を実施することとなった。

溝跡の幅は130～150cmの規模で、深さは30cmほどであった。埋土は黒褐色を呈し、一部木根や現道路側溝埋設時と思われる地形改変による攪乱を受けていた。今回の調査では、溝跡からは遺物は出土しなかったため構築時期は不明である。

試掘調査時に確認された柱穴状土坑は、精査の結果、樹木の抜根痕であることが判明したが、調査区内で新たに柱穴状土坑が検出されたため、この土坑も精査を行った。この柱穴状土坑は、一部が家庭用排水パイプ敷設による攪乱を受けていたものの、径60cm（攪乱部分は推定である。）のほぼ円形を示していた。この柱穴状土坑の深さは約10cmと浅かったが、この柱穴状土坑が検出された周囲の土層は、表土直下に漸移層下層がみられたことから、遺構の上部は、過去の工事と思われる地形改変により、削平されたものと推測した。

この柱穴状土坑からも遺物は出土しなかったため、詳細な構築時期は不明である。

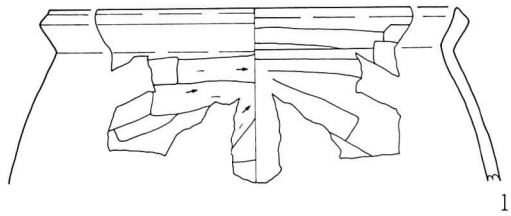
今回の調査区は、過去における道路側溝工事や排水路工事による削平を受けている箇所が多く、遺構の残存状況はあまり良好ではなかった。また、試掘調査で確認された遺物の出土状況等から、縄文時代及び古代の集落域は、調査区外北側の現在畑地及び宅地部分であると推測した。

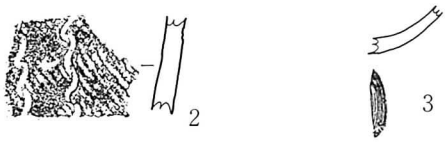


第５図　備中館、上和町Ｉ遺跡調査区位置図

備中館、上和町Ｉ遺跡掲載遺物一覧

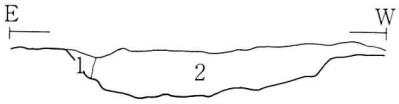
掲載番号	遺跡名	出土地点	層　位	特　徴
1	上和町Ｉ・備中館	トレンチ内		土師器(甕)
2	上和町Ｉ・備中館	トレンチ内		縄文土器
3	上和町Ｉ・備中館	トレンチ内		土師器(坏)





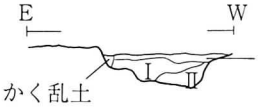
0　1:30　10cm

L=97.51



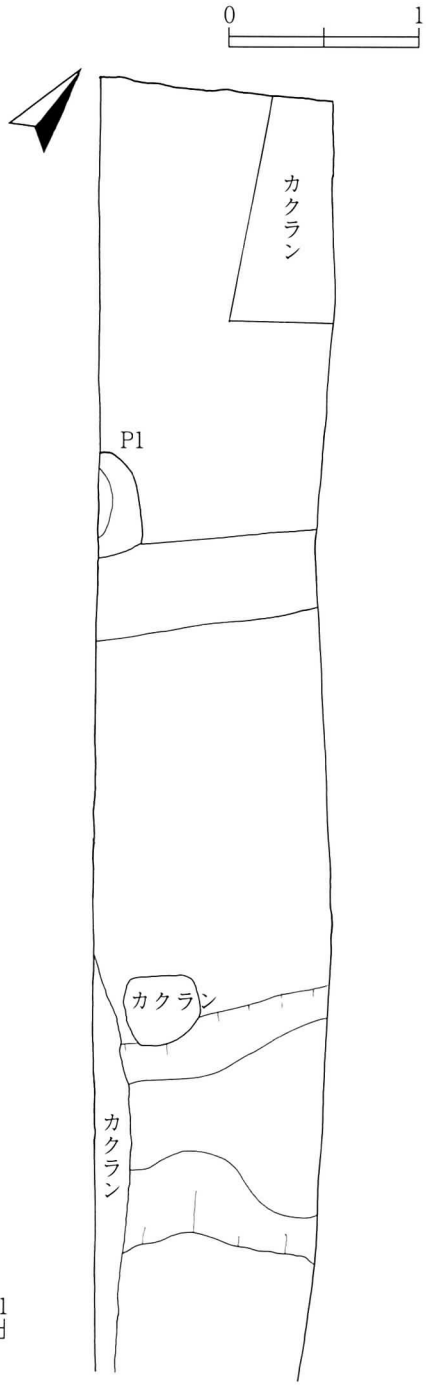
1．7.5YR2/2　黒褐色土　しまりあり　粘性あり　地山崩落土多く含む
　　炭化物含む
2．7.5YR2/1　黒色土　しまりあり　粘性あり　溝埋土の主流
　　炭化物多く含む

L=98.051



1．7.5YR2/2　黒褐色土　しまりあり　粘性ややあり
2．7.5YR3/3　暗褐色土　しまりややあり　粘性あり　地山崩落土50%含む

0　1



第６図　備中館、上和町Ｉ遺跡、出土遺物、遺構配置図

3　ほ場整備事業神橋地区関連調査

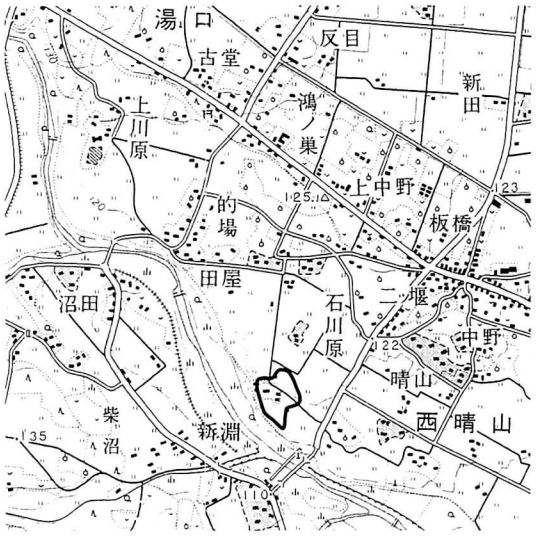
田屋遺跡（ＭＥ24－2109）

所在地；花巻市湯口字田屋地内

事業者；花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期間；平成17年５月11日～13日

16日・17日



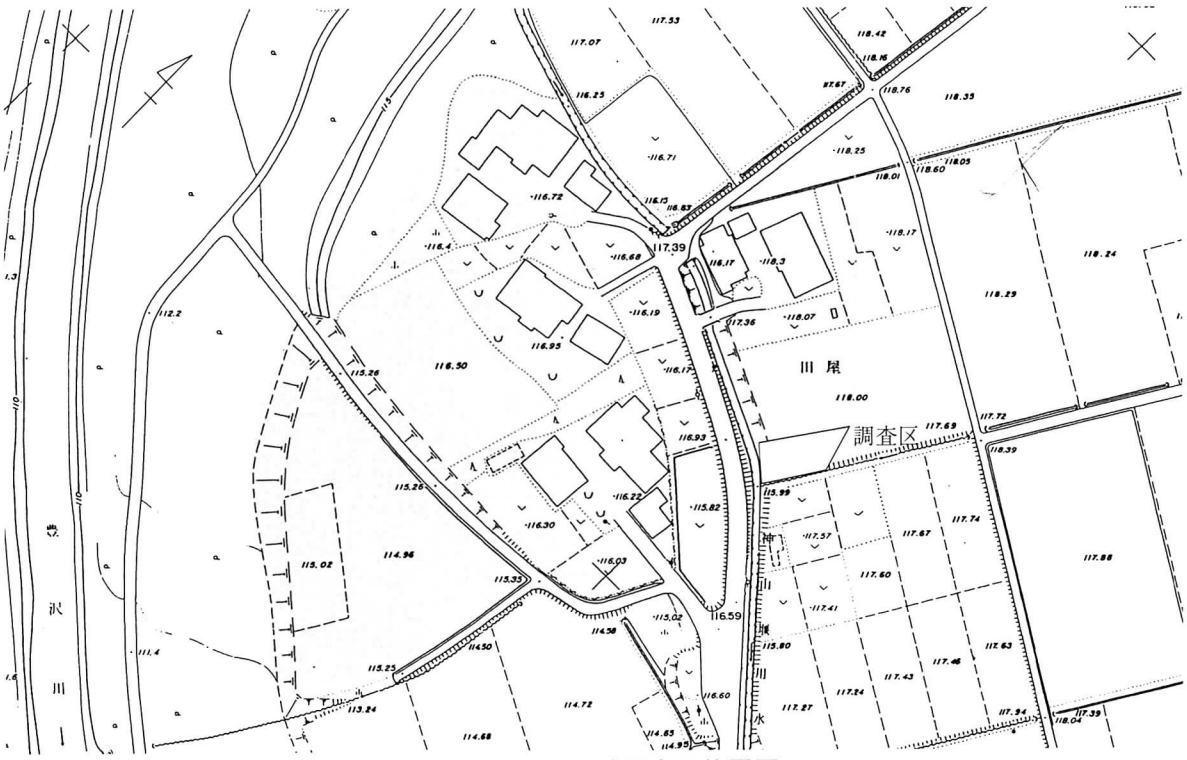
第７図　田屋遺跡位置図

遺跡は、花巻市役所の西約6.1kmに位置し、豊沢川左岸の河岸段丘上にある南向きの緩やかな斜面に立地し、遺跡標高は117m前後を測る。現況は、主に宅地及び水田となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、排水路設置予定箇所が対象である。排水路設置予定箇所は、昨年の10月に当課で試掘をし、土坑２基、柱穴状ピット１基が確認され、縄文時代後期のものと思われる土器片が検出された場所である。

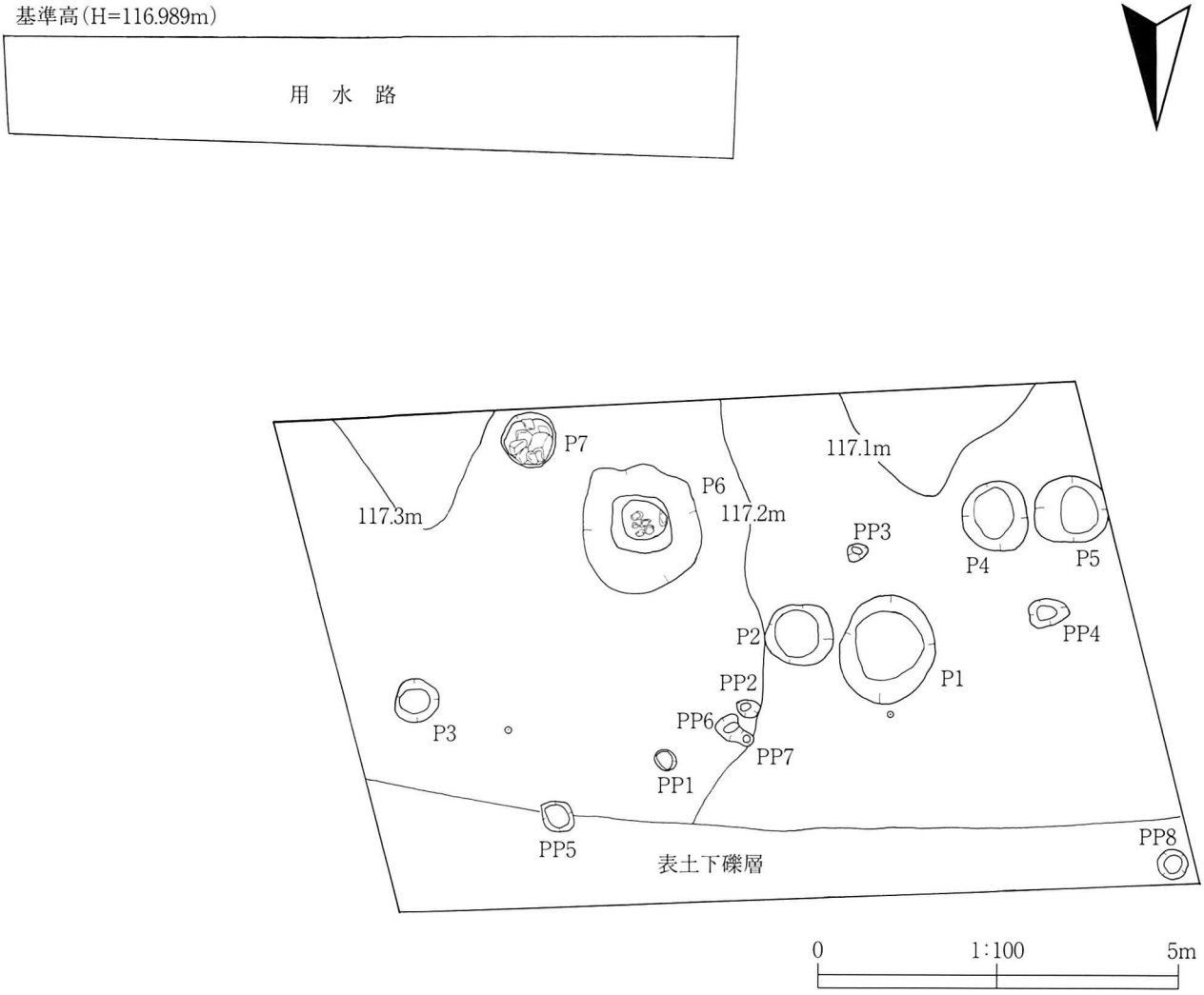
調査の結果、土坑７基、柱穴状ピット７基（一覧表参考）、遺物包含層を確認した。

遺物包含層は、調査区西側から１号土坑付近まで存在し、縄文後期から晩期と思われる土器片がＧ型ビニール袋５袋分出土した。遺構に伴う可能性も考え慎重に精査を行ったが、壁の立ちあがり等が確認できなかったことから、遺物包含層とした。

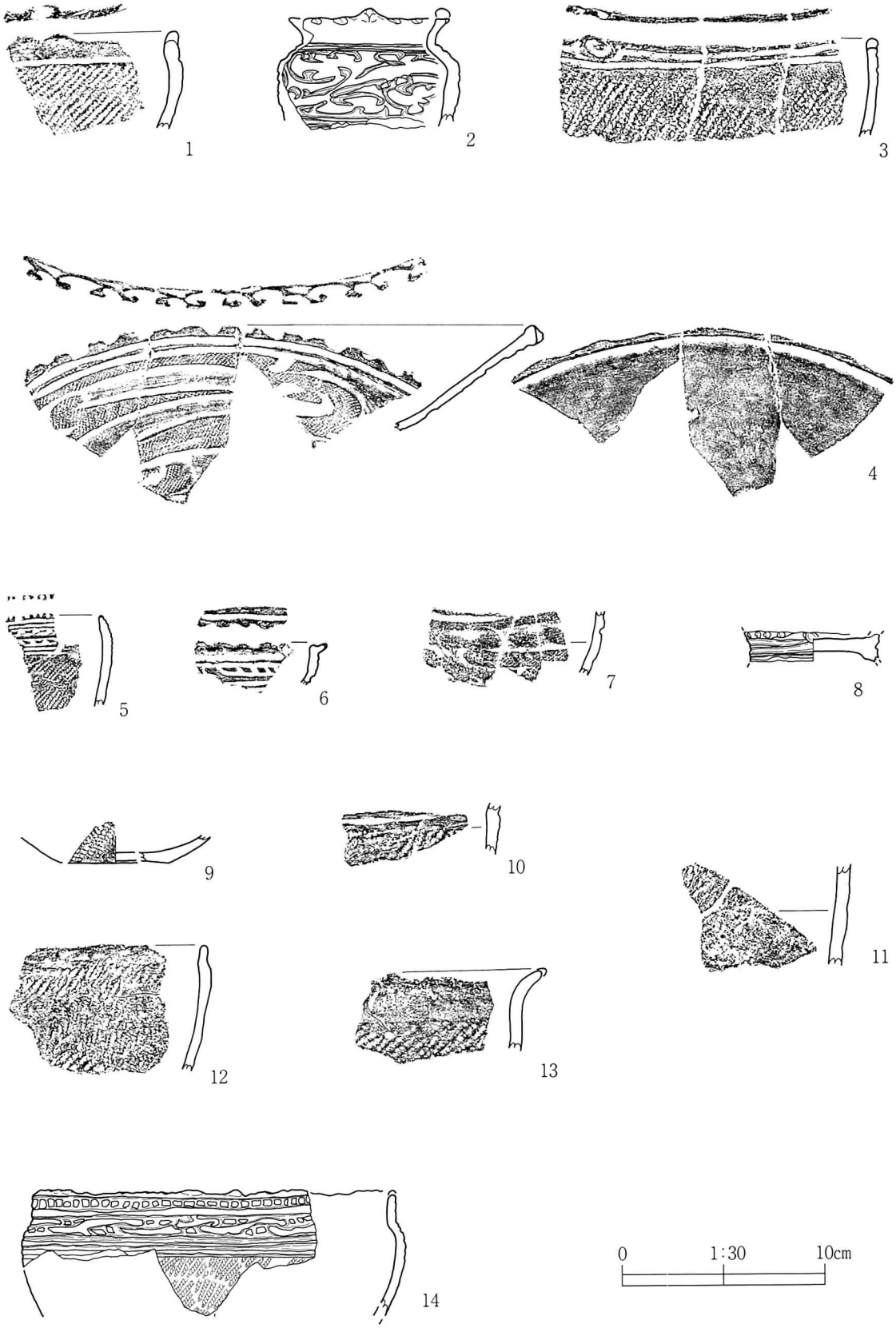
調査区には、地山である褐色砂質土が残っていたが、標高が高い調査区北側は、表土直下砂礫層であった。このことから調査区周辺は、河岸段丘上部と下部の境であると推測した。河岸段丘上部である調査区北側は、ほ場整備の際、砂礫層まで削平され、調査区は河岸段丘下部であったため、削平された箇所が少なく、遺構等が残存したものと推測される。



第８図　田屋遺跡調査区位置図



第９図　田屋遺跡遺構配置図



第10図　田屋遺跡出土遺物（1）

第11図　田屋遺跡出土遺物（2）

田屋遺跡遺構観察表

土坑観察表

遺構名	開口部径	底部径	深　さ	備　考
1号土坑	156×134	94×92	52	
2号土坑	93×86	64×60	50	
3号土坑	63×61	42×34	20	
4号土坑	88×86	67×57	64	
5号土坑	100×90	66×51	60	
6号土坑	176×162	80×80	92	底部に礫混入。
7号土坑	80×76	69×66	47	二次堆積の礫多量混入。

＊単位はcm。

柱穴観察表

遺構名	埋　土	開口部径	底部径	深　さ
1号柱穴	A	32×22	26×22	19
2号柱穴	B	32×26	12×10	32
3号柱穴	A	28×22	14×8	21
4号柱穴	B	51×40	26×22	21
5号柱穴	C	53×44	36×30	20
6号柱穴	B	32×30	20×13	18
7号柱穴	B	20×－	8×8	20
8号柱穴	B	42×40	26×22	27

＊単位はcm。

※埋土　A　5YR1.7/1黒色と7.5YR3/2黒褐色の混合土
B　5YR1.7/1黒色と7.5YR3/3黒褐色の混合土　炭化物含む
C　5YR1.7/1黒色と7.5YR3/4黒褐色の混合土　炭化物、川原礫含む

田屋遺跡掲載遺物観察表

掲載番号	遺跡名	出土地点	層　位	特　徴
1	田屋	1号土坑	埋土	縄文土器
2	田屋	1号土坑	埋土	縄文土器(小型壺)
3	田屋	2号土坑	埋土	縄文土器(甕)
4	田屋	2号土坑	埋土	縄文土器(浅鉢)
5	田屋	2号土坑	埋土	縄文土器(甕)
6	田屋	2号土坑	埋土	縄文土器
7	田屋	2号土坑	埋土	縄文土器
8	田屋	2号土坑	埋土	縄文土器
9	田屋	6号土坑	埋土	縄文土器(底部)
10	田屋	6号土坑	埋土	縄文土器
11	田屋	6号土坑	埋土	縄文土器
12	田屋	6号土坑	埋土	縄文土器
13	田屋	6号土坑	埋土	縄文土器
14	田屋	遺構外	Ⅱ層下部	縄文土器
15	田屋	遺構外	Ⅱ層下部	縄文土器
16	田屋	遺構外	Ⅱ層下部	縄文土器
17	田屋	遺構外	Ⅱ層	縄文土器
18	田屋	遺構外	Ⅱ層	縄文土器
19	田屋	遺構外	Ⅱ層	縄文土器
20	田屋	遺構外	Ⅱ層	縄文土器
21	田屋	遺構外	Ⅱ層下部	縄文土器
22	田屋	遺構外	Ⅱ層下部	縄文土器
23	田屋	遺構外	Ⅱ層下部	縄文土器
24	田屋	遺構外	Ⅱ層下部	縄文土器
25	田屋	遺構外	Ⅱ層下部	縄文土器
26	田屋	遺構外	Ⅱ層下部	縄文土器(台)
27	田屋	柱穴6	埋土	縄文土器
28	田屋	遺構外	Ⅳ層	縄文土器(台)
29	田屋	遺構外	ベルト周辺	縄文土器

4　一般県道永沢水沢線満倉地区歩道設置工事

兵法田遺跡（ＮＥ15－0311）

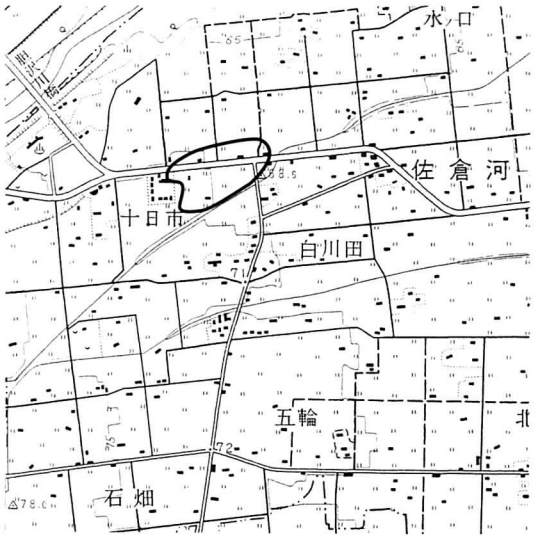
所在地：水沢市満倉地内

事業者：水沢地方振興局土木部

調査期日：平成18年１月25日～27日、
30日、31日（５日間）

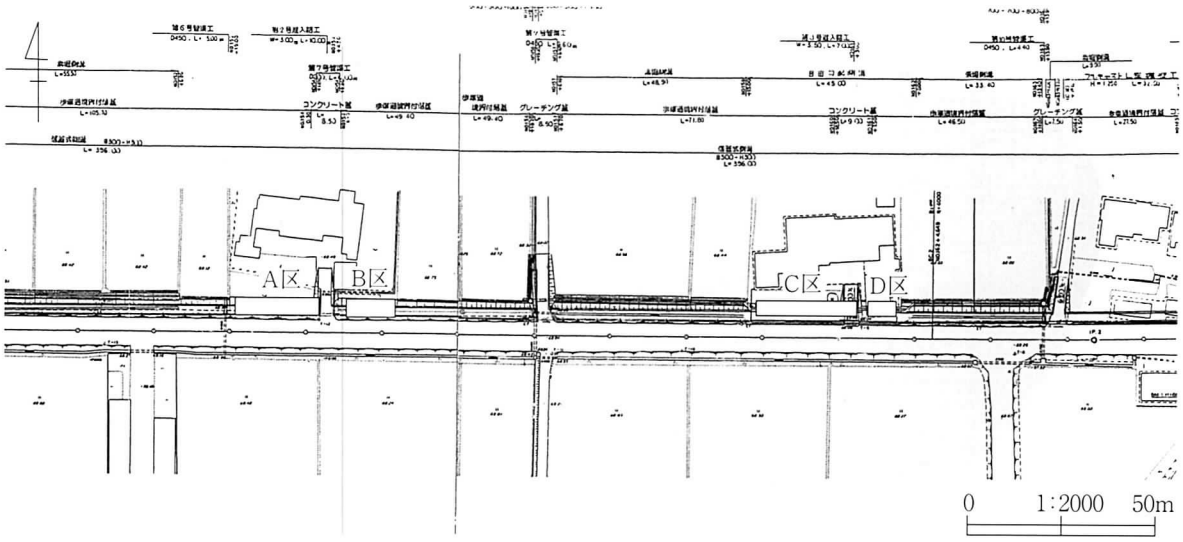
本遺跡はＪＲ東北本線水沢駅の北西約6.0kmの場所に位置し、奥羽山脈から東流する胆沢川によって形成された胆沢扇状地の北端、水沢段丘低位面に立地し、標高は68m前後を測る。

今回の調査は一般県道永沢－水沢線満倉地区の歩道設置工事に係わって、昨年度発掘調査を行った箇所に隣接する場所が対象で調査面積は約350㎡である。

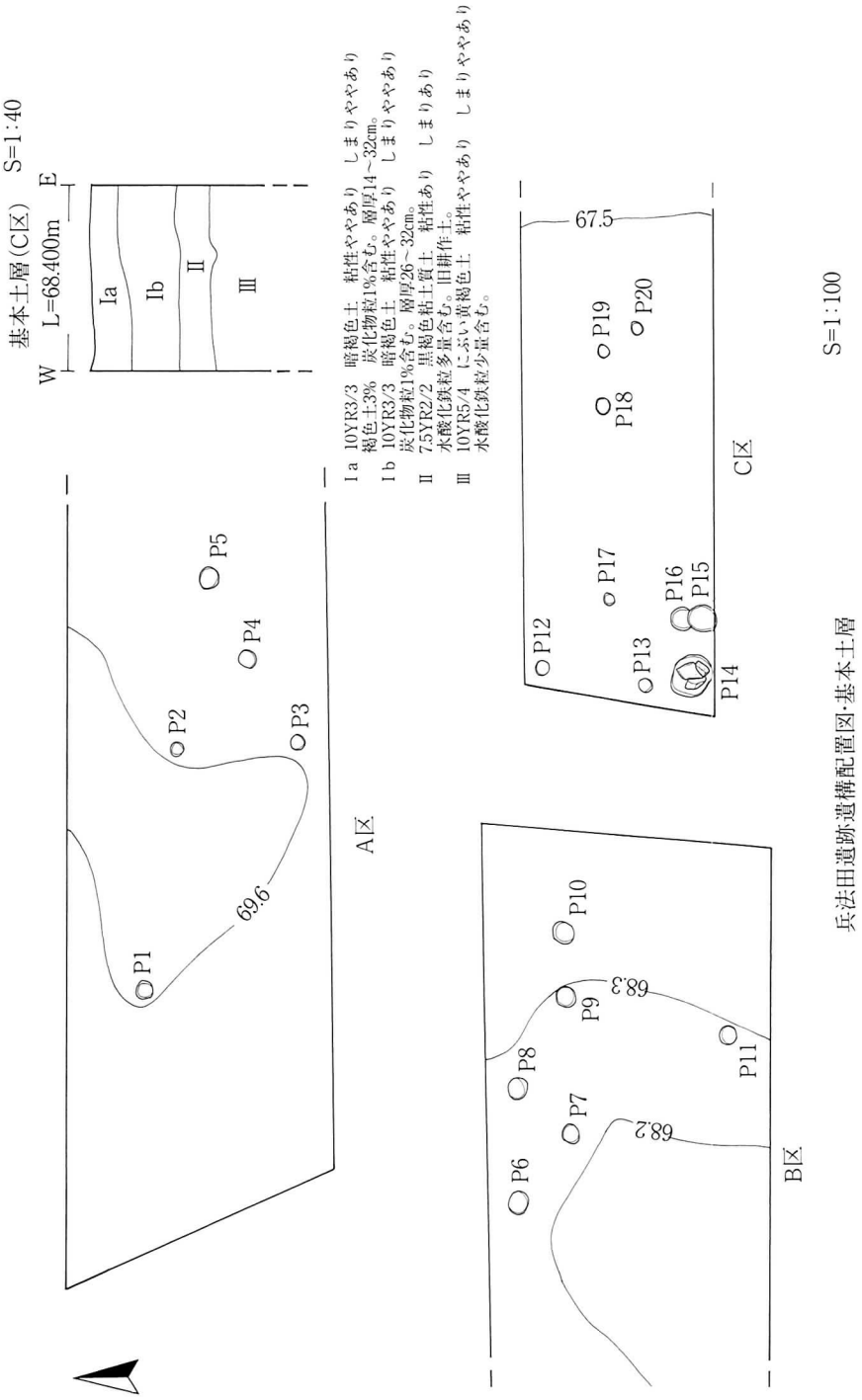


第12図　兵法田遺跡位置図

調査の結果、Ａ区・Ｂ区・Ｃ区から柱穴状の小土坑を20基確認した。各柱穴の検出面は第Ⅲ層のにぶい黄褐色土層上面で、規模は大きいもので径56×50cm、小さいものでは径20cm以下で埋土は黒褐色～暗褐色土である。柱穴の検出状況からは建物の構成は不明であるが、昨年調査した箇所が建物跡の中心であり、今回調査を行った箇所はその周縁部にあたると思われる。



第13図　兵法田遺跡調査区位置図



第14図　兵法田遺跡遺構配置図

5　学校施設整備事業（県立水沢農業高等学校）

中島遺跡（ＮＥ26－2098）

所在地：胆沢郡胆沢町小山字大深沢

事業者：岩手県教育委員会事務局学校財務課

調査期日：平成18年１月16日、17日、19日、20日

（試掘及び本発掘調査）

平成17年７月21日、10月５日、６日、

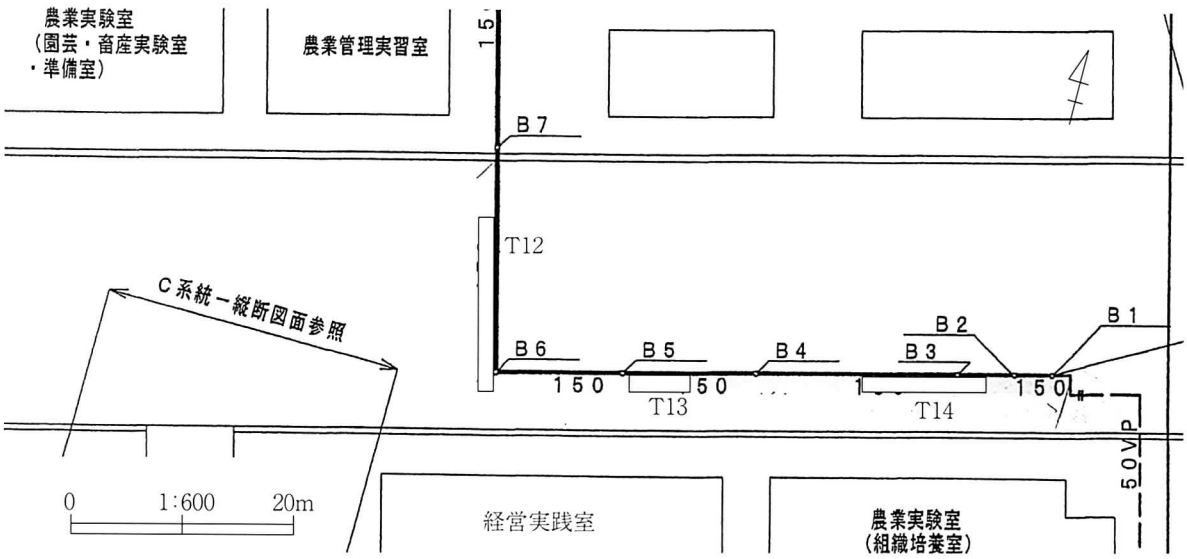
平成18年３月23日（試掘調査）

第15図　中島遺跡位置図

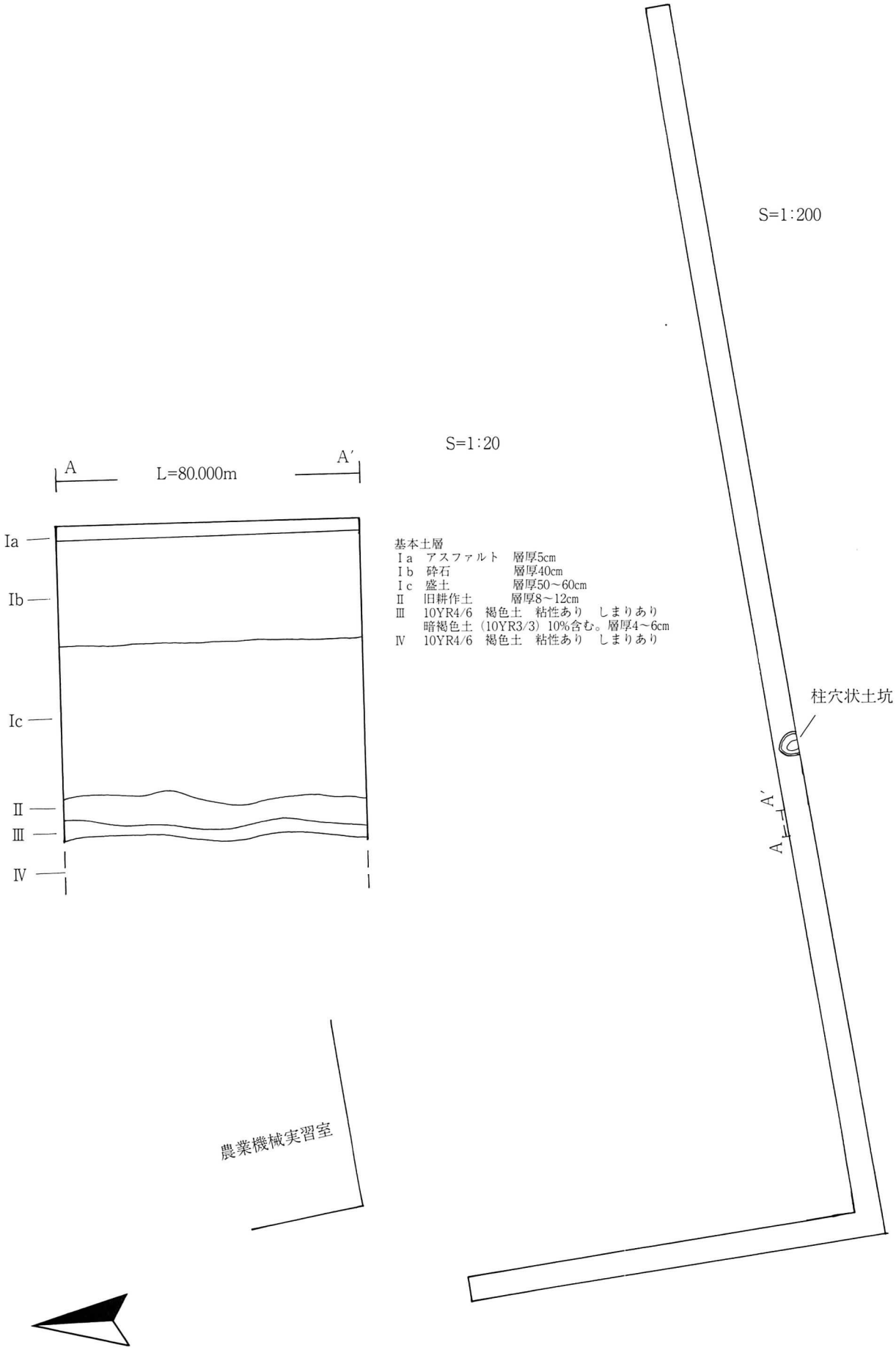
本遺跡は胆沢町役場より東に約4.0kmの場所に位置し、調査対象区は胆沢川によって開析された扇状地に立地する。現況は学校施設で、標高は80m前後を測る。

今回の調査は学校内の下水道施設整備事業に伴うもので、平成17年７月21日、同10月５日、同10月６日、平成18年３月23日に試掘調査を行った。試掘の結果、学校敷地内北側の大部分が旧水田跡で、開田時の掘削の影響で、埋蔵文化財が包蔵されている可能性のある第Ⅲ層・黒褐色土の残存状況が一部を除き、全体に悪く、それ以外の場所についても、学校施設の建設に伴う造成工事で地山まで掘削されている状況であることを確認した。平成17年10月５日及び同10月６日の調査でＴ13、Ｔ14の周辺で埋蔵文化財の可能性のあるプランが見つかり、これと水道管が埋設されていたために試掘による確認調査ができなかったＴ12を含めた約40㎡を対象に本発掘調査を実施した。

調査の結果、第Ⅲ層～第Ⅳ層（褐色土･地山）の残存状況は極めて悪く、前回までの試掘で遺構面を確認することができなかったＴ12付近については第Ⅳ層の上面まで掘削されており、Ｔ13、Ｔ14の周辺付近でのみ、第Ⅲ層が確認できる状況であった。検出した遺構は柱穴状土坑が１基で、遺構の規模は約50cm×30cm、地表下約110cmの深さで確認したが、遺構に伴う遺物は見つかっていない。また、前回の試掘でＴ14で確認した土坑状の遺構については精査の結果、風倒木痕であることが判明した。



第16図　中島遺跡調査区位置図



第17図　中島遺跡遺構配置図

6　一般国道455号バイパス事業

巣子Ⅵ遺跡（ＫＥ76－1251）

所在地：岩手郡滝沢村巣子地内

事業者：盛岡地方振興局土木部

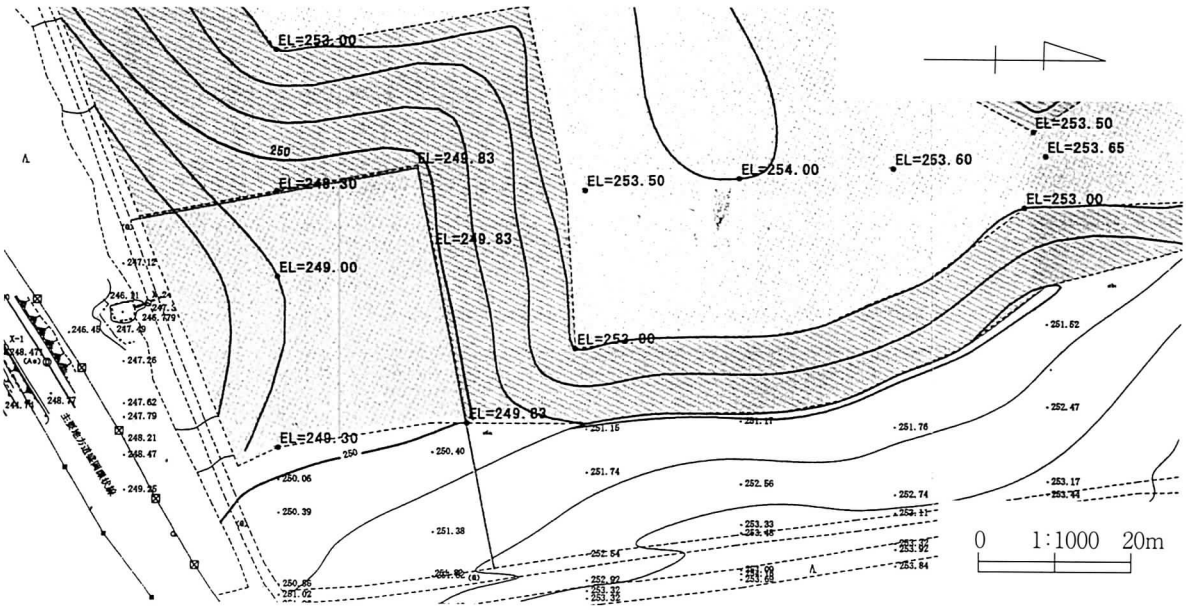
調査期日：平成17年７月７日～７月13日（延べ５日間）

本遺跡はＩＧＲいわて銀河鉄道線滝沢駅より西に約1.1kmの場所に位置し、現況は草地である。調査対象区は北上川右岸の沖積段丘上に立地する。現況は草地で標高は約247～251m前後を測る。

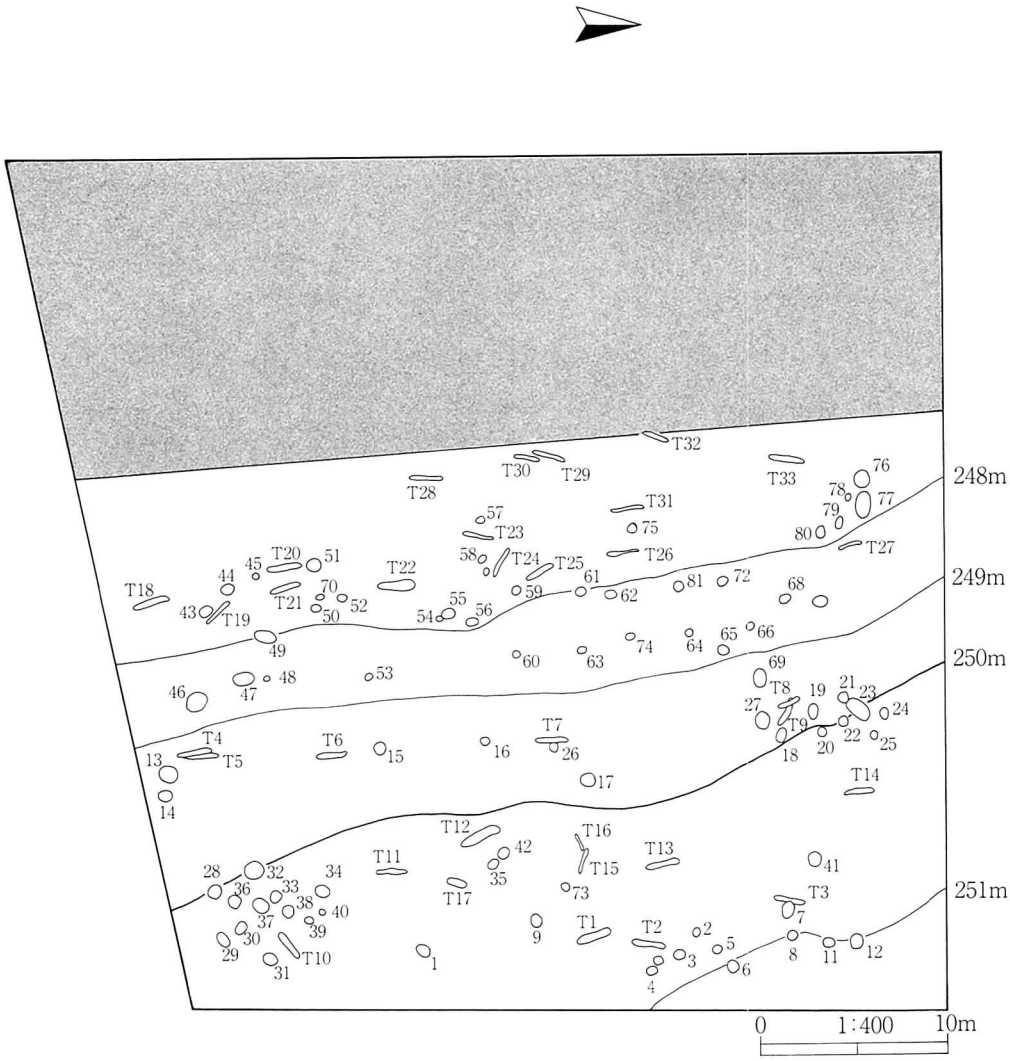
今回の調査は一般国道455号バイパス事業に伴う残土置き場確保のための調査で、表土除去後に遺構の検出を行う確認調査である。

第18図　巣子Ⅵ遺跡位置図

調査の結果、縄文時代の陥し穴状遺構33基、縄文時代以降の土坑80基が検出された。規模は土坑の口径部径が約0.8～2.2mで形状は円形・楕円形である。陥し穴状遺構の形状は溝状および長楕円形で、規模は開口部径の長軸が約2.0～4.5m、短軸が約0.1～1.4mで軸方向は東西にある。また、周辺から生活の痕跡である遺物が出土していないことから、この地が主に狩猟場として利用されていたことが考えられ、土坑とした中にも円形タイプの陥し穴状遺構となるものが含まれている可能性がある。また、調査対象区北側の低位面は旧沢跡が埋没した谷間地形になっており、湧水による影響で遺構の確認はできなかったが、確認できた遺構が調査不能であった範囲間際まで延びているため、遺構が低位面まで続いている可能性がある。



第19図　巣子Ⅵ遺跡調査区位置図



第20図　巣子Ⅵ遺跡遺構配置図

7　畑地帯総合整備事業東奥中山地区関連調査

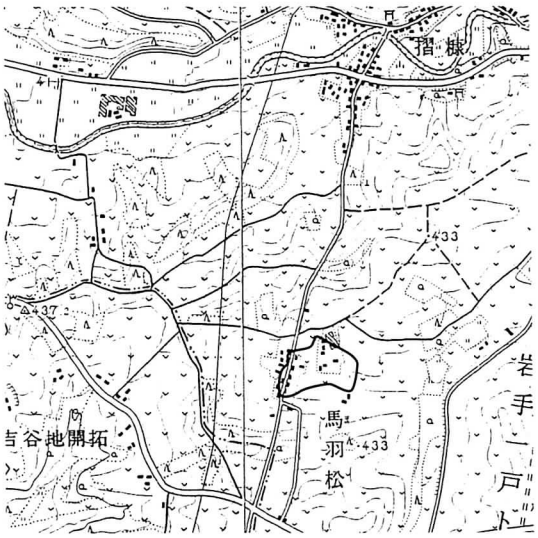
上家向遺跡（ＪＥ88－0346）

所在地：一戸町奥中山字上家向地内

事業者：二戸地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成17年９月28日～30日

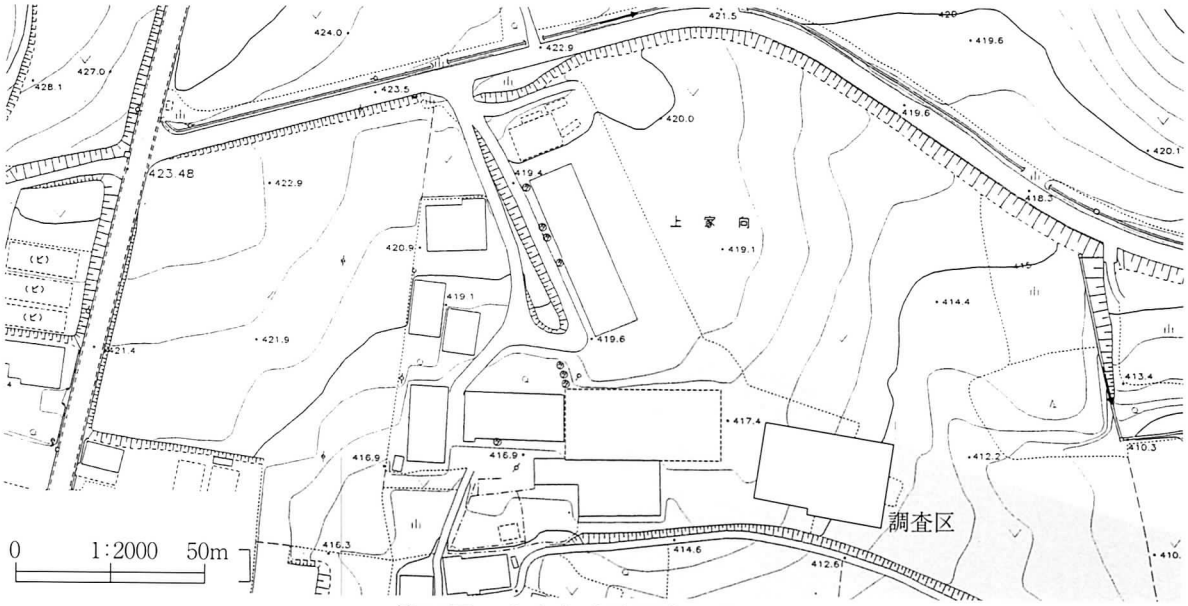
遺跡は、ＩＧＲいわて銀河鉄道奥中山駅南東約2.4kmに位置し、西岳から連なる高原に立地する。標高は410m前後を測り、現況は、主に畑地となっている。今回の調査は、畑地帯総合整備事業に係る堆肥舎設置によるものである。今年８月当課において試掘調査を行ったところ陥し穴１基が検出されたため、記録保存の発掘調査を実施した。



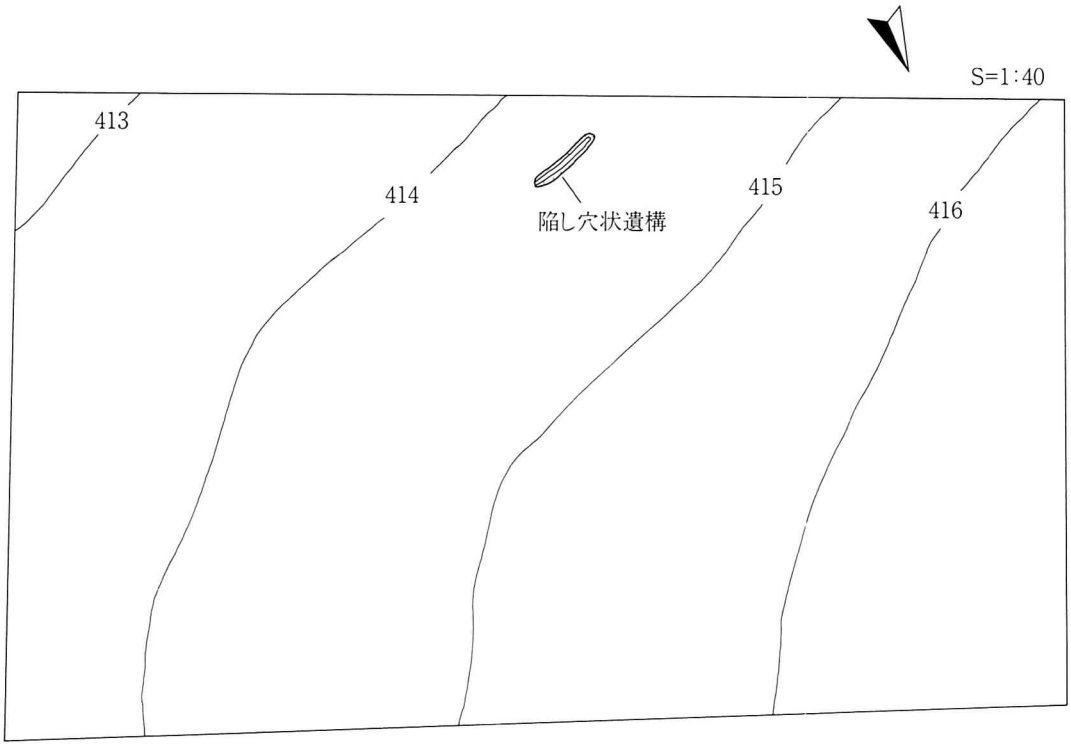
第21図　上家向遺跡位置図

調査の結果、検出された陥し穴状遺構は、平面形が細長い溝状で、断面形はT字状を呈する。規模は開口部の長さが300cm、幅が30～50cmで、底部の長さは約305cm、幅が10～25cm、深さが50～60cmあった。遺構の西端には逆茂木痕と思われる副穴を確認した。副穴の規模は、上場が25×20cmの楕円形、下場は径７cmの円形であり、深さは遺構の底部から約20cmあった。遺構の西端が上場より10cmほどえぐられる形で外側に広がっていたのは、副穴を掘削した際のものと推測される。遺構の埋土は、第１層が黒褐色土で一部に地山の明黄褐色土をブロック状に含んでいた。第２層は暗褐色土で第１層の黒褐色土、地山の黄褐色土をブロック状に含んでいた。第３層は明黄褐色土で第２層の暗褐色土粒を含んでいた。遺構の埋土からは遺物は確認されなかった。

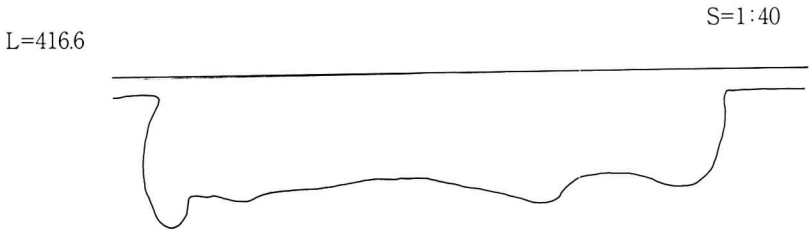
調査区周辺は、開拓地のため地形が大きく改変されており、旧地形のまま残っている箇所は少ない。陥し穴状遺構は確認された以外に数基存在した可能性は高いが、地形改変により今回確認された遺構以外は削平されたと思われる。確認された陥し穴状遺構は、規模などから遺構の底部が残った物と推測される。



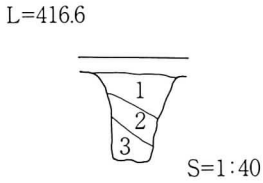
第22図　上家向遺跡調査区位置図



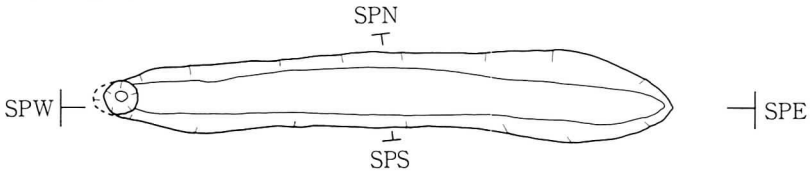
7-1　陥し穴状遺構断面



7-1　陥し穴状遺構
埋土断面



7-1　陥し穴状遺構平面



第23図　上家向遺跡遺構配置図

8　花巻空港整備事業

石持Ⅰ遺跡（ＭＥ16－2117）

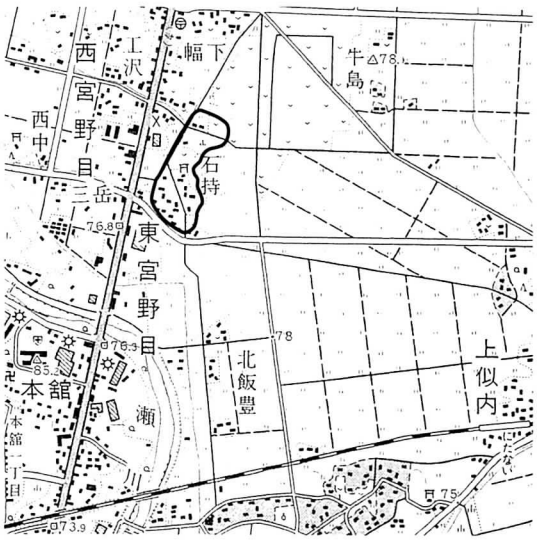
所在地：花巻市宮野目９・10地割

事業者：花巻空港事務所

調査期日：平成17年８月29日

本遺跡は、花巻市役所の北東約３kmに位置し、北上川によって形成された沖積地の西側に立地している。

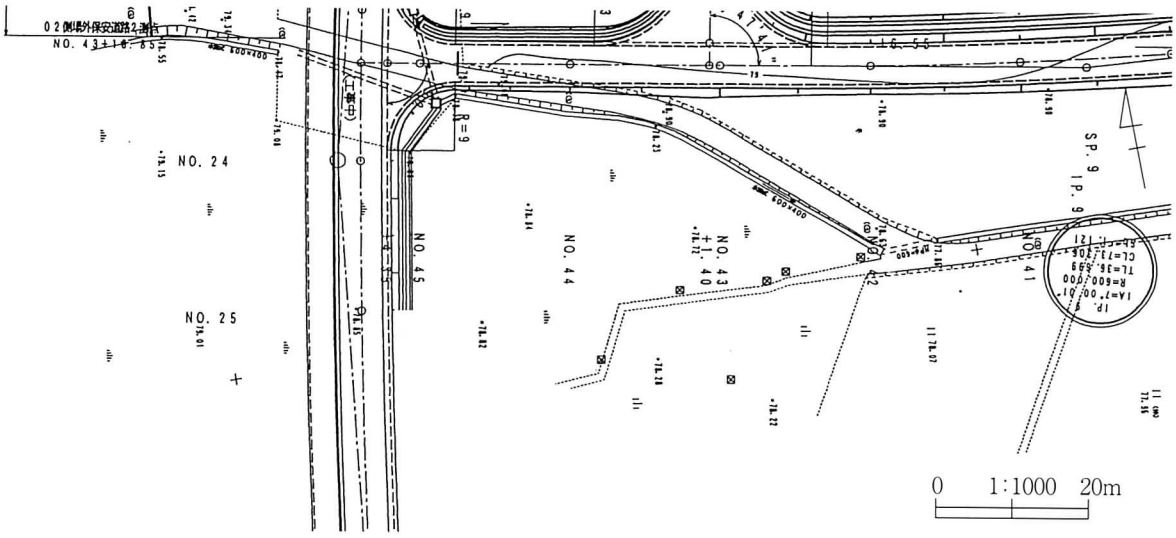
遺跡の標高は76～78m前後を測り、現況は水田となっている。今回の調査は、試掘調査の結果、埋蔵文化財が確認された砂利敷き道路設置箇所が調査対象地である。今回は道路の舗装を行わないことから、確認調査対応とした。



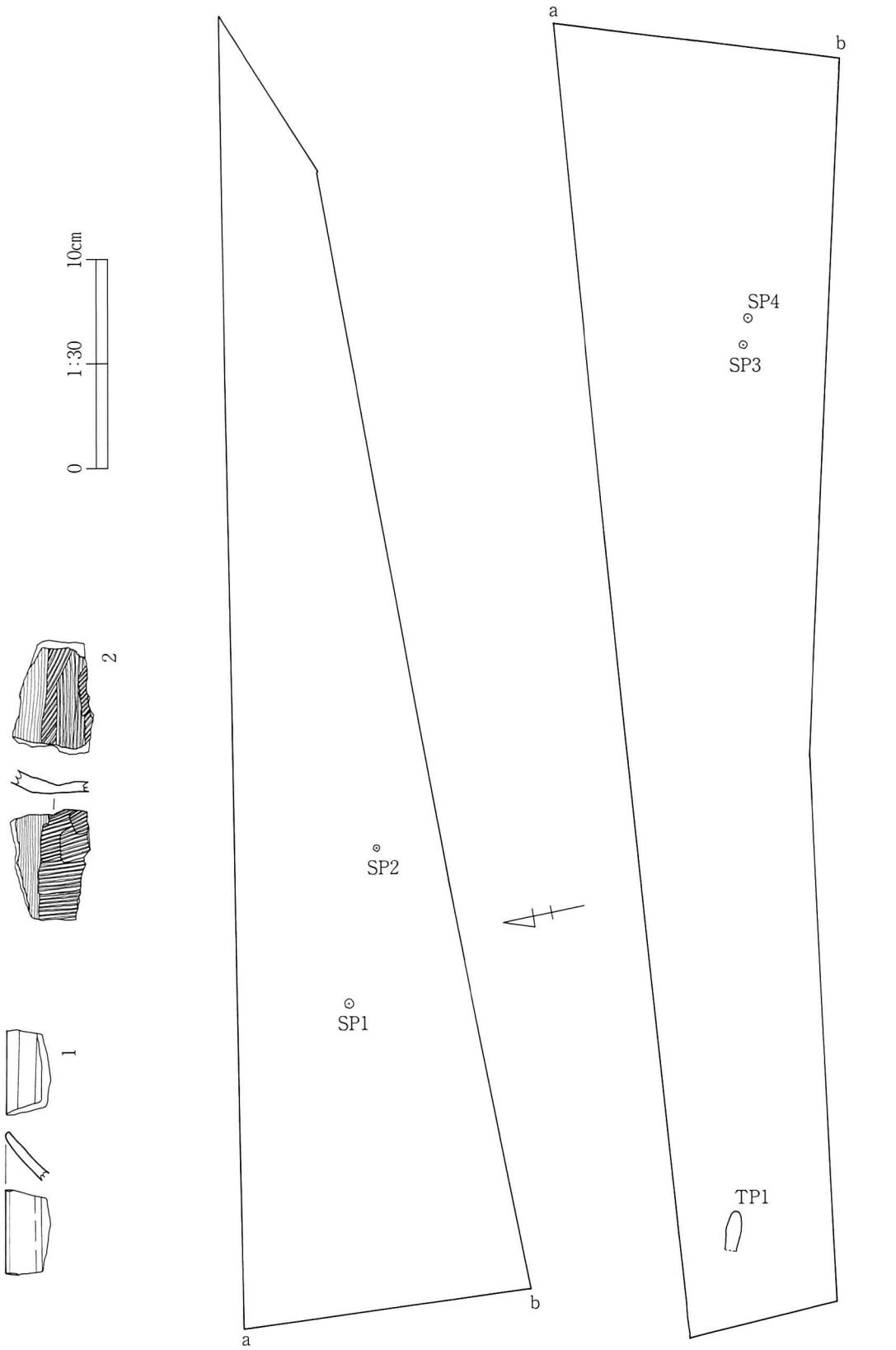
第24図　石持Ⅰ遺跡位置図

調査の結果、縄文時代の陥し穴状遺構１基、時期不明の柱穴状遺構４基が検出された。規模は陥し穴状遺構が50×16cmで東西方向に伸びているが、東側は削平されており残存していない。柱穴状遺構は調査区東側のトレンチから柱穴1，2が検出されているが、これらの径は20×20cmほどである。また、西側トレンチから検出された柱穴3，4は径24×20cm、径20×18cmほどのものである。

今回の調査においては陥し穴状遺構は１基しか検出されなかったが、前回、今回の隣接地を試掘した際、８基の陥し穴状遺構が検出されていることから、本調査区も狩り場の一部と考えられる。また柱穴状遺構は時期的なものについては不明であるが、前回も試掘調査の際、隣接地から竪穴住居跡や井戸状遺構が確認されていることから、それらに伴うものである可能性もある。



第25図　石持Ⅰ遺跡調査区位置図



石持Ⅰ遺跡掲載遺物一覧

掲載番号	遺跡名	出土地点	層　位	特　徴
1	石持Ⅰ	遺構外	Ⅱ層	土師器(口縁部)
2	石持Ⅰ	遺構外	Ⅱ層	土師器

第26図　石持Ⅰ遺跡遺構配置図

9　ほ場整備事業　大明神地区

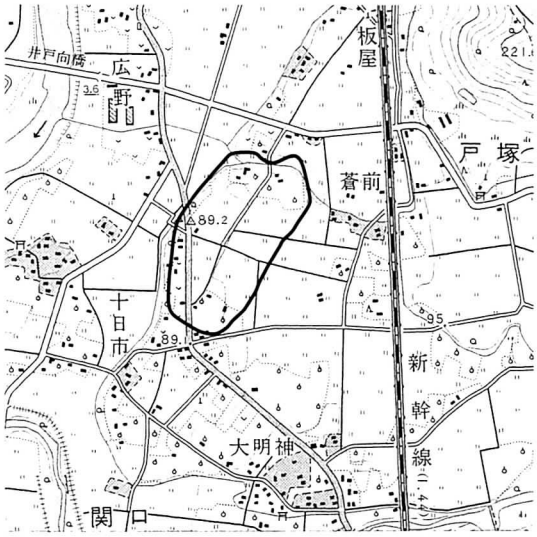
上野々遺跡（ＬＥ97－2160）

所在地：花巻市石鳥谷町新堀

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成18年３月３日

本遺跡は、花巻市役所石鳥谷総合支所の南東約2.8km、北上川によって形成された河岸段丘上に立地している。遺跡の標高は88～89mを測り、現況は水田となっている。本遺跡は平安時代の散布地として周知されているが、今回ほ場整備事業の実施に伴い今回の調査区の周囲を含め試掘調査を行ったところ、竪穴住居跡１棟、溝跡６条、柱穴状土抗24基が確認されている。今回の調査は前回の試掘調査範囲の北西部の支線道路建設部分が対象で、現表土を掘削せずに盛土し、アスファルト舗装を伴わずに工事を施工するということで確認調査を実施することになったものである。

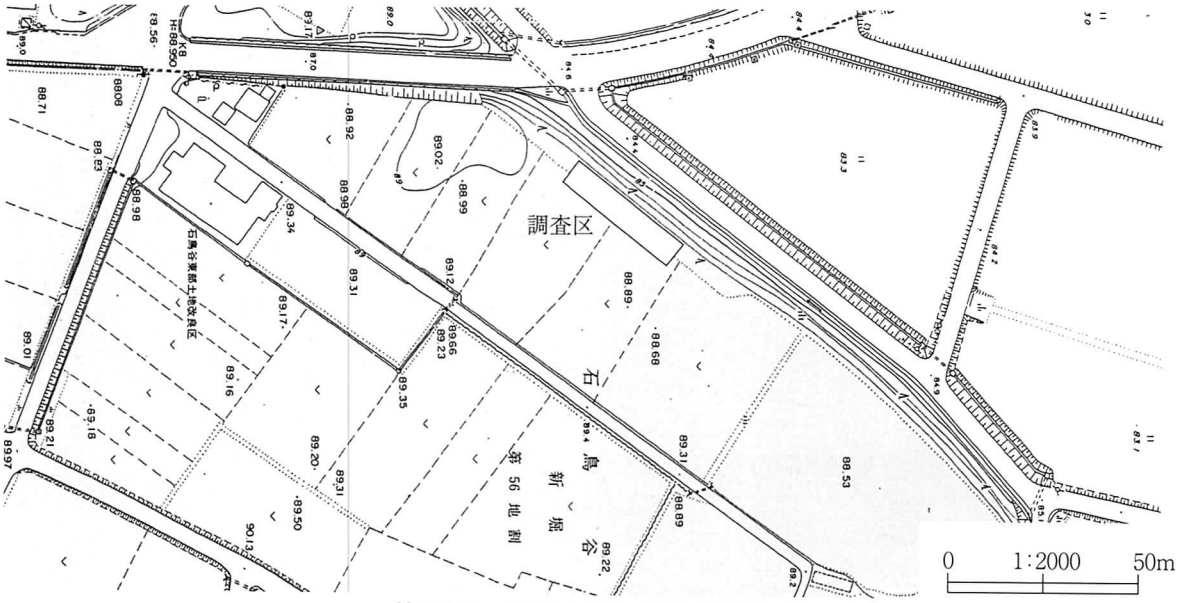


第27図　上野々遺跡位置図

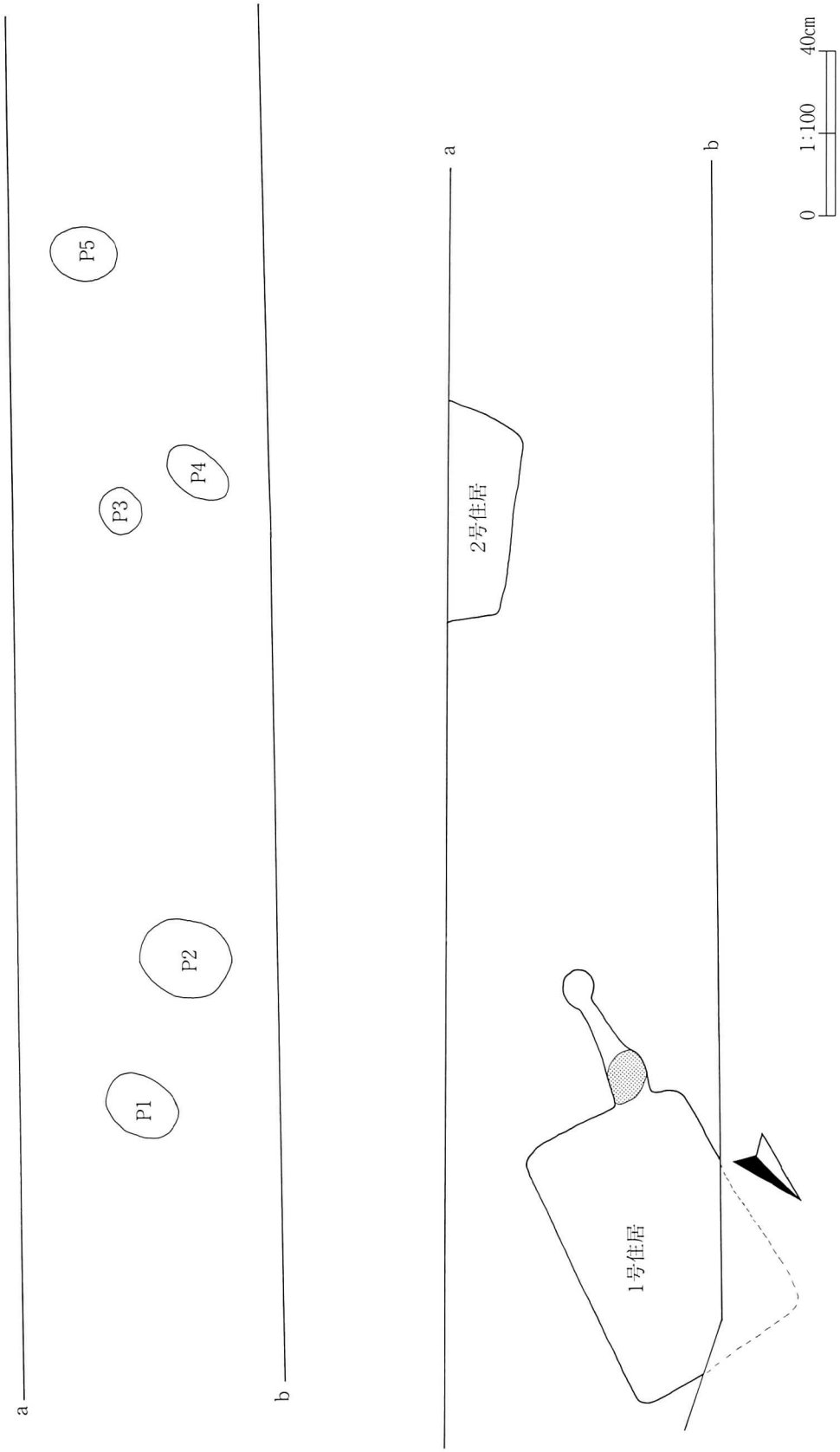
調査は試掘調査の際、トレンチを入れて竪穴住居跡が検出された調査区最北部から、要本調査範囲として示された南側地域へ掘り進める形で実施した。

調査の結果、以前の試掘調査で確認された竪穴住居跡１棟のほか、新たに竪穴住居跡１棟、土抗５基を確認した。試掘調査の際に確認された１号住居については平安時代の土師器片を伴っており、南西向きのカマド及び煙道が残存している。規模は430×260cmほどのものである。また、その南側に今回新たに発見された２号住居は一辺が260cmほどのものであり、土師器片も数片出土している。２号住居ついてはその一部が確認されたのみであり、カマドの向きについても明らかではないが、１号住居、２号住居とも同時期に存在していた可能性もある。また、平成16年度に実施した試掘調査においても１号住居の北東部の隣接地から同時期のものと思われる竪穴住居が確認されている。また、５基確認された土抗についてはいずれも竪穴住居跡の南西部に所在しているが、遺物は伴っておらず時期は不明である。ただ、遺構の配置から住居と土抗の位置がそれぞれ区分けされているようにも見える。また土抗の規模は最大のもので140cm×120cm、最小のもので70×60cmほどのものとその大きさは様々であるが、形状を見るとそのほとんどが楕円形状を呈している。このことからこれらの土坑が墓坑であり、調査区外の南東側にかけての一帯が墓域であった可能性もある。

今回の調査区は段丘の縁にあたっていたが、この段丘縁から東側の地域が集落であり、今回の調査でその一部が明らかになった。



第28図　上野々遺跡調査区位置図



第29図　上野々遺跡遺構配置図

10　県立花巻厚生・北上病院統合整備事業関連調査

蒲沢遺跡（ＭＥ45－2367）

所在地；北上市村崎野地区

事業者；医療局管理課

調査期日；平成17年６月１・２日８～10日

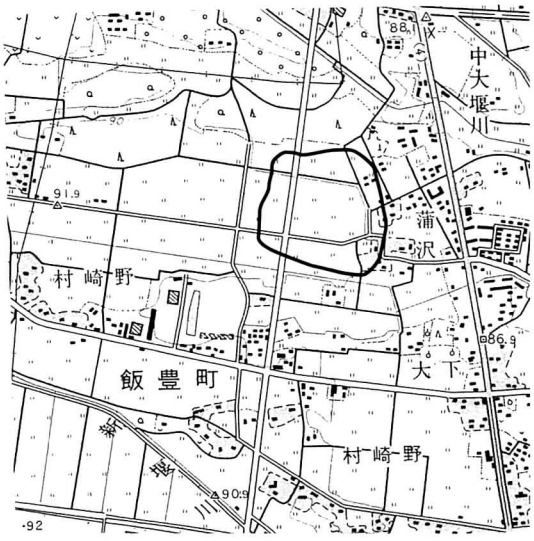
６月13～15日

７月14・15日　19・20日

９月１日～13日（延べ９日）

12月５日

平成18年２月１・２日



第30図　蒲沢遺跡位置図

遺跡は、ＪＲ東北本線村崎野駅の北西約1.3km、大堰川と新堰川に挟まれた河岸段丘上に位置し、標高は88m前後を測り、現況は宅地と水田である。本遺跡は、県立花巻厚生・北上病院統合整備事業に伴い、６月１・２日に試掘調査を行ったところ、土器、遺構等が確認されたことから新規遺跡に登録された箇所である。

６月８～10日、13～15日に行った試掘調査は、調査対象地域の遺構の広がりを確認するためであった。調査の結果、陥し穴状遺構12基、土坑６基、溝状遺構27条、焼土遺構６基が確認された。遺物は、縄文晩期と思われる土器片が出土した。

調査対象地域は、昭和50年代、平成７年前後の二度にわたりほ場整備が行われている。そのため病院本体建設予定地周辺及び東側では、現耕作土、旧耕作土直下が褐色の地山であった。確認された遺構は、掘り込みが深かったため残存し、上面は削平されたと推測される。

調整池建設予定地の南側田面は現道より1.5mほど低く、表土直下地山であった。北側は、表土から1.5mが盛土で、その下層に湿地土の黒褐色土、さらに下層にグライ化した層や湧水を確認した。このことから、前回までのほ場整備の際、標高が高い南側を切り土し、その土を低地で湿地であった北側部分に盛土したことが分かった。

７月14・15日、19・20日の調査は、６月の試掘調査結果から試掘トレンチが再度必要となった箇所にトレンチを設定した。

前回の調査で焼土遺構が確認された調整池建設予定地東側を再度試掘調査した結果、焼土遺構が確認された周辺は、層序から過去２回ほ場整備が行われたことが分かった。焼土遺構は、３基とも旧耕作土上面で確認した。焼土遺構に地山粒、耕作土が含まれていること、周辺に焼土粒が帯状に広がることから、現地性の焼土ではなく、一回目のほ場整備後に、何らかの原因で窪地に廃棄されたものであると判断した。

調査区北側の道路新設部分は、前回の調査同様、盛土が厚く堆積しその下層に地山である褐色土を確認した。さらに下層は地山がグライ化しており湧水も確認した。

道路拡幅部分では、溝状遺構を１条確認した。６月の調査の溝と同一のものと考えられ、現道下に延びていた。調査区北側では、地山下層の明黄褐色土を確認したことから、調査区北側の道路拡幅部分も、２回のほ場整備で旧地形が大きく改変されていることがわかった。

調査区南側の駐車場予定地で新たには土坑１基、陥し穴１基を確認した。

調査区北側は、調査の結果、北東に向かって斜面している。この斜面に一回目のほ場整備の際、田面とならなかった黒褐色土（旧表土）を確認することができた。この旧表土に、葦などの湿地に生える植物根が多く

混じっていたこと、斜面では地山を検出すると湧水がみられたこと、地山下層には灰褐色粘土層があり水はけが悪いことなどから、湿地であったと推測した。このことから、調整池の排水路部分全体にトレンチを入れる必要がないと判断した。

２度の試掘調査で陥し穴状遺構13基、土坑７基、溝25条、焼土５基が確認された。

９月に行った調査は、病院建設予定地南側の駐車場予定地及び構内道路建設予定箇所、構内道路予定箇所と外周道路建設予定箇所に挟まれた緑地予定箇所が対象で、現表土を掘削せずに盛土を施すという工事内容から確認調査を行うこととした。調査は、前回入れたトレンチの両側にトレンチを設定し、調査対象面積増やし、遺跡の状況を把握する方法をとった（T1～T45）。

調査の結果、新たに陥し穴状遺構36基、土坑25基、柱穴状遺構42基、溝状遺構3条を確認した（出土遺構一覧参照）。T27において、埋土中に弥生土器片を伴った土坑（22土坑）を確認したが、遺構の形状から墓坑の可能性も考えられる。T27周辺は、耕作土直下褐色土で、確認された遺構上面は、ほ場整備の際に削平されたものと考えられる。

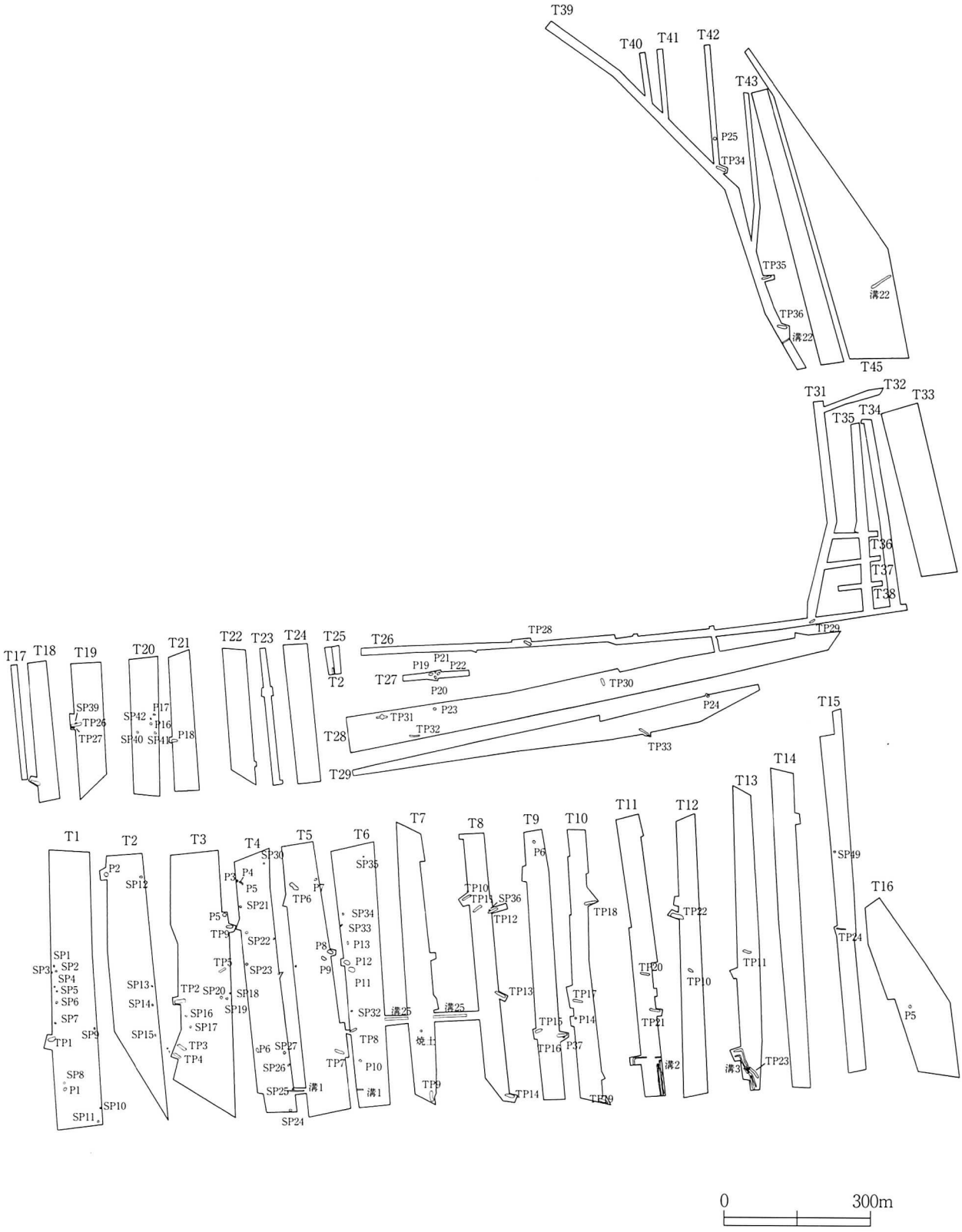
12月と２月に行われた調査は、病院建設に伴って敷設替えするパイプライン・排水路新設箇所、地区外道路、雪解け水・暗渠排水を仮設の防災池に放流すための放流工予定地、病院敷地内の雨水を調整池に流すための流入路予定地が対象である。調査対象箇所に24本のトレンチを設定した（T46～T70）。

調査の結果、パイプライン新設予定箇所のT46で陥し穴状遺構１基を確認した。遺構の規模は長軸が170cm、短軸が50cmであり、遺構埋土は黒色土であった。遺構が確認されたトレンチは基本層序どおりで、旧耕作土である暗褐色土下層に漸移層が確認できなかったことから、開田時に地山まで削平をうけたことが伺えた。このことから、確認された遺構は、遺構の上面は削平され、遺構の底部に近い部分が残ったものと思われる。

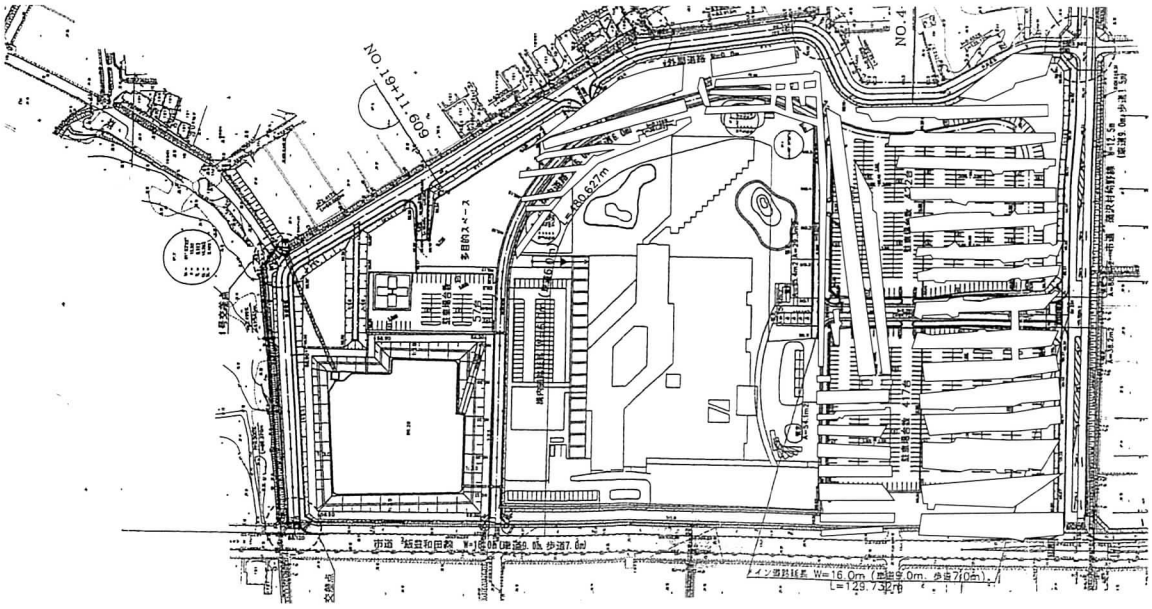
排水路新設箇所に設定したT51では、溝１条を確認した。遺構の規模が幅50cm前後あり、東西方向に延びていること、確認された場所などから、今年度の６月に当課で行った試掘調査で確認された溝の一部と考えられる。

調査対象箇所は、現道であったため、いずれのトレンチも盛土が70～100cmと厚かった。T53～T57、T69、T70では、盛土下層は黄褐色粘土質土の地山であった。T58～T60では、盛土下層に旧表土を確認したが遺構及び遺物は確認できなかった。T61～T64では、盛土に旧耕作土が大量に含まれていた。T65～T68では、上層部はすでに削平されており、表土が地山の黄褐色土粘土質土であった。

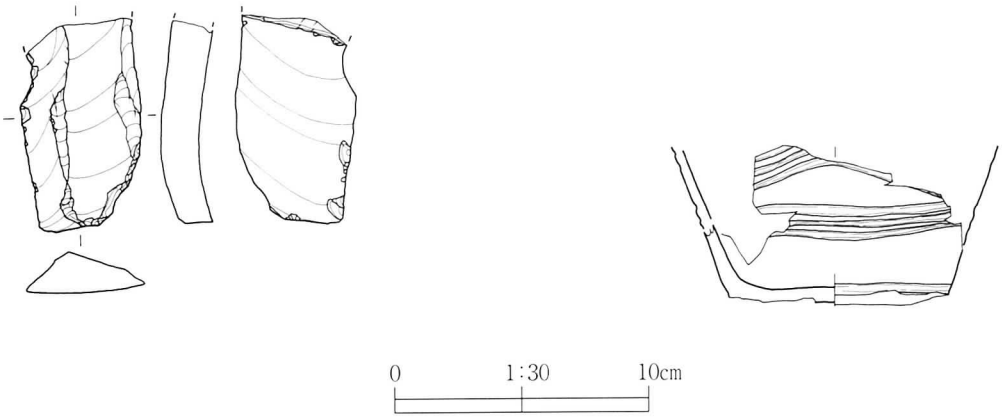
以上の結果、病院建設予定箇所は、開田及びほ場整備により旧地形が大きく改変されているが、確認された遺構は陥し穴状遺構、土坑等であり、住居跡が確認されず、遺物がほとんど出土しなかったことから、狩場であった可能性が高い。集落跡は蒲沢遺跡周辺に所在するものと考えられる。



第31図　蒲沢遺跡遺構配置図



第32図　蒲沢遺跡調査区位置図



蒲沢遺跡掲載遺物一覧

掲載番号	遺跡名	出土地点	層　位	特　徴
1	蒲沢			石器(剥片)
2	蒲沢			縄文土器(底部)

第33図　蒲沢遺跡出土遺物

蒲沢遺跡出土遺構　確認調査

トレンチ	出土遺構	規模	備考
T1	柱穴状遺構1	30×30cm以上	
	柱穴状遺構2	30×20cm	
	柱穴状遺構3	35×35cm以上	
	柱穴状遺構4	30×30cm	
	柱穴状遺構5	25×20cm	
	柱穴状遺構6	35×25cm	
	柱穴状遺構7	40×20cm	
	柱穴状遺構8	25×20cm	
	陥し穴状遺構1	245×100cm	
	土坑1	95×80cm	三角形
	柱穴状遺構9	25×20cm	
	柱穴状遺構10	45×20cm	楕円形
	柱穴状遺構11	70×20cm	楕円形
T2	土坑2	170×160cm	卵形
	柱穴状遺構12	25×25cm	
	柱穴状遺構13	20×15cm	
	柱穴状遺構14	30×30cm	
	柱穴状遺構15	40×30cm	
T3	陥し穴状遺構2	310×70cm	
	陥し穴状遺構3	280×85cm	
	陥し穴状遺構4	245×70cm	
	柱穴状遺構16	30×30cm	
	柱穴状遺構17	25×25cm	
	陥し穴状遺構5	225×45cm	
	柱穴状遺構18	40×30cm	
	柱穴状遺構19	30×20cm	
	柱穴状遺構20	35×30cm	
T4	土坑3	50×40cm	
	土坑4	65×40cm	
	土坑5	65×55cm	楕円形
	柱穴状遺構21	30×30cm	
	柱穴状遺構22	30×30cm	
	柱穴状遺構23	45×20cm	楕円形
	土坑6	90×80cm	
	溝1		
	柱穴状遺構24	35×35cm	
	柱穴状遺構25	25×20cm	
	柱穴状遺構26	50×30cm	楕円形
	柱穴状遺構27	25×20cm	
	柱穴状遺構28	30×30cm	
	柱穴状遺構29	30×30cm	
	柱穴状遺構30	50×20cm	楕円形
T5	陥し穴状遺構6	290×100cm	
	柱穴状遺構31	25×25cm	
	土坑7	80×30cm	
	土坑8	185×80cm	楕円形
	土坑9	150×80cm	楕円形
	陥し穴状遺構7	290×40cm	
T6	土坑10	50×50cm	
	陥し穴状遺構8	230×30cm	
	柱穴状遺構32	30×20cm	
	土坑11	180×150cm	
	土坑12	200×105cm	
	土坑13	90×35cm以上	東半分トレンチへ
	柱穴状遺構33	35×35cm	
	柱穴状遺構34	30×20cm	
	柱穴状遺構35	45×20cm	

トレンチ	出土遺構	規模	備考
T7	陥し穴状遺構9	305×50cm	
T8	陥し穴状遺構10	290×40cm	
	陥し穴状遺構11	300×40cm	
	陥し穴状遺構12	320×40cm	
	柱穴状遺構36	40×35cm	
	陥し穴状遺構13	325×70cm	
	陥し穴状遺構14	310×50cm	
T9	陥し穴状遺構15	220×60cm	
	陥し穴状遺構16	280×50cm	
	柱穴状遺構37	45×45cm	
T10	土坑14	50×50cm	
	陥し穴状遺構17	270×30cm	
	陥し穴状遺構18	350×35cm	
	陥し穴状遺構19	280×30cm	
T11	陥し穴状遺構20	320×30cm	
	溝2		時期不明4条まとめて
	陥し穴状遺構21	300×60cm	
T12	陥し穴状遺構22	350×70cm	
T13	陥し穴状遺構23	390×35cm	
	溝3		時期不明4条まとめて
T15	陥し穴状遺構24	270×25cm	
	柱穴状遺構38	30×30cm	
T16	土坑15	90×70cm	
T18	陥し穴状遺構25	325×65cm	
T19	陥し穴状遺構26	320×60cm	
	陥し穴状遺構27	120以上×30cm	
	柱穴状遺構39	25×20cm	
T20	柱穴状遺構40	45×25cm	楕円形
	柱穴状遺構41	50×20cm	楕円形
	土坑16	75×50cm	
	柱穴状遺構42	25×20cm	
	土坑17	65×40cm	
T21	土坑18	180×75cm	
T26	陥し穴状遺構28	240×60cm	
	陥し穴状遺構29	175×65cm	
T27	土坑19	140×80cm	
	土坑20	110×50cm	
	土坑21	55×50cm	
	土坑22	120×70cm	弥生土器出土
T28	陥し穴状遺構30	210×60cm	
	陥し穴状遺構31	340×30cm	
	陥し穴状遺構32	300×25cm	
	土坑23	80×70cm	
T29	土坑24	80×30cm	
	陥し穴状遺構33	320×55cm	
T42	土坑25	65×40cm	
	陥し穴状遺構34	315×80cm	
T39	陥し穴状遺構35	280×20cm	
	陥し穴状遺構36	280×35cm	

蒲沢遺跡遺構観察表（1）

蒲沢遺跡出土遺構　試掘調査１回目

トレンチ	出土遺構	規模	備考
T39	焼土1	45×60	層厚５cm、表土下120cm
T39	焼土2	108×80	層厚16～20cm、表土下120cmより検出
T39	焼土3	55×40	層厚20cm、表土下100cmより検出
T40	溝1		幅70cm
T41	溝1		T40と同じ溝と考えられる
T42	溝1		T40と同じ溝と考えられる
T43	溝1		T40と同じ溝と考えられる
T53	土坑1	100×50	表土下30cm
T53	陥し穴1	40×　？	溝の可能性あり
T53	溝2	幅40cm	
T53	溝3	幅30cm	
T53	溝4	幅20cm	
T53	溝5	幅20cm	
T53	溝6	幅20cm	
T54	溝7	幅30cm	
T54	溝8	幅30cm	
T55	溝9	幅40cm	
T57	溝10	幅30cm	
T58	土坑2	90×90	表土下50cm、古代以前の可能性あり
T58	溝11	幅30cm	
T58	溝12	幅20cm	
T59	土坑3	120×50	表土下60cm
T60	溝13	幅30cm	
T61	土坑4	70×70	表土下60cm
T61	溝14	幅20cm	
T62	溝15	幅20cm	
T62	溝16	幅30cm	
T62	溝17	幅20cm	
T63	溝18	幅20cm	
T63	溝19	幅130cm	
T63	溝20	幅20cm	
T63	溝21	幅20cm	
T64	溝22	幅70cm	
T69	溝23	幅70cm	T64と同じ溝と考えられる
T69	土坑5	170×90	
T111	陥し穴2	220×50	南北方向、表土下40cm
T119	陥し穴3	320×40	北西から南東方向、表土下40cm
T119	溝27		南北方向から東西方向へ
T120	陥し穴4	330×30	北西から南東方向、表土下40cm
T121	陥し穴5	290×40	東西方向(トレンチ西端より検出)、表土下30cm
T121	陥し穴6	250×30	東西方向(トレンチやや西側より検出)、表土下40cm
T122	陥し穴7	310×15	東西方向、表土下40cm
T122	陥し穴8	190×50	東西方向(トレンチ東側より検出)、表土下50cm
T122	溝27		T119と一連のもの　南北方向
T123	溝27		T119と一連のもの　南北方向
T128	焼土4	35×30	層厚20cm、表土下30cm
T138	陥し穴9	200×80	東西方向
T138	土坑5	80×80	
T139	溝24	3m	
T139	溝25	24m	
T140	溝23		
T141	溝26		
T142	焼土5	50×30	
T143	土坑6	80×70	
T146	陥し穴10	240×35	東西方向、表土下30cm
T147	陥し穴11	240×50	東西方向、表土下30cm
T150	陥し穴12	230×40	東西方向、表土下35cm

試掘調査２回目

T167	溝	幅70cm	T64、T69と同一のものと考えられる
T171	土坑	60×60	表土下40cm
T172	陥し穴	320×60	表土下40cm

T39の焼土遺構３基は、現地性の物ではないと判断した。

蒲沢遺跡遺構観察表（２）

Ⅱ　試掘調査

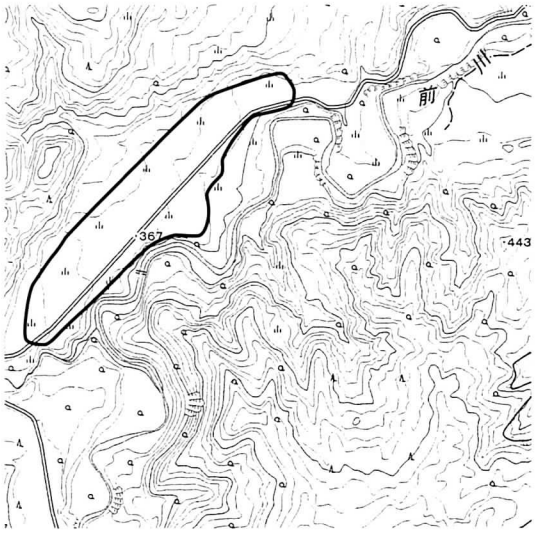
1　胆沢ダム建設事業関連調査

大平野Ⅱ遺跡（ＮＥ30－2300）

所在地：胆沢郡胆沢町若柳字大平野地内

事業者：国土交通省東北地方整備局
　　胆沢ダム工事事務所

調査期日：平成17年５月30日、６月８日～10日、
　　14日～15日、20日～21日、29日～７月１日、
　　４日～６日、11日～12日、19日～22日、
　　25日～29日　計25日間



第34図　大平野Ⅱ遺跡位置図

遺跡は、胆沢町役場の南南西方向約19kmに位置し、胆沢川支流前川左岸に形成された扇状地状の傾斜地に立地している。遺跡の南側を前川が東流し、山から数本の沢が前川に流れている。

今回の調査は、胆沢ダム建設事業に伴うもので、ダム堤体構成具材（フィルター材）採取予定区域が対象である。旧来の遺跡範囲及びその隣接地箇所に166本のトレンチを設定した（T1～T166）。

前川に注ぐ小寒沢より東側調査区にT1～T47を設定した。山裾に隣接した区域においては、山際を流れる沢によるものか、グライ化した地山面が広がってみられ、遺構及び遺物は確認できなかった。

調査区における基本層序は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層暗褐色土（20～50cm大の礫を多く含む。）、第Ⅳ層褐色土（検出面）、第Ⅴ層褐色砂質シルト、第Ⅵ層褐色礫層の順であり、トレンチよっては、第Ⅱ層、第Ⅲ層、第Ⅳ層がみられないところもあった。

斜面の中腹から南側にかけて遺構及び遺物が確認された。遺物は縄文時代のものであった。遺構については、密集して検出はされなかったが、広範囲にわたって住居状遺構、溝跡、土坑、陥し穴状土坑が確認された。特にも小寒沢周辺に住居状遺構が多く検出された。

小寒沢からさらに西側に所在する沢までの緩やかな傾斜地にT48～T96を設定した。かつて所在した放牧場の造成等による地形改変を受けていると思われる箇所が、広範囲に及んでいたものの、遺構及び遺物が確認された。小寒沢西側に設定したT50においては、縄文時代の遺物を多く含む遺物包含層が確認されたほか、比較的標高の高い丘陵上の平場において、縄文時代前期のものと推測される土器を伴った竪穴住居状遺構や土坑、焼土等の遺構が確認された。

沢からさらに西側の傾斜地にT97～T166を設定した。やや山際に近い平場に設定したT101において、縄文時代後晩期のものと推測される土器を伴った土坑が検出されたほか、住居状遺構、溝跡等の遺構がまばらに検出された。また、旧来の遺跡範囲外ではあるが、前川に近い傾斜地に設定したT162及びT164においても、縄文時代のものと思われる竪穴住居跡及び土坑等の遺構が検出された。このことから、遺跡範囲は拡大するものと思われる。

以上のことから、今回の調査区において、遺構密度は薄いものの広範囲にわたって縄文時代前期と後期の集落が営まれており、時期によって集落が所在する場所が変化していたことが伺えた。

なお、今回の試掘調査では縄文時代中期に属する土器は出土していない。（平成18年度本発掘調査予定）

第35図　大平野Ⅱ遺跡調査区位置図

2　いさわ南部農地整備事業関連調査

宮沢原下遺跡（ＮＥ23－2347）

所在地：胆沢郡胆沢町小山地内

事業者：東北農政局いさわ南部農地整備事業所

調査期日：平成17年７月14日～15日

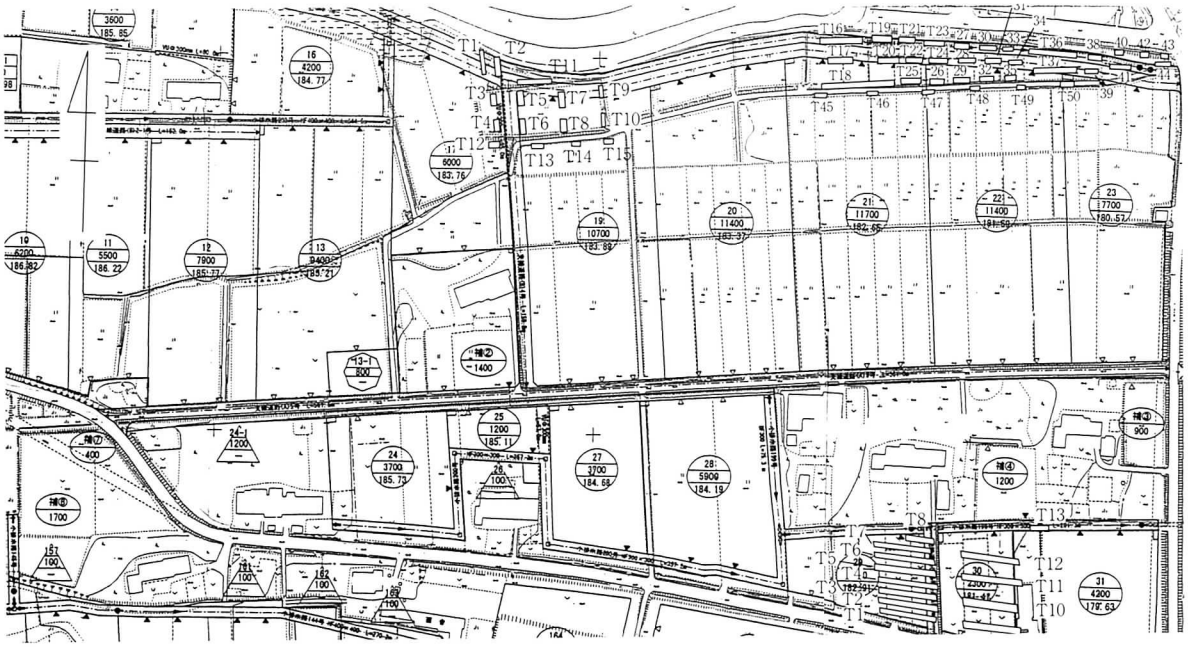
遺跡は、胆沢町役場の西約５kmに位置し、胆沢川によって開析された扇状地の南側に立地している。遺跡の現況は水田跡で標高は約179～182mを測る。

今回の調査はほ場整備に伴うもので、南側の調査区にトレンチを13本、北側の調査区にトレンチを50本設置した。調査の結果、いずれの調査区も過去の整備事業において地形が改変され、縄文時代以降の堆積層の大部分が削平されている状況であった。

第36図　宮沢原下遺跡位置図

北側調査区は現在でも低地のため、大部分が湿地状態の中にある。表土下、第Ⅱ層には盛土が施され、その下部には暗渠が設置されている。遺構はA区北西に位置したT1・T11で溝状遺構が確認されたが、埋土の状況から近・現代の遺構と考えられる。その他に、北側調査区のトレンチからは遺構や遺物は見つかっていない。

南側調査区からはT3の中央部やや西寄りから径80×75cmの土坑、T7のほぼ中央部から径80×80cmの土坑が各１基検出された。また東側調査区からはT11の中央部やや西側の一段低い面から径80×85cmほどの土坑が、また同トレンチの中央やや東側から径45×45cmの柱穴状土坑がそれぞれ検出された。また同調査区の北側に設置したT12の東端の調査区内で最も低い面からは径150×100cmの楕円形の陥し穴状遺構が１基検出され、北側から続く狩猟場の一部であることが確認された。



第37図　宮沢原下遺跡調査区位置図

3　一般県道二戸一戸線堀野地区整備事業関連調査

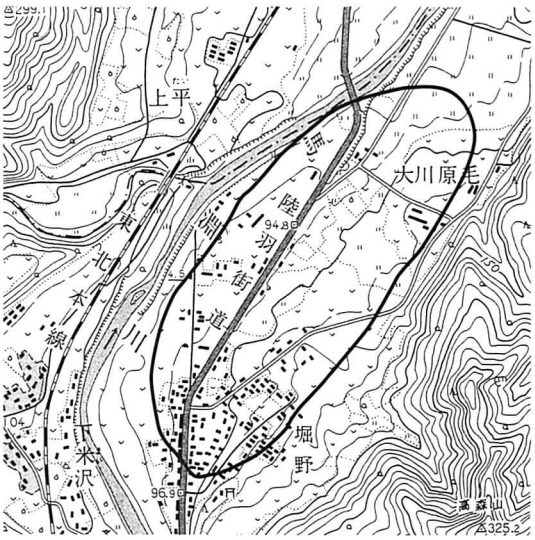
堀野遺跡群（ＩＦ90－0000）

所在地：二戸市堀野地内

事業者：二戸地方振興局土木部

調査期日：平成17年９月１日～２日、５日～６日、
８日～９日、11月14日、11月16日、12月5日

遺跡は、二戸市役所の北北東方向約2.4kmに位置し、馬淵川右岸の河岸段丘上に立地している。本遺跡は、過去に発掘調査が数度実施され、縄文時代の配石遺構をはじめ、古代の竪穴住居跡及び古墳群が確認されている。縄文時代から古代にかけての複合遺跡として周知され、昭和39年10月31日に市指定史跡に指定され、指定地は遺跡公園として整備されている。

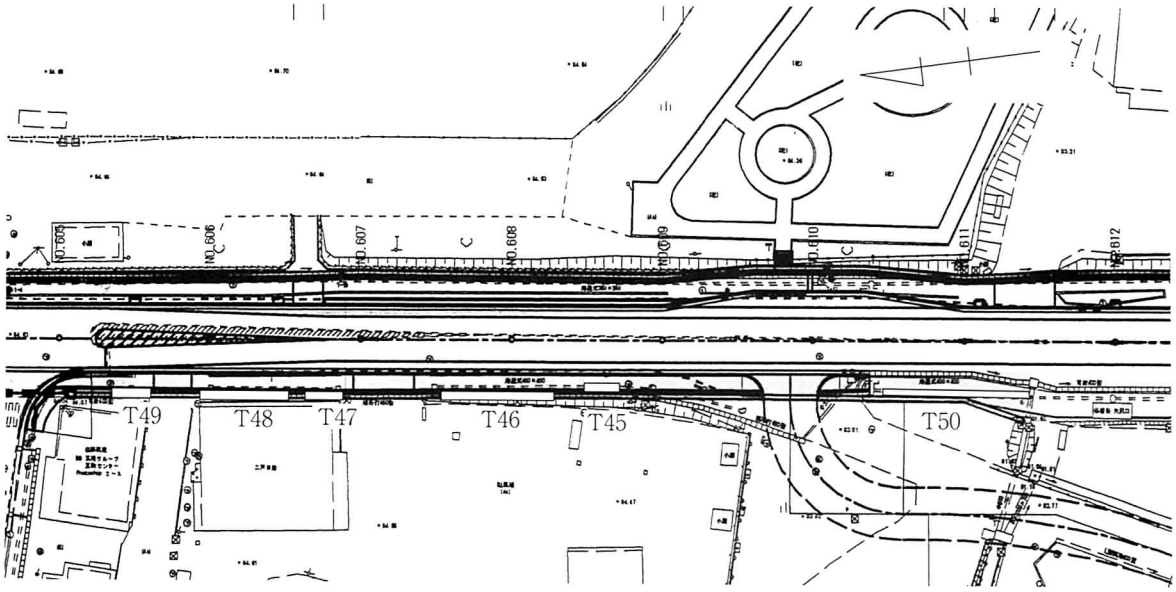


第38図　堀野遺跡群位置図

今回の調査は、歩道整備事業に伴うもので、歩道の改修及び道路側溝改修工事がその事業内容であり、遺跡範囲が広大であるため、事業予定地区がすべて調査対象区域である。調査対象箇所に50本のトレンチを設定した（T1～T50）。調査対象区域は、すでに上下水道管、通信用光ファイバーケーブル管等の埋設工事による攪乱が随所にみられた。

現在自動車販売店の駐車場として利用されている微高地脇にある現道路側溝箇所にT46を設定した。調査区における基本層序は、第Ⅰ層道路盛土、第Ⅱ層黒色土（土器を含む層）、第Ⅲ層極暗褐色～暗褐色土、第Ⅳ層褐色土（検出面）、第Ⅴ層（南部浮石層）の順である。T46の第Ⅲ層上面において、幅70cmの溝跡１条、径80cmの土坑１基がトレンチ断面で検出されたが、平面プランは過去の側溝工事等により破壊されおり断面でのみの検出であった。遺物はこのトレンチでは出土していない。

道路付け替え予定箇所にT50を設定した。第Ⅱ層において縄文時代中期のものと推測される土器片が出土したため、トレンチを南側へ広げたところ、この黒色土は土器片を多く含む遺物包含層であることが伺えた。包含層を掘り下げると遺構等が所在している可能性が高いと推測した。（平成18年度本発掘調査予定）



第39図　堀野遺跡群調査区位置図

4　中山間地域総合整備事業町井地区関連調査

徳島遺跡（ＭＥ39－1001）

所在地：和賀郡東和町町井２区地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

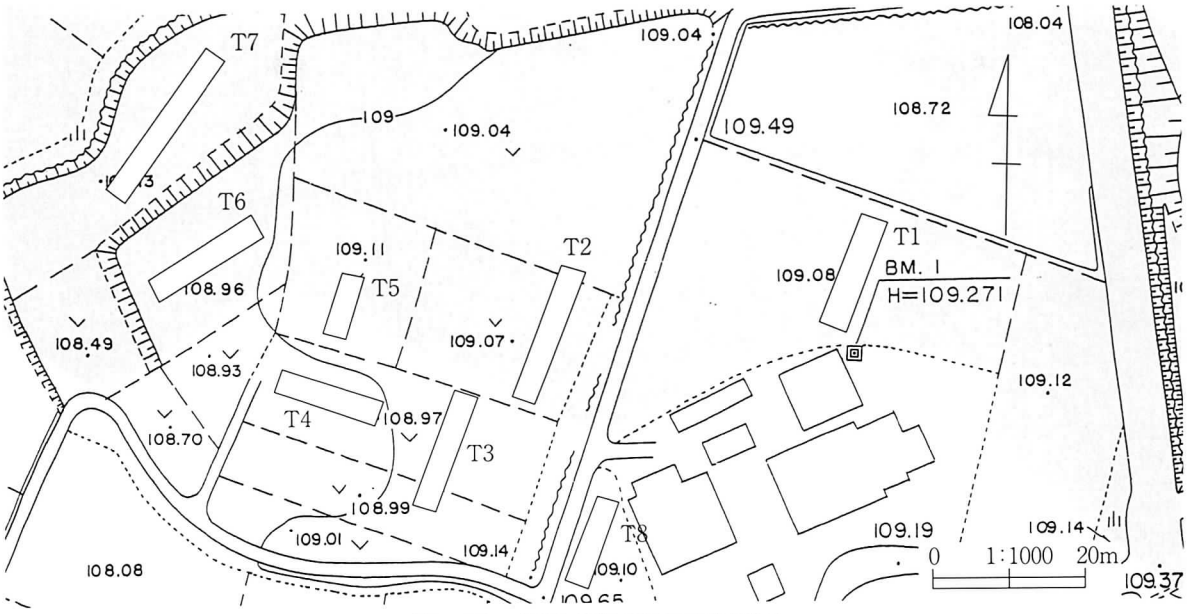
調査期日：平成17年11月30日

遺跡は、東和町役場の南東方向約2.8kmに位置し、猿ヶ石川左岸に形成された自然堤防上に立地している。

今回の調査は、ほ場整備事業に係るもので、排水路設置予定箇所、切土予定の田面が対象である。調査対象区に８本のトレンチを設定した（T1～T8）。

第40図　徳島遺跡位置図

調査区の現況は、宅地を取り囲むようにして利用されている水田と畑地であるが、調査区は微高地状の地形となっている。トレンチは、最も標高の高い水田あるいは畑地を中心に設定した。T1～T6及びT8においては、径25cm～30cmの柱穴状土坑が13基検出されたほか、T6においては、100cm×160cm以上の土坑１基も検出されている。検出された柱穴状土坑は、建物跡を構成するかのように規則性を有して検出されている。これらの遺構の構築時期については、その周囲から遺物が出土していないため、不明である。 T5においては、縄文時代前期ないしは中期に属すると思われる土器片を多く含んだ包含層が検出された。この包含層は、T5より西側に広がっているものと思われ、土器の出土状況から、包含層下に竪穴住居跡等遺構が所在している可能性が伺えた。調査区における基本層序は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層黒色砂質土（場所によっては所在しない。）、第Ⅲ層褐色砂質土（検出面）であるが、T1の南端付近とT2～T7における層序は、第Ⅰ層下に第Ⅲ層より下層にあたると思われる褐色粘土層があらわれたことから、これらのトレンチを設定した水田及び畑地は、猿ケ石川の左岸に形成された自然堤防上の頂部にあたり、過去の水田造成により大きく地形改変を受けているものと推測した。町道館迫町井線を挟んだ東側にも、今回の調査区と連続性を持っている水田が所在していることから、埋蔵文化財が拡がって確認される可能性を伺わせた。（平成18年度本発掘調査予定）



第41図　徳島遺跡調査区位置図

5　ほ場整備事業　白山地区

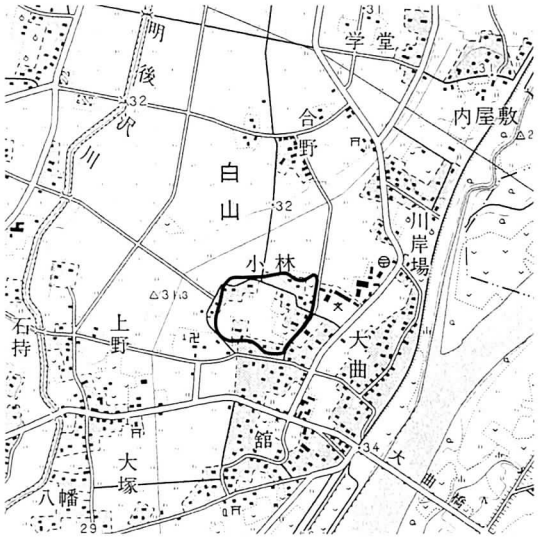
小林繁長遺跡（ＮＥ47－1046）

所在地：胆沢郡前沢町字小林・古舘

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成17年11月17日～18日、12月６日

本遺跡は、前沢町役場の北東約3.5km、北上川によって形成された沖積地上に立地している。遺跡の標高は30～31mを測り、現況は水田となっている。



第42図　小林繁長遺跡位置図

今回の調査区は遺跡の北縁にあたり、実際の調査は遺跡とその北側に広がる隣接地について実施した。今回の調査区は白山小学校の西側を走る道路を境に東部と西部に分けられる。調査区東部の北東、白山小学校の裏に当たる地点にはＴ3～Ｔ5の３箇所のトレンチを設定したが、Ｔ3では表土除去直後、Ｔ4は表土除去から10cm下部、Ｔ5は表土から80cm下部から縄文土器がそれぞれ出土している。出土状況からこの一帯には包含層が広がり、その下部には竪穴住居跡などの遺構が存在している可能性が大きい。Ｔ3～Ｔ5の北側、遺跡の隣接地で一段低い田面にも遺跡に接する部分に沿ってトレンチを設定したが、遺構は確認されなかった。さらに今回の調査範囲の北東端から今回の調査範囲の北東端から遺跡外を北側に向かってトレンチを設定したが、Ｔ8、Ｔ14から縄文土器片が数点出土している。調査区西部の遺跡範囲に含まれる高い地点からはＴ69～Ｔ71から縄文土器甕の底部などまとまった土器が出土している。これらの地点についてはまとまった遺物の出土状態からみて下層には住居跡などの遺構が存在する可能性がある。

第43図　小林繁長遺跡調査区位置図

6　ほ場整備事業　満倉地区

崩田遺跡（ＮＥ05－2345）

所在地：水沢市佐倉河字崩田

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

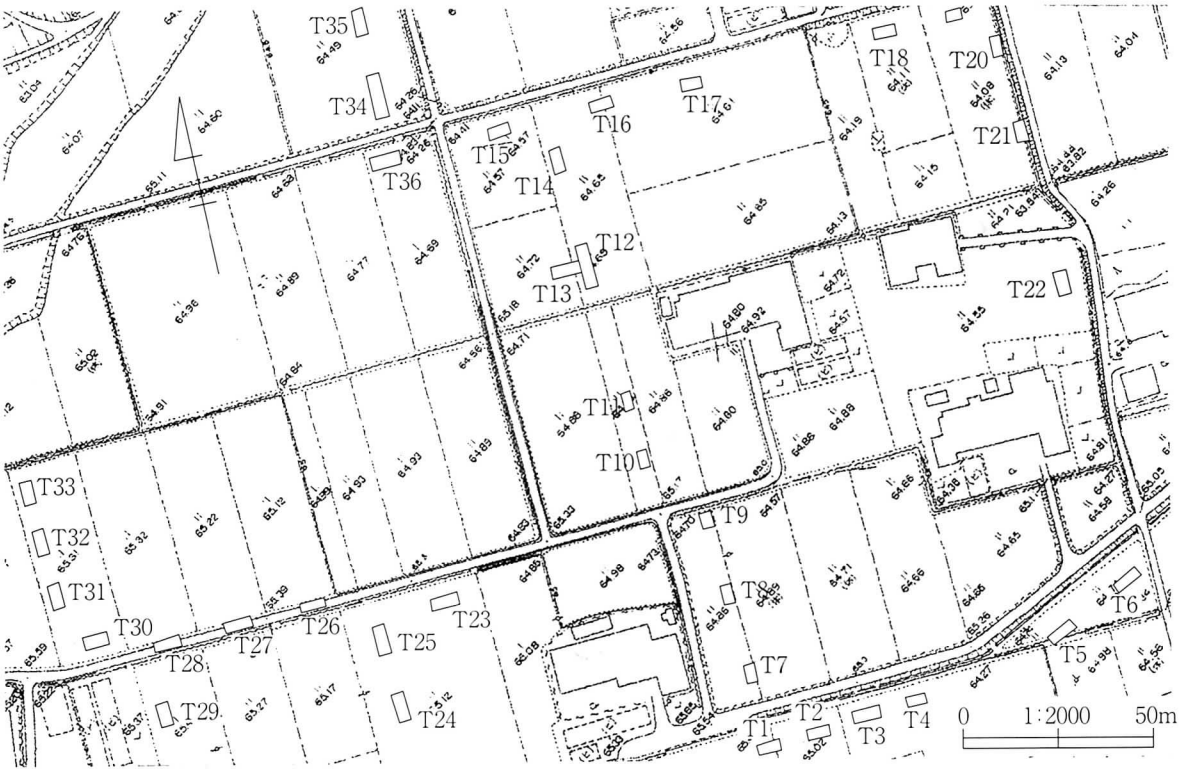
調査期日：平成17年11月15日～16日、25日

本遺跡は、水沢市役所の北西約３㎞、胆沢川によって形成された河岸段丘上に立地している。遺跡の標高は64ｍ前後を測り、現況は水田となっている。

今回の調査はほ場整備事業に伴うもので、道路の新設及び水路の拡幅、そして田面の切り土箇所を中心に調査を実施した。調査区東部から南部にかけての地域については遺構、遺物は確認されなかったが、調査区西部から北部、更に北東部にかけては表土下に植物痕が多量に混入する粘質のある暗褐色土が入るが、Ｔ15～Ｔ17ではこの層から平安時代の土師器が各１点ずつ出土している。また、調査区西部やや北寄りに設置したＴ12からは竪穴住居跡が検出された。規模は明らかではないが、土師器を伴っており、平安時代のものとみられる。この住居跡が確認された地点については、本遺跡に広がる後背湿地特有の堆積は見られず、表土下に黒褐色土が良好に残っていた。この部分については自然堤防の高まりである可能性があり、この地形が更に広がることが予測されたことからＴ13へトレンチの範囲を広げてみたが、Ｔ13からは遺構を確認することはできなかった。更に広がりを確認するためにＴ25～Ｔ35へとトレンチを広げたが、この範囲においても遺構を確認することはできなかった。Ｔ31，Ｔ32からは土師器片が１点ずつ出土している。調査区北部から東部に至る部分に設置したＴ17からは柱穴状遺構が４基検出された。規模は20×20㎝のものが２基、７×７㎝、45×40㎝のものが各１基ずつ確認されている。時期は不明である。

第44図　崩田遺跡位置図

今回の調査では時代が特定できる遺構としては竪穴住居跡が１棟確認されたのみであったが、この地点は自然堤防の高まりであり、この付近には同じような地形を残している地域がある可能性が高く、竪穴住居などの遺構が他にも存在する可能性は高いものと見られる。



第45図　崩田遺跡調査区位置図

7　ほ場整備事業古城地区関連調査

可能性あり15

所在地：前沢町古城字上野地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成17年10月５日、６日

20日、21日

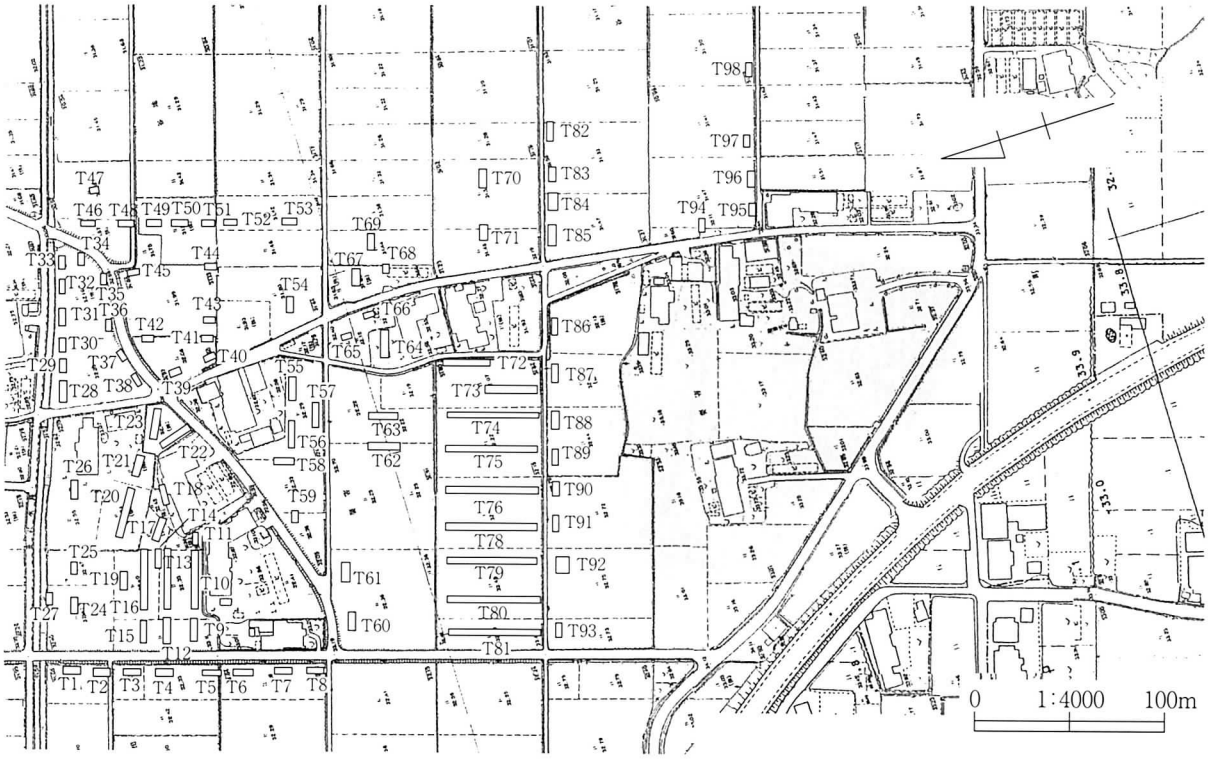
第46図　可能性あり15位置図

調査対象箇所は、ＪＲ東北本線前沢駅の北東約3.3kmに位置し、北上川右岸の河岸段丘上に位置し、標高は33m前後を測る。現況は宅地と水田である。今回の調査対象箇所は、ほ場整備事業に係り、今年６月当課が分布調査を実施し、遺跡の存在の可能性が高いと回答した箇所である。調査対象箇所南側には昨年度当課が試掘調査を行い、遺構が確認されてる要害遺跡が所在する。今回の調査は、農道新設・拡幅箇所、排水路設置箇所、用水路敷設替え箇所、切土田面が対象である。調査対象箇所に98本のトレンチを設定した（T1～T98）。

調査の結果、用水路敷設替え箇所のT26において表土直下15cmから住居状遺構１棟と土坑１基を確認した。住居状遺構は一辺が350cm以上あり、埋土に十和田a降下火山灰を含んでいた。遺構内に焼土も確認したが、遺構の上部はこれまでのほ場整備によって削平されていた。土坑の規模は100×70cmあった。

農道拡幅箇所に設置したT92では、表土直下25cmにおいて、柱穴７基、土坑４基を確認した。柱穴は規模や埋土の様子から３種類に分かれる。１種類目は、径26×26cmの円形で、柱当たりが確認できるものが２基、団子状に繋がっていることから１度作り替えがあったものと考えられる。２種類目は、径30×30cmのもの２基で、一間が約180cmあり、埋土に土師器の破片を含んでいた。３種類目は、径20×20cmの円形3基で、形から２度作り替えがあったものと考える。確認された土坑４基は、径70×70cmの円形、60×40cmの楕円形、90×80cmの楕円形、170×90cmの楕円形で一箇所にまとまって確認された。プランがはっきりしなかったため、それぞれの遺構の切り合いは確認できなかった。

水田部分には、湿地跡でよく見られる黒褐色土が広がっていた。遺構が確認された場所は、水田脇の微高地であることから、集落跡は微高地上に広がる可能性がある。



第47図　可能性あり15調査区位置図

8　経営体育成基盤整備白山地区関連調査

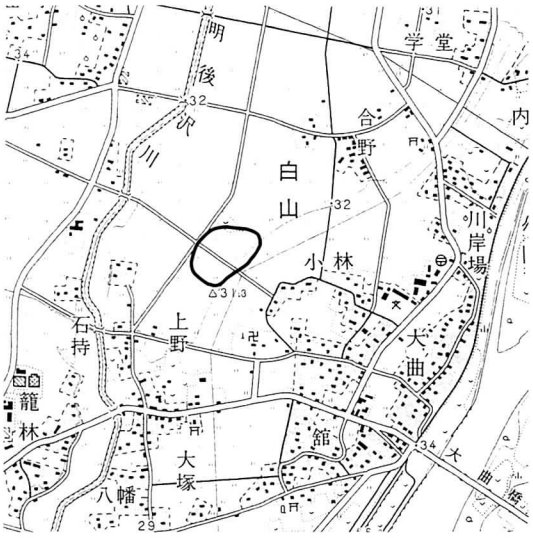
白山上野遺跡（ＮＥ47－0188）

所在地：胆沢郡前沢町白山字上野地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成17年11月15日～16日

遺跡は、ＪＲ東日本旅客鉄道株式会社東北本線陸中折居駅の南東方向約2.5kmに位置し、北上川右岸に形成された自然堤防上に立地している。この自然堤防上には、本遺跡に近接して合野遺跡、道上遺跡が所在しており、旧河道部分と推測される低地を挟んだ東側には、小林繁長遺跡、川岸場遺跡等が所在している。

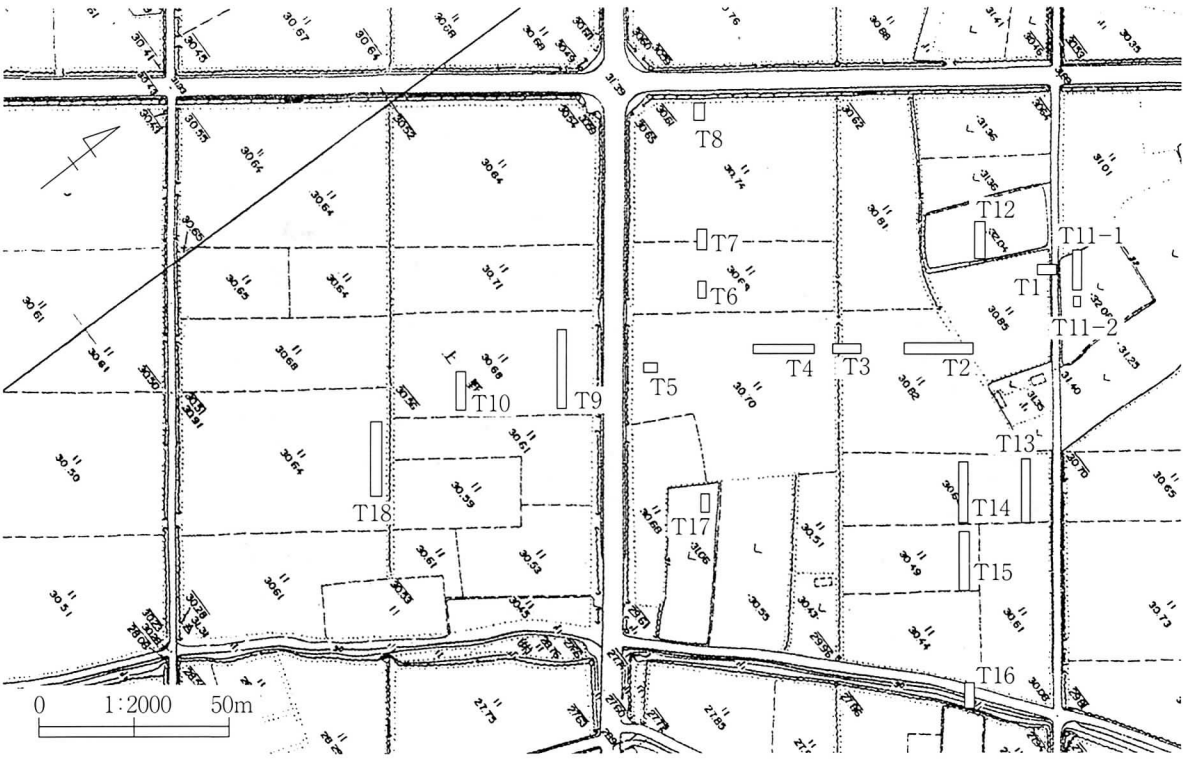


第48図　白山上野遺跡位置図

今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであるが、今年度調査対象区域は遺跡範囲のすべてを網羅するものではない。調査対象区域に18本のトレンチを設定した（T1～T8）。トレンチを設定するに先立って現地踏査を実施し、旧地形が比較的良好に残存していると思われた微高地を中心にトレンチを設定した。

T17においては、表土直下に土師器を主体とする古代の遺物包含層が拡がっていることが確認された。このT17で検出された遺物包含層には、大量の焼土粒及び炭化物粒が含まれていたことから、古代の竪穴住居跡の埋土である可能性をも伺わせた。

T15においては、10m四方で、幅約１ｍの規模を有する方形周溝１基が検出され、この方形周溝の埋土には、須恵器片が含まれていた。方形周溝に伴うマウンドについては、過去の水田造成工事による地形改変によって削平されていた。このほか、柱穴状土坑３基が規則性を有して検出されていることから、掘立柱建物跡を構成するものと推測した。以上のことから、今回の調査区には古代の集落が広がっていると推測した。（平成18年度本発掘調査予定）



第49図　白山上野遺跡調査区位置図

9　経営体育成基盤整備事業　増沢東部地区関連調査

岩谷堂柳沢Ⅰ遺跡（ＭＥ97－0389）

岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡（ＭＥ97－0364）

金打遺跡（ＭＥ97－1314）

所在地：江刺市岩谷堂地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成17年10月11日、24日～26日

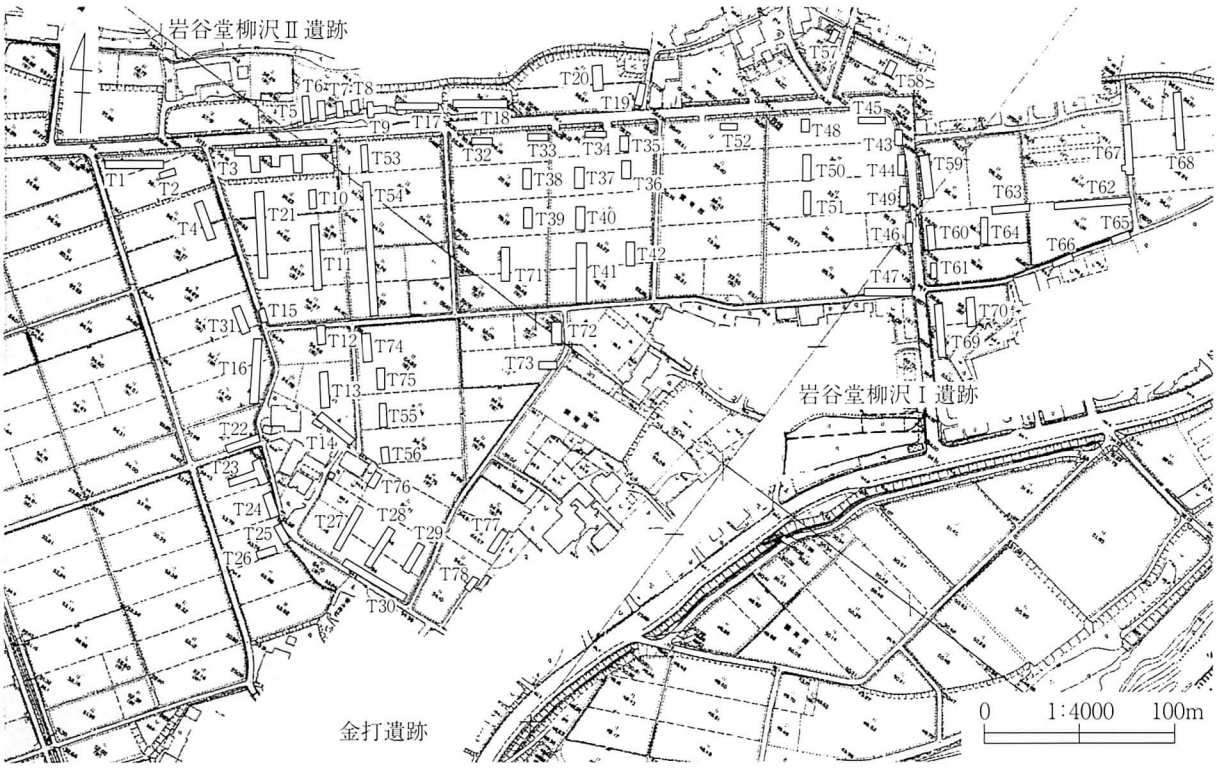
11月21日～22日、24日～25日

第50図　岩谷堂柳沢Ⅰ・Ⅱ、金打遺跡位置図

本報告は、標記３遺跡に係るものであるが、これら３遺跡が隣接して所在していること、これら３遺跡の属する時代が共通していること（縄文及び古代）、立地している地形の観察、現地踏査及びこれまでの試掘・発掘調査結果から、これまで旧来の遺跡範囲を包括するような大きな遺跡範囲の捉え方が必要であるとの判断から、まとめて調査結果を報告するものである。今回の調査区は、江刺市役所の北東方向約3kmに位置し、人首川右岸の河岸段丘上に立地している。現況は主に水田及び宅地となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、調査対象区域に78本の試掘トレンチを設定した（T1～T78）。現在宅地が所在している周辺に設定したT12～T14、T41～T42、T72～T78、T29において、多くの遺構が検出された。住居状遺構1棟のほか、多数の柱穴状土坑、土坑類が検出された。T74、T77においては掘立柱建物を構成するものと推測される柱穴列が検出された。検出された柱穴状土坑の規模は、径25～40cmで、埋土は黒色であった。T72で検出された柱穴状土坑1基の埋土には、土器片及び炭化物粒が含まれていた。T47においては、円形周溝と推測される遺構が検出された。今回の調査区において最も標高の高い水田に設定したT1～T2において、耕作土直下で幅140cmの溝跡１条が検出された。埋土には、土師器片と多くの炭化物粒が含まれていた。T3においては、水田造成時に埋められたと思われる自然の沢跡があったが、時期不明の柱穴状土坑３基が検出された。 現在の水田部分に設定したT31、T22～T23、T45、T59、T66、T68において、水田状遺構と推測される遺構が検出された。この遺構の上面には十和田ａ降下火山灰層が広がって確認されていることから、古代の水田であると推測した。T21においては、時期不明であるが溝跡2条が検出された。山から緩やかに南向きに傾斜した斜面裾に設定したT57において、竪穴住居状遺構１棟が検出され、埋土には土師器片が含まれていた。T58においては、土師器を含む遺物包含層が検出されている。

今回の調査対象区の東端付近の水田に設定したT67において、縄文時代のものと思われる陥し穴状遺構が検出された。旧表土と思われる層からは縄文土器片も出土している。水田状遺構が検出されたT68では、柱穴状土坑、土坑も検出された。

以上のことから、住居状遺構、柱穴状土坑、土坑類が多く検出された現在の宅地周辺は、自然堤防上にあたり、集落が営まれていた可能性が高く、山裾の南面する緩斜面にも集落が所在しているものと推測した。これら集落と集落の間にある後背湿地を利用した現在の水田部分は、古代にも水田が営まれ生産の場であったものと推測した。さらに、縄文時代の遺構及び遺物も検出されていることから、今回の調査区は、縄文時代と古代の複合遺跡であることが改めてわかった。（平成18年度本発掘調査予定）



第51図　岩谷堂柳沢Ⅰ・Ⅱ遺跡、金打遺跡調査区位置図

10　遠野第二生活貯水池建設事業

栃洞遺跡（ＭＦ55－1029）

所在地：遠野市遠野町字栃洞地内

事業者：遠野地方振興局土木部

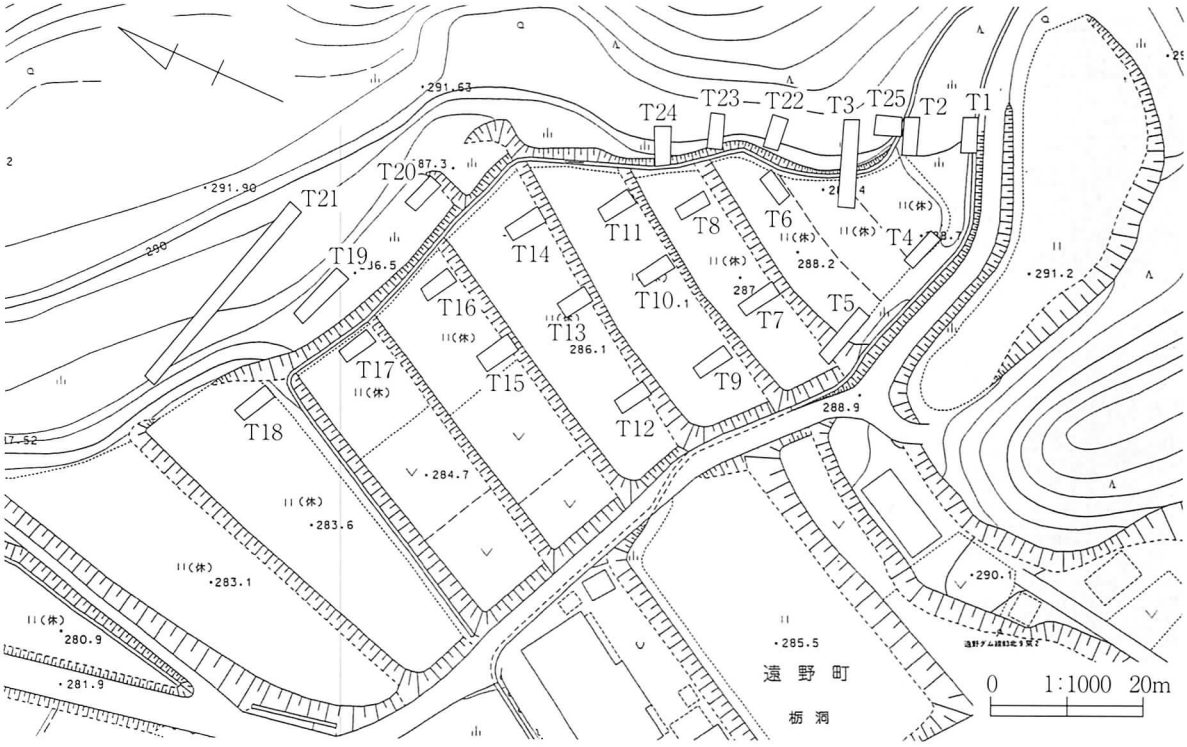
調査期日：平成17年６月１日

本遺跡はＪＲ遠野駅より南東約2.3kmの場所に位置し、現況は荒蕪地および水田跡である。調査対象区は丘陵の西側縁辺部に立地し、標高は283～288mを測る。

今回の調査は遠野第二生活貯水池建設事業に伴うもので、事業対象区内にトレンチを25本設定した。

第52図　栃洞遺跡位置図

調査の結果Ｔ1～Ｔ3・Ｔ21～Ｔ24の斜面上部側に開田時の削平・掘削の影響を受けていない箇所があり、Ｔ2・Ｔ3・Ｔ25では第Ⅱ層・黒褐色土層下位～第Ⅲ層・暗褐色土層上位から土坑５基を検出し、その周辺からは縄文土器片が出土している。遺構・遺物の広がりはＴ24より南側で確認され、これより北側には広がっていない。Ｔ4～T20は旧水田跡で遺構検出面である暗褐色土の層は大きく削平され、残っていなかったが、Ｔ5の造成盛土から二次混入と考えられる縄文土器片・石器が多く出土した。また、Ｔ21のある北側斜面部も昭和以降に造成によって、地形が改変されていることが、堆積状況などから確認された。



第53図　栃洞遺跡調査区位置図

11　地域振興支援ネットワーク整備事業関連調査

清田台遺跡（ＮＥ46－1252）

所在地；千厩町清田字台地内

事業者；千厩地方振興局農政部農村整備室

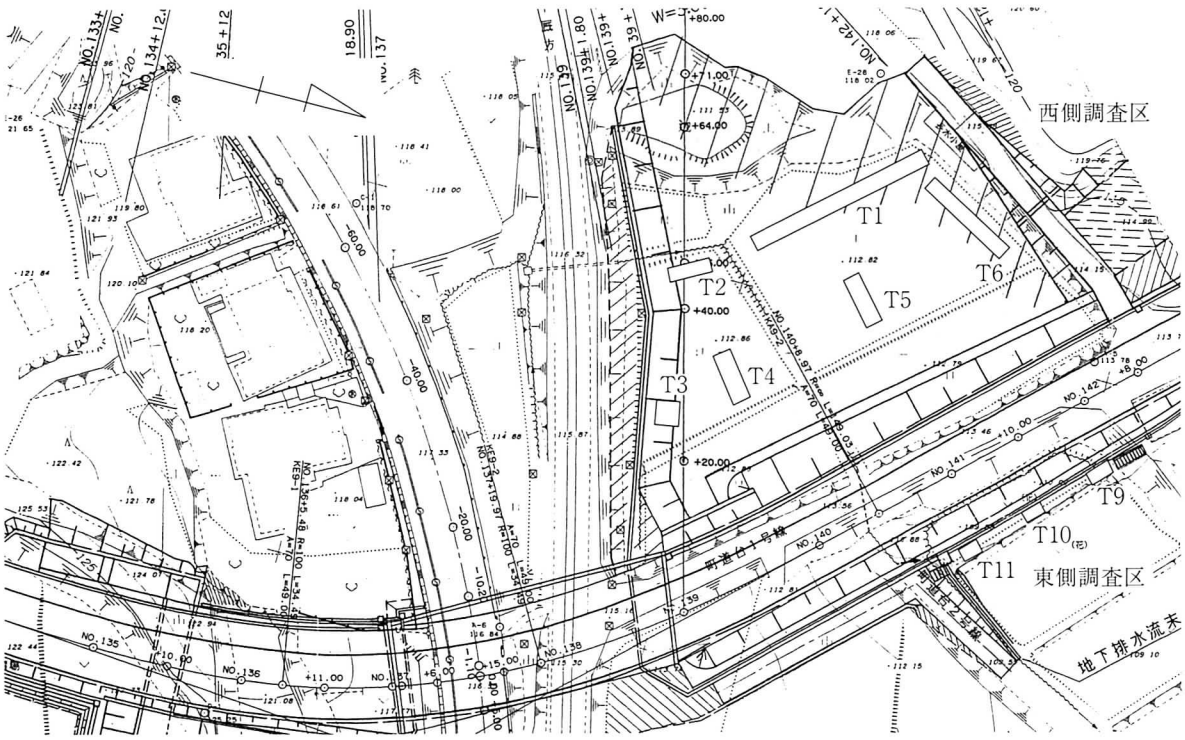
調査期日；平成17年10月27日・28日

遺跡は、ＪＲ東日本㈱大船渡線千厩駅の北東約1.3kmに位置し、千厩川支流金田川左岸、緩やかに北に下る標高100～120mの尾根上に立地する。平成11年度～13年度に実施された(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以降　埋蔵文化財センター）の調査では、多量の遺物と共に竪穴住居跡をはじめとする多数の遺構が密集・重複した状況で確認され、本遺跡が縄文時代中期を中心とする大規模な集落であったことが判明した。また、当課で平成15年３月、４月に行った発掘調査でも、狭長な調査範囲にもかかわらず、多量の遺物、遺構等が確認されている。今回の調査は、道路建設に伴うもので、道路高まで盛土する箇所、道路からの進入路（調査区西側）、矢板を打ち込むため切土となる箇所、地下排水路施工箇所（調査区東側）が対象であり、埋蔵文化財センター調査において竪穴住居跡が重複して確認された北側調査区に隣接する箇所である。調査対象箇所に11本のトレンチを設定した（T1～T11）。

第54図　清田台遺跡位置図

調査の結果、調査区東側において遺物包含層を確認した。遺物包含層は基本層序Ⅱ層及びⅢ層で、縄文土器を含んでいた。基本層序第Ⅱ層から地山までの深さが160cmと深く、層中に礫や砂など確認できなかったこと、湿地跡などでみられる層序であったことから、調査区東側は浅い沼地であったと推測した。調査区東側は、埋蔵文化財センターの北側調査区に隣接し下位にあたることから、包含層中の土器は北側調査区で使用されていたものと考えられる。

調査区西側の盛土予定地に設定したトレンチからは、ビニール紐や肥料袋などを含んだ盛土が地山付近まであり、その下層から湧水を確認した。また、進入路予定箇所は表土直下地山であった。



第55図　清田台遺跡調査区位置図

12　ほ場整備事業関連調査

骨寺村荘園遺跡（ＭＥ72－2283）

所在地：一関市厳美町地内

事業者：一関地方振興局農林部農村整備室

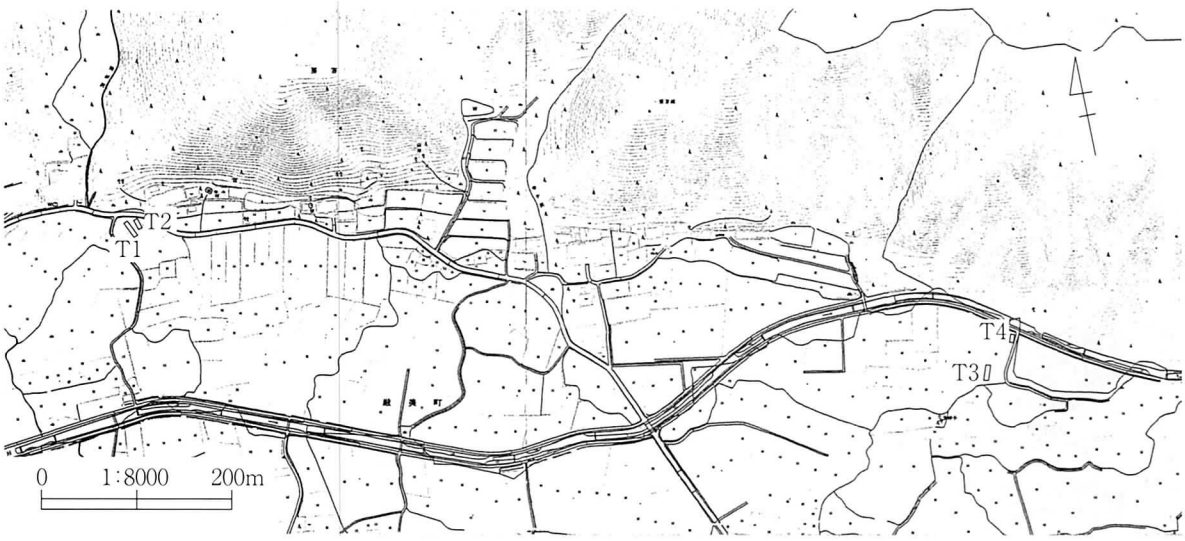
調査期日：平成17年12月19日～12月20日

第56図骨寺村荘園遺跡位置図

遺跡は、一関市役所の北北西約15kmに位置し、磐井川左岸の河岸段丘上に立地している。現況は主に水田及び宅地となっている。本遺跡は、世界文化遺産の暫定リストに登載されている平泉遺跡群の一つであり、中尊寺所蔵の「骨寺村絵図」にも描写されている中尊寺の荘園跡として広く周知されている。現在でも、中世さながらの景観が残っているとして、文化的景観としての評価が高い区域である。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであるが、農政側から内容確認調査の依頼を受けて実施したものである。現在の畦畔を改変し、より田形の大きい田区とする予定の田面と暗渠排水路敷設予定田面が対象である。T1及びT2を設定した水田は、「陸奥国骨寺村絵図（在家絵図）」において、「三反」と記された一部に相当する可能性のある水田であり、衣川へ通ずる「アジが沢」に近接している水田である。

T1において、溝跡1条と畦畔と伴う水田状遺構が検出された。T2においては、旧水田耕作土がトレンチ断面で複数層確認され、畦畔を伴う水田状遺構が検出されたほか、水田状遺構に関連する施設であると思われる木柱列を伴う溝跡１条が確認された。溝跡に伴う木柱は、径15cmであった。この水路状遺構は、山側から南方向へ走っていることから、「アジが沢」から分岐する配水施設である可能性がある。T1及びT2で検出された水田状遺構は同規模であり同様の方向性を示していたことから、この一体に複数の水田が並列して広がっていたことを示唆するものである。

T3において、幅120cmの畦畔を伴う水田状遺構が確認されたが、T4においては、水田耕作土直下に人頭大の円礫を多く含む層が確認され、掘り下げたところ、グライ化した青灰色砂礫層が確認されたことから、旧河道であると推測した。



第57図　骨寺村荘園遺跡調査区位置図

13　道路改築事業関連調査

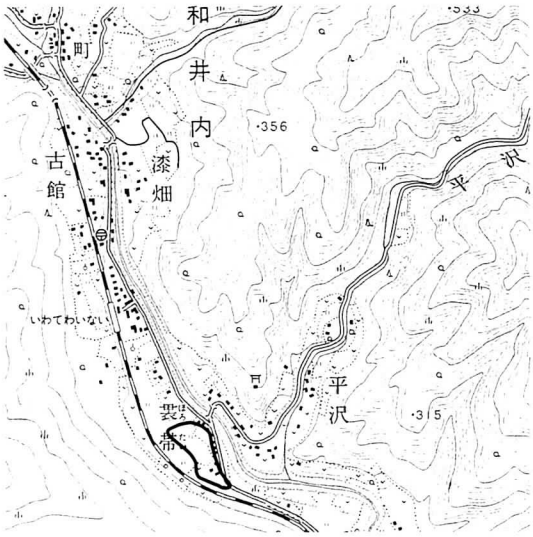
袰帯遺跡（ＬＦ19－2060）

所在地：宮古市和井内地内

事業者：宮古地方振興局土木部

調査期日：平成17年９月26日、27日

遺跡は、ＪＲ岩泉線岩手和井内駅の南東約0.4kmに位置し、刈屋川右岸の河岸段丘上に立地する。遺跡標高は195m前後を測り、現況は畑地及び水田（買収後雑務地）である。今回の調査は国道340号線の道路改良事業に係わるもので、バイパス新設箇所が対象である。事業予定箇所に16本のトレンチを設定した（T1～T16）。



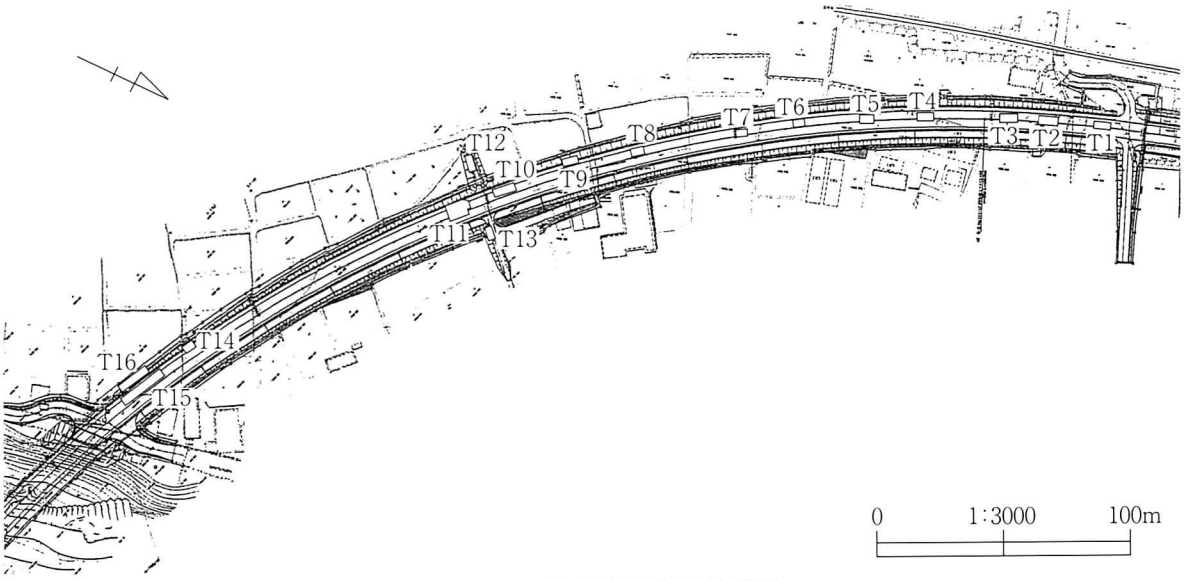
第58図　袰帯遺跡位置図

調査の結果、T11において住居状遺構を１棟確認した。プランははっきりしなかったが、大木９式を含む土器片が８号袋で３袋出土した。出土した土器は、基本層序第Ⅱ層暗褐色土中で確認した。

T11において遺構を確認したため、T10を広げ再度精査を行った結果、縄文時代のものと思われる焼土遺構１基を確認した。当初、炭化物粒が大きかったため、新しい物と考えたが、断面に掘り込みを確認できなかった点、焼土遺構を確認できた面とほぼ同じ面から縄文土器が出土した点から縄文時代の遺構と判断した。焼土遺構の規模は直径約30cmの円形であった。

T16において、土坑１基を確認した。遺構の規模は130×100cmの楕円形で、遺構の埋土は褐色土に礫が混じっており、埋土中に縄文土器の底部を確認した。

和井内周辺は、平地が狭く居住範囲が限られているが、調査対象箇所は、南東向きの緩斜面となっており、地形から縄文人が居住していた可能性が高いこと、また、土器が出土した基本層序第Ⅱ層暗褐色土が全トレンチにおいて確認されていること、以上のことから、T1～T9では遺構、遺物は確認されなかったが、調査対象箇所は縄文時代の集落跡である可能性は高いと考えられる。



第59図　袰帯遺跡調査区位置図

14　緊急地方道路整備事業関連調査

桂平Ⅰ遺跡（ＪＥ36－1308）

所在地：二戸郡浄法寺町桂平地内

事業者：二戸地方振興局土木部

調査期日：平成17年10月17日、11月9日

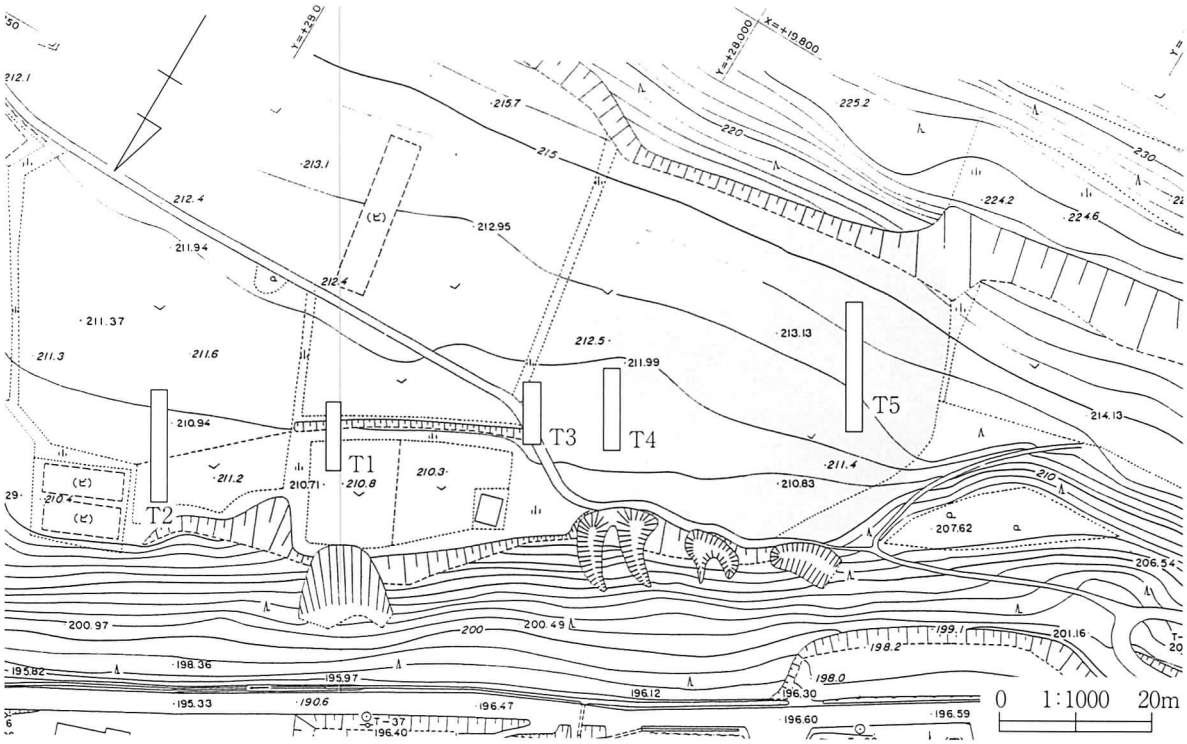
遺跡は、浄法寺町役場の南方向約840mに位置し、安比川右岸に形成された河岸段丘上に立地している。遺跡の標高は210m前後を測り、現況は、畑地及び山林となっている。本遺跡に近接して縄文時代の遺跡として周知されている吉田館が所在する。

今回の調査は道路整備事業に伴うもので、道路新設予定箇所が対象である。旧来の遺跡範囲内及び隣接区域を対象とし、調査対象区に５本のトレンチを設定した（T1～T5）。

第60図　桂平Ⅰ遺跡位置図

調査区における基本層序は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層黒色土（所在していないところもある。）第Ⅲ層暗褐色土、第Ⅳ層褐色土（検出面）である。現在耕作中の畑地の一部にT1及びT2を設定した。T1において、隅丸方形のプランを持つ竪穴住居跡が検出された。遺物は確認できなかったが、埋土には炭化した木材及び焼土が多量に含まれ、十和田ａ降下火山灰がブロック状で混じっていることから、平安時代の焼失住居であると推測した。T2において、80×130cmの楕円形を示す土坑1基が検出された。T2の南端周辺においては、畑地造成のためか第Ⅰ層直下に第Ⅳ層がみられたことから、地形改変を受けていたことが伺えた。T3においては、住居状遺構1棟、柱穴状土坑2基が検出された。T4の住居状遺構の埋土には、十和田ａ降下火山灰がブロック状に含まれており、埋土上面からは壺の底部と思われる土師器片が出土した。

T1からT4を設定した畑地より、傾斜がきつい斜面にT5を設定した。傾斜がきついトレンチ南端周辺の層序は、黒色土の堆積が薄く、遺構及び遺物は確認できなかったが、傾斜が緩くなり平場になりかけた付近からは、摩滅した土器片を含む溝状遺構１条、煙出を有する竪穴住居跡が検出された。以上のことから、今回の調査区は古代の集落跡であると推測した。（平成18年度本発掘調査予定）



第61図　桂平Ⅰ遺跡調査区位置図

15　緊急地方道路整備事業関連調査

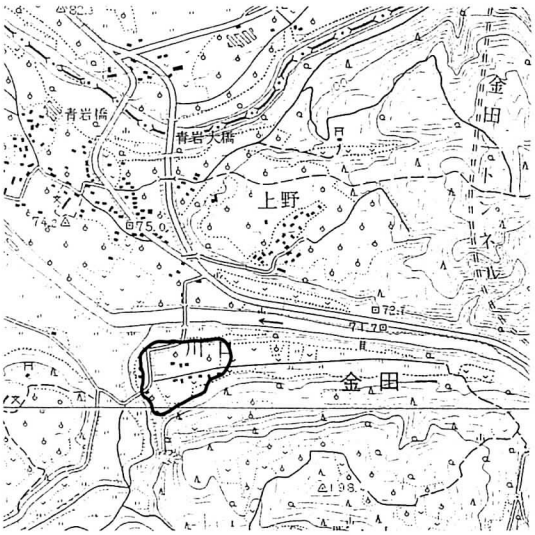
川口Ⅰ遺跡（ⅠE79－1188）

所在地：二戸市金田一字川口

事業者：二戸地方振興局土木部

調査期日：平成17年11月８日

遺跡は、二戸市役所の北北東約8.7kmに位置し、馬淵川左岸の河岸段丘上に立地している。本遺跡は道路整備事業に係り、平成17年度に財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより発掘調査が実施されている。発掘調査では、縄文時代の竪穴住居はじめ、古代の土坑等の遺構が確認されている。今回の調査は、道路整備事業に伴うもので、今年度の発掘調査区に隣接した区域が対象である。なお、事業予定地内には宅道等があり、通行に支障を来すおそれがあることから、支障の生じない箇所を選び試掘トレンチを設定した（T1～T3）。



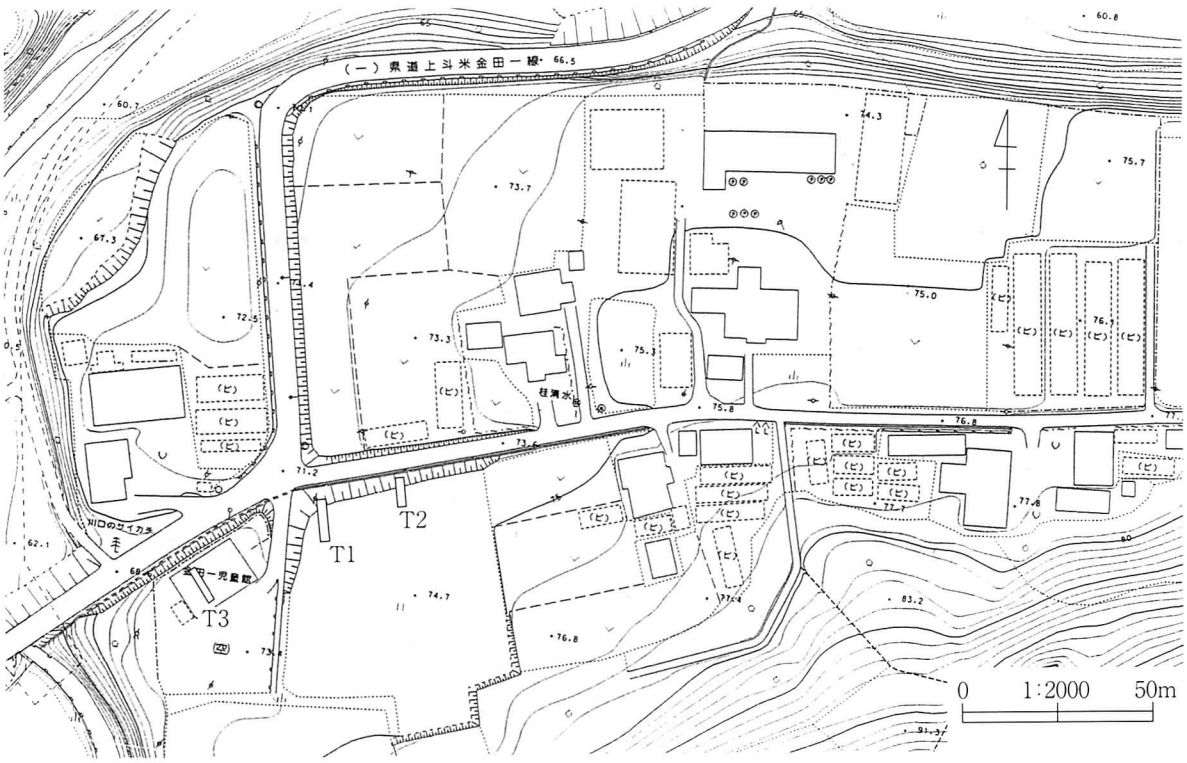
第62図　川口Ⅰ遺跡位置図

現水田面にT1及びT2を設定した。T1においては第Ⅲ層から、近世の陶磁器片、摩滅した土師器片が出土した。第Ⅳ層を掘り下げたところ住居状遺構が現表土から約120cm下で１棟検出された。埋土は灰褐色の色調を示し、埋土には十和田ａ降下火山灰がブロック状に含まれていた。

T2において、第Ⅳ層を掘り下げたところ、径50cm大の土坑１基、径30cm大の柱穴状土坑３基が検出された。土坑は100cm下で、また、柱穴状土坑は現表土から約110cm下で検出されている。

旧金田一児童館があった平地にT3を設定した。建物基礎が残存していたものの、表土、盛土下には第Ⅴ層に相当する黒色土層があり、この層に縄文土器片が含まれていた。ここを掘り下げたところ、第Ⅵ層で土坑１基、柱穴状土坑３基が検出された。T3を設定した畑地には児童館を建設する際に、かつての畑地を整地したとのことから、第Ⅲ層から第Ⅳ層にあたる古代の生活面がすでに削平されていると推測した。

以上のことから、本遺跡は、今回の調査区においても、古代と縄文の遺跡が複合して所在していることが確認された。



第63図　川口Ⅰ遺跡調査区位置図

16　緊急地方道路整備事業

吉田館跡（ＪＥ37－0090）

所在地：二戸郡浄法寺町御山字大手

事業者：二戸地方振興局土木部

調査期日：平成17年８月９日、18日

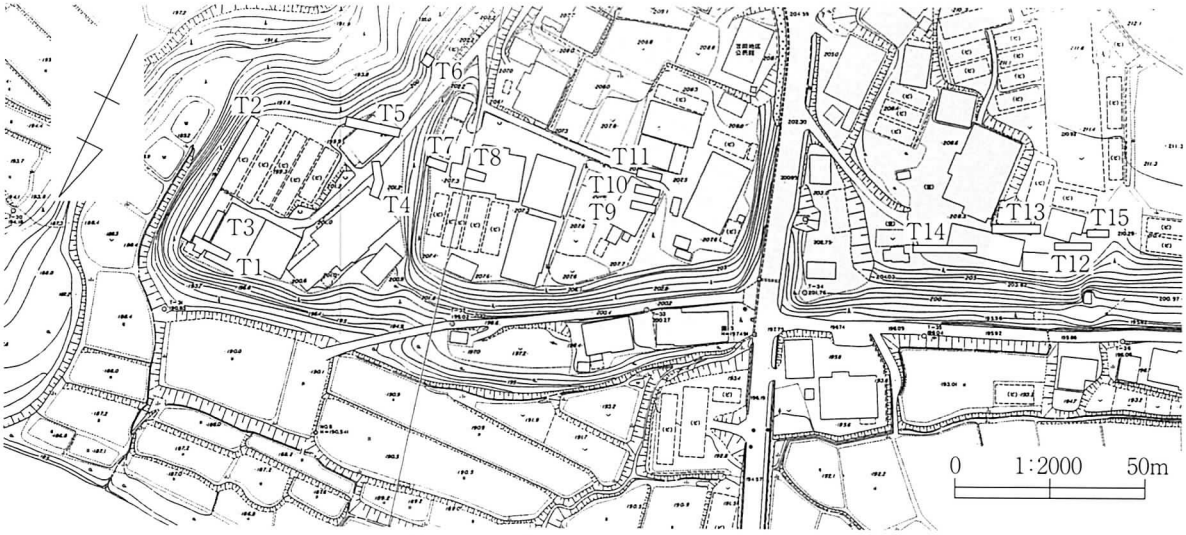
本遺跡は、浄法寺町役場の南東約0.5km、安比川右岸に形成された河岸段丘上に立地している。遺跡の標高は199～208m前後を測り、現況は畑地及び宅地となっている。

今回の調査は緊急地方道路整備事業に伴うものである。

第64図　吉田館跡位置図

今回の調査区域は大きく東西２箇所に分けられる。東部の調査区は標高199m前後の曲輪状の部分であり、西部の調査区は標高207m前後の主郭にあたる部分である。東西の調査区は町道を挟んで隣接している。調査区東部東端から南北に設置したＴ2に平行する形で北側に設置したＴ3の北部からは柱穴状土坑が４基検出された。検出面は現地表より－40～－50cmで、径は30×31cm～50×40cmほどのものである。またＴ2の北端から西側のＴ1からは柱穴状土坑が１基検出された。径は26×26cmほどである。Ｔ4は東部調査区の西寄りに設定したが、ここからは柱穴状土坑７基、Ｔ5からも柱穴状どこが７基検出されている。径はいずれも20×20cmほどである。調査区東部の主郭にあたる地域にはＴ7～Ｔ11を設置したが、Ｔ7からは地表－60cmから、径20×20cm、20×30cmの柱穴状土坑を２基検出した。Ｔ9からは地表－30cmから34×34cmの柱穴状土坑１基、Ｔ10からは地表－20cmから40×25cmの焼土遺構を検出した。色は褐色でやや軟質である。地表－30cmからは26×24cm～40×30cmまでの柱穴状土坑が６基検出された。Ｔ11からは地表－55cmの地点から径25×25cmの柱穴状土坑１基、その上層にあたる－40cmの地点の黒褐色土に火山灰が混じる層からは縄文土器が１点出土している。

今回の調査において調査区の全域から柱穴状土坑を中心とする遺構が広く分布していることが明らかになった。これらの遺構の中には館に関連するものも多く含まれる可能性が高いものと見られる。



第65図　吉田館跡調査区位置図

17　馬淵川沿岸（一期）農業水利事業関連調査

可能性あり８（山館遺跡）

所在地：二戸市野々上字外ノ沢妻神地内

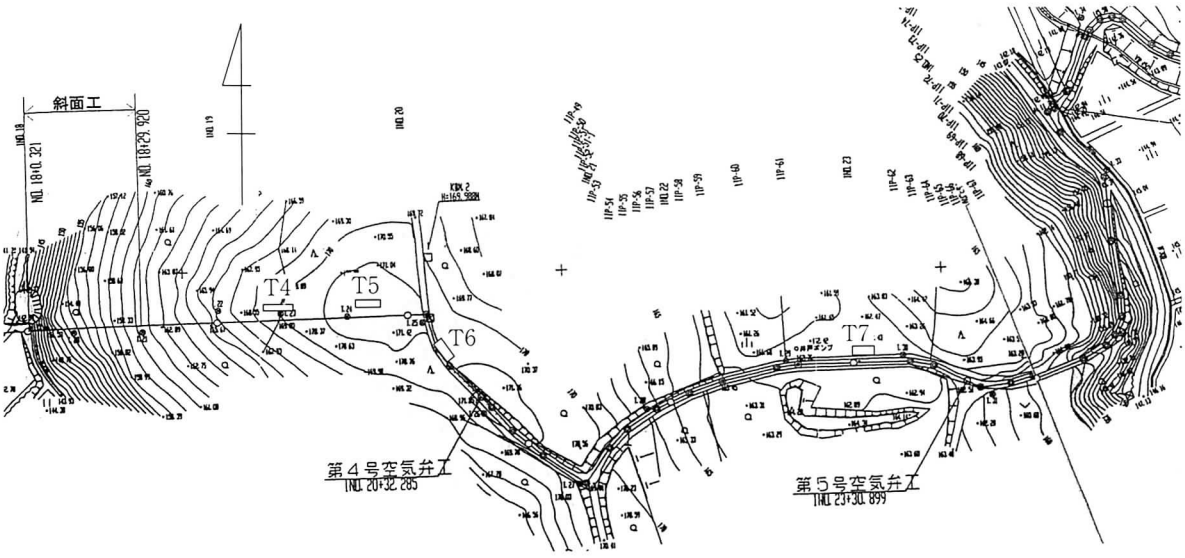
事業者：東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所

調査期日：平成17年11月１日～２日

調査対象箇所は、ＩＧＲいわて銀河鉄道線金田一温泉駅の西約２kmに位置し、馬淵川支流により開析された沢跡と沢跡に挟まれた丘陵部分からなり、標高は145～185ｍを測る。現況は水田と山林であり、尾根頂部と沢跡の標高差は約40ｍある。調査対象箇所は、平成17年度に馬淵川沿岸農業水利事業に係り、当課が行った分布調査において遺跡の存在の可能性が高いと回答した「可能性あり８」である。

第66図　可能性あり８位置図

調査の結果、丘陵頂部に設定したT5において、表土下70cmより、径55×30cm以上の土坑１基、住居状遺構１棟、径30×30cmの柱穴１基を確認した。住居状遺構と柱穴は、同トレンチから出土した土器片から弥生時代の遺構と思われる。同じくT6では180×70cmの土坑１基、住居状遺構１棟を確認した。さらに、小さな沢跡状凹地を挟んで対岸に設定したT7では暗褐色土より土器片が出土した。このことからT7の上位面には集落が存在する可能性が高いと考えられる。確認された遺構、遺物等から「可能性あり８」の範囲の丘陵部は弥生時代の集落跡の可能性が高いものとみられる。



第67図　可能性あり８調査区位置図

18　緑資源幹線林道葛巻・田子線葛巻・浄法寺区間開設事業

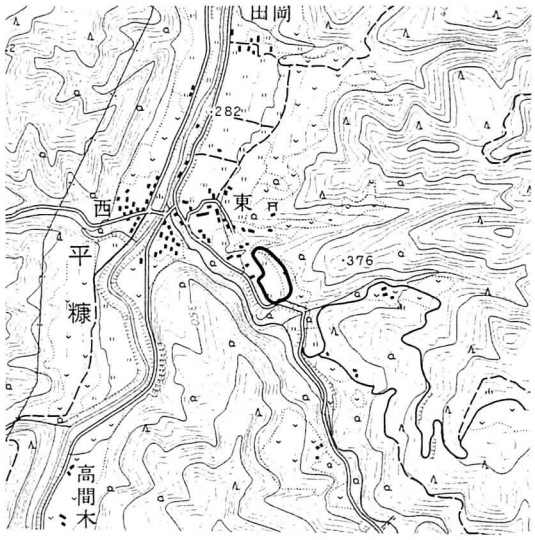
東Ⅳ遺跡（ＪＦ60－0106）

所在地：二戸郡一戸町平糠字東20－1、20－4

事業者：独立行政法人　緑資源機構

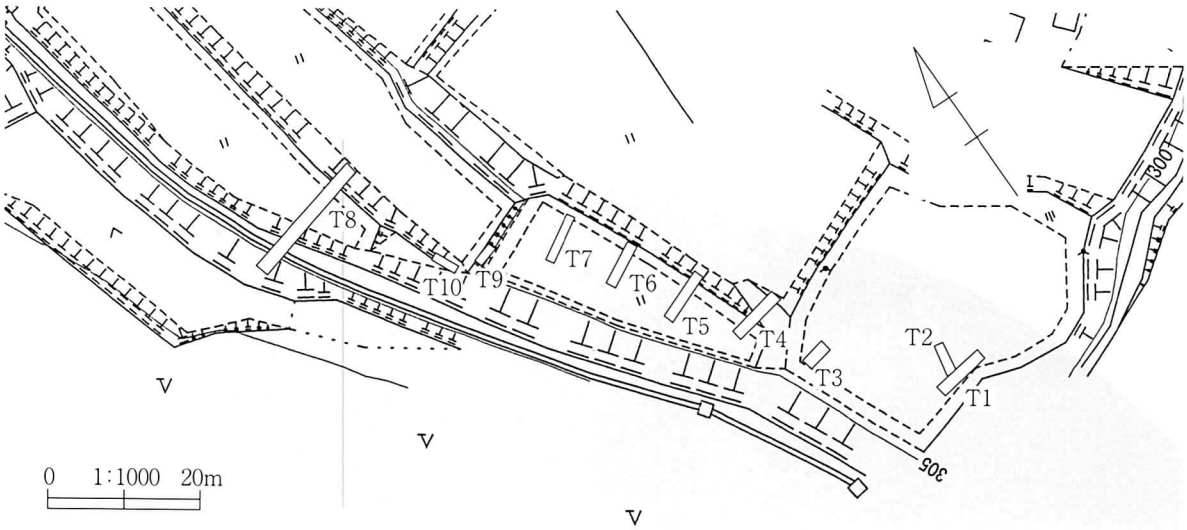
調査期日：平成17年10月31日

本遺跡は、ＩＧＲいわて銀河鉄道線小繋駅から東約5.5㎞に位置し、落合川右岸の河岸段丘上に立地する。標高は約300m前後を測り、現況は水田である。今回の調査は緑資源幹線林道開設事業に係わり、道路を新設する箇所についての試掘調査で、調査対象箇所にトレンチを10本設置した（T1～T10）。



第68図　東Ⅳ遺跡位置図

調査の結果、トレンチの斜面側(山側)では耕作土下に掘削された地山が顕れ、反対に谷側(川側)では過去に行われた水田造成工事に伴って、整地後に掘削した第Ⅳ層・褐色地山の上に盛土を40～150㎝と厚く施しているのが確認された。T1、T4、T7の一部では遺構・遺物を包蔵している可能性がある第Ⅲ層（黒褐色土）の堆積が確認された。遺構はT8の西側で土坑が１基検出された。土坑の規模は径120×120㎝、検出された深さは表土から約35㎝下であるが、周辺からは他に遺構・遺物は見つかっておらず、詳細な時期は不明である（ただし、埋土の状況から縄文時代の可能性が高い）。



第69図　東Ⅳ遺跡調査区位置図

19　松園養護学校整備事業

松屋敷遺跡（ＫＥ86－2378）

所在地：盛岡市上田字松屋敷

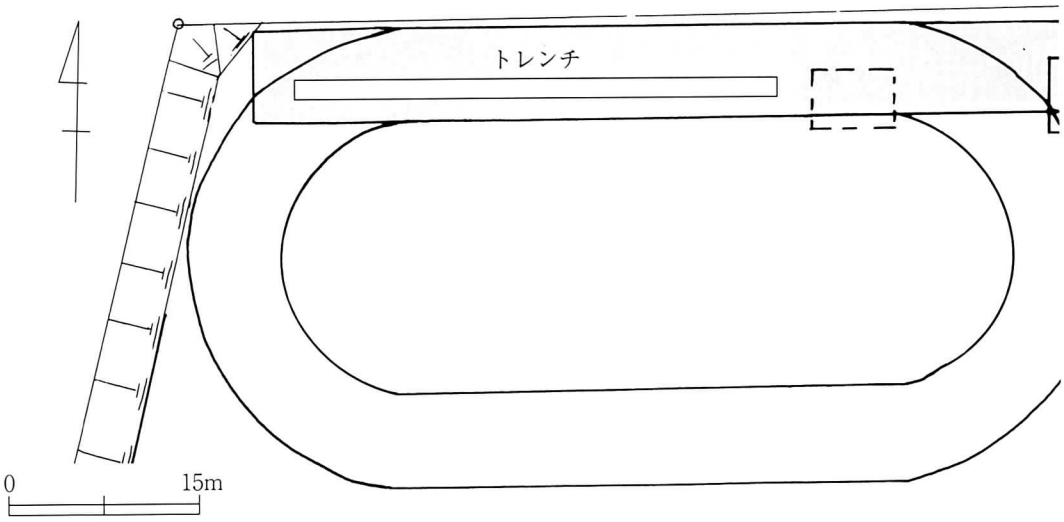
事業者：岩手県教育委員会事務局学校財務課

調査期日：平成17年11月９日

本遺跡は、盛岡市役所の北約6.5km、北上川によって形成された河岸段丘上に立地している。遺跡の標高は150ｍ前後を測り、現況は校庭となっている。

今回の調査は松園養護学校整備事業に伴うものである本遺跡については平成３年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって遺跡の一部の調査が実施されている。今回は学校の校庭にあたる部分の北側に新たに駐車場を整備することから、その駐車場予定地部分に約30ｍのトレンチを東西方向に１本設定して調査を実施した。その結果、トレンチの東側に当たる部分には一部攪乱が見られ、遺構、遺物ともに確認されなかったが、西側の旧表土の残存状況は良好で、地表－20cmほどの部分から縄文土器片が、また－30cmの地点からは直径60cmほどの石囲炉を伴う竪穴住居跡が検出されている。同遺構の詳細な時期は定かではないが、過去の発掘調査の報告などから縄文時代中期のものである可能性が高い。今回は試掘調査の面積が限られていたため、縄文時代中期の遺構のみの検出となったが、過去の調査報告から今回検出された遺構の下部に縄文時代早期の遺構・遺物が存在する可能性が高い。

第70図　松屋敷遺跡位置図



第71図　松屋敷遺跡調査区位置図

20　一般国道4号渋民バイパス改築工事関連調査

武道Ⅳ遺跡（ＫＥ57－0197）

所在地：岩手郡玉山村大字芋田字武道地内

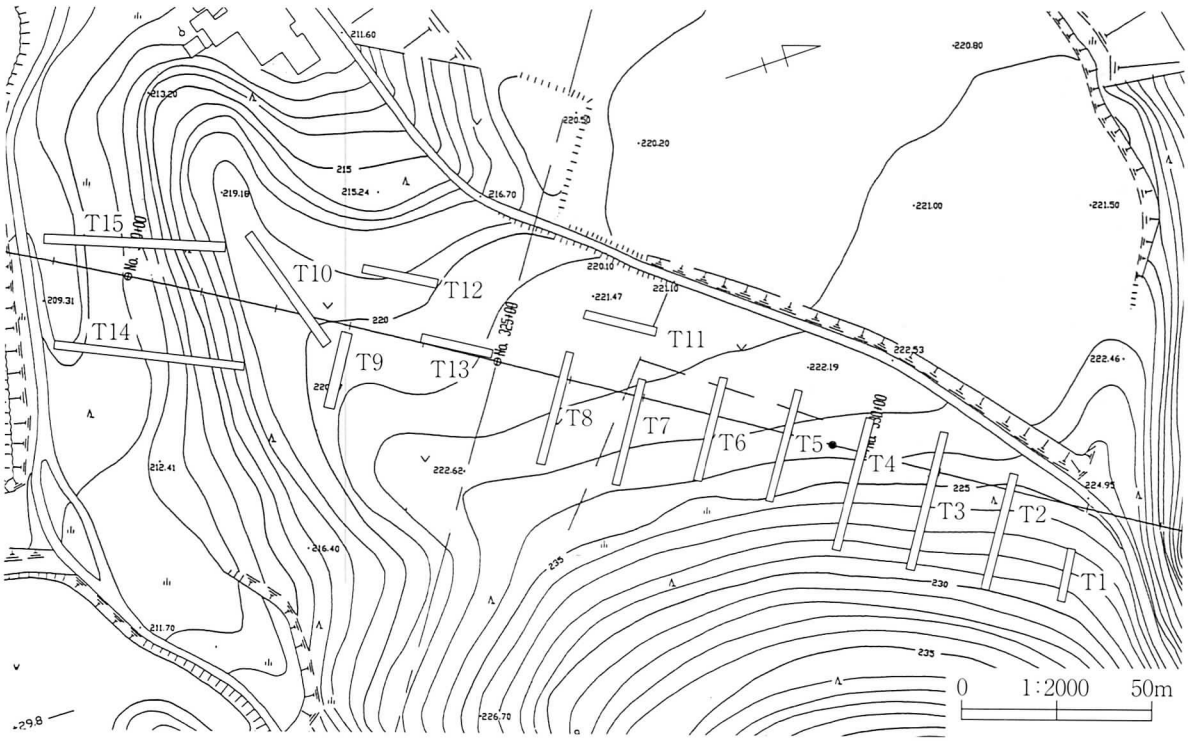
事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成17年10月27日～28日

遺跡は、玉山村役場の北東方向約2.5kmに位置し、北上川左岸の丘陵斜面に立地している。標高は210m～230mを測り、現況は主に山林である。今回の試掘調査は、国道４号渋民バイパス改築工事に伴って実施したものであり、本遺跡の北には、同様に計画路線上に位置する昼久保Ⅴ遺跡が隣接している。

第72図　武道Ⅳ遺跡位置図

調査区は、全長280m・幅50m前後の細長い範囲で、北部～中央部は西に下る緩斜面、中央部との間に沢を挟み南部は東西に延びる痩せ尾根となっている。南端部は尾根頂部から南側の沢に向かって急激に落ち込み、斜面の下部は沢との間に形成されたテラス状の平場となる。調査区には地形状況を考慮しながら計15本のトレンチを設定した。調査区における基本層序は、第Ⅰa層　黒褐色土（表土、木根・草根多く締まり疎）、第ⅡⅠb層　暗褐色土、第Ⅱ層　褐色土（Ⅰ層・Ⅲ層間の漸移層）、第Ⅲ層　黄褐色土（Ⅳの浮石片やや多く含む。以下地山）、第Ⅳ層　黄橙色浮石、第Ⅴ層　黄褐色粘土の順である。T1～T8、T11は、調査区の西縁に面する沢跡に向かって下る斜面に位置し、上記の基本層序Ⅰ～Ⅱ層が１m前後の厚さで堆積したもので、T12ではやや厚い堆積が認められたが（Ⅰ～Ⅱ：120cm）、T13では薄いⅠ層（20cm弱）の下位に地山層が露出する状況が確認され、現況は改変を受けたものであることが判明した。T9・T10は南側の尾根頂部の様相を探ることを目的として設定したもので、周囲の斜面部及び沢部に比してⅠ～Ⅱ層の堆積は薄くⅠ～Ⅱの層厚は30～50cmであった。以上のT1～T3からは遺構・遺物とも確認されなかった。T14・T15は南部尾根の南側斜面から低位部の平場に至る範囲に設定したものである。いずれのトレンチにおいても、斜面部での表土の発達は不良（Ⅲ層上面まで20cm弱）であり、一方、斜面下部には100cmを超える堆積が認められた。斜面下部の低位面に相当するT15の南端部では、地表面下位100cmのⅢ層上面において土坑２基が近接して検出された。北側のものが径100cmの円形、南側のものはトレンチ外にはみ出し、全容が未確認であるが、径60cm以上の円形を呈すると思われる。遺物の出土はなく、詳細な時期は不明と言わざるを得ないが、人為により構築された埋蔵文化財である可能性は高く、周囲の精査が必要と判断された。（平成18年度本発掘調査予定）



第73図　武道Ⅳ遺跡調査区位置図

21　一般国道４号渋民バイパス改築工事関連調査

昼久保Ⅴ遺跡（ＫＥ57－0168）

所在地：岩手郡玉山村大字芋田字昼久保地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

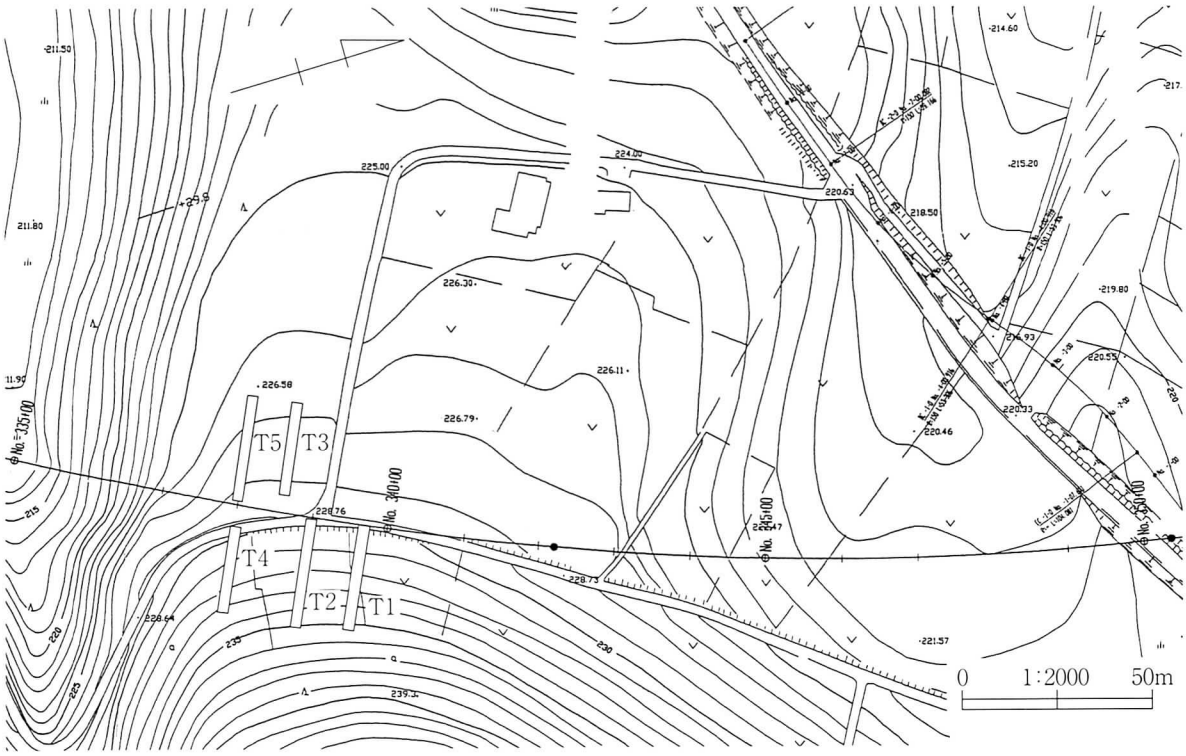
調査期日：平成17年10月27日

遺跡は、玉山村役場の北東方向約2.5kmに位置し、山地から延びる尾根の先端部に立地している。遺跡の標高は約230m前後を測り、現況は主に畑地となっている。

今回の調査は、国道４号渋民バイパス改築工事に伴うものであるが、本遺跡については、平成16年度に当課で試掘調査を実施した結果埋蔵文化財が確認され、平成17年度に地元玉山村教育委員会による発掘調査が実施されている。今回の調査区は、発掘調査区に隣接した箇所が対象である。調査対象区に６本のトレンチを設定した（T1～T6）。

第74図　昼久保Ⅴ遺跡位置図

T3及びT5を旧来の遺跡範囲内に、T1及びT2、T4、T6を遺跡隣接箇所に設定した。丘陵状の高まりを示す雑種地にT3及びT5を設定した。調査区における基本層序は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層黒褐色～黒色土（黄褐色土粒を含む。）、第Ⅳ層暗褐色土（黄褐色土を含む。）、第Ⅴ層漸移層（検出面）、第Ⅵ層黄褐色土の順である。T5において、60×70cm大の土坑1基、40×50cm大の土坑1基が検出されたほか、第Ⅲ層からは、磨石の破損品１点が出土している。遺跡隣接地にT4を設定した。T4を設定した箇所は、やや傾斜のきつい斜面であったが、トレンチ西端付近で30×45cm大の土坑1基が検出された。遺物を伴っていなかったため構築時期は不明である。傾斜のきつい斜面下にT6を設定した。トレンチ内の層序は、第Ⅰ層、第Ⅱ層、第Ⅳ層相当層、第Ⅵ層相当層であた。第Ⅱ層に縄文時代中期に属すると思われる土器片及び礫石器の破損品等を含む遺物包含層が確認された。T6でも、遺物が確認されたことから、傾斜の比較的緩い沢周辺までこの包含層は拡がっているものと思われ、土器捨て場の可能性があると推測した。（平成18年度本発掘調査予定）



第75図　昼久保Ⅴ遺跡調査区位置図

22　一般国道46号盛岡西バイパス改築工事関連調査

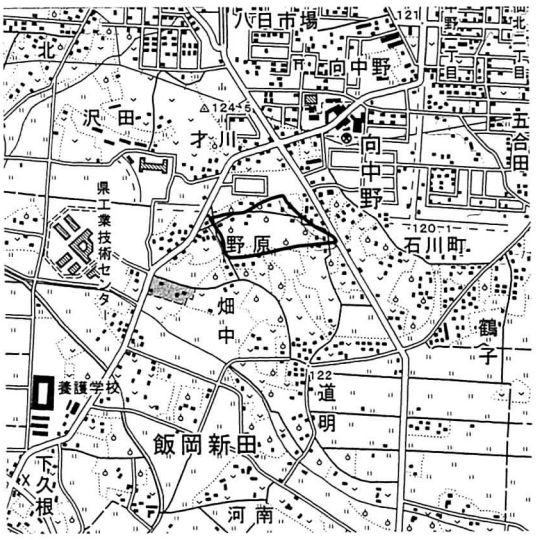
細谷地遺跡（ＬＥ26－0214）

所在地：盛岡市向中野細谷地地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成17年８月29日

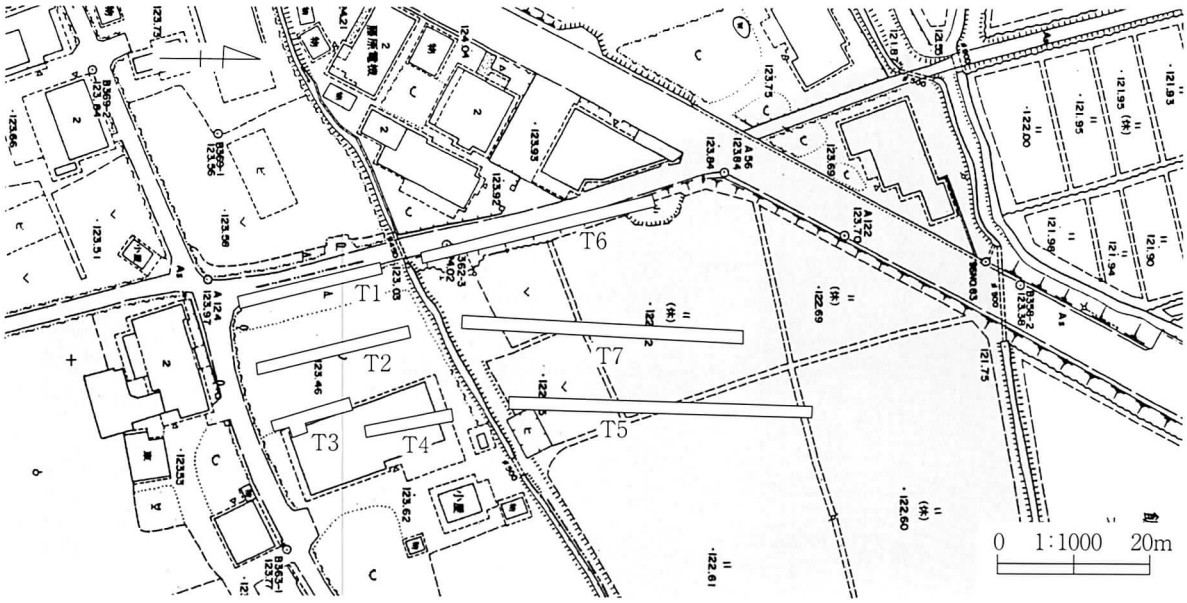
遺跡は、盛岡市役所の南西方向約約3.3kmに位置し、雫石川右岸の河岸段丘上に立地している。本遺跡に隣接して矢盛遺跡が所在し、近接して飯岡才川遺跡が所在している。今回の調査は、一般国道46号盛岡西バイパス改築工事に伴うもので、バイパス設置予定箇所が対象である。トレンチは７本設定したが、緩やかな北斜面上に設定したトレンチのうちT4の第Ⅲ層の褐色土から幅90cmの溝跡が１条検出された。この溝の周囲から、摩滅が激しい土師器片と思われる土器片が１点出土した。



第76図　細谷地遺跡位置図

T1～T4を設定した場所は攪乱を受けている箇所が多かった。T1～T4を設定した場所と水路を挟んで北側にある一段低い旧水田跡地にT5～T7を設定した。T6においては、表土直下に褐色粘土質シルトの地山が現れ、T5においても旧水田耕作土の下に盛土層が認められたことから、水田造成の際に大きく地形改変を受けていることが伺えた。地形改変を受けてはいるものの、T5においては溝跡２条、径170cmの土坑１基及び柱穴３基が、T6においては、柱穴４基及び径140cmの規模を示す土坑１基が、T5とT6のほぼ中間に設定したT7においては、柱穴６基が検出された。柱穴の規模は25～40cm大で円形を示していた。遺物は、攪乱層からではあるが近世陶磁器碗底部片が１点出土した。

今回の調査では、住居跡については確認できなかったが、周囲に所在している飯岡才川遺跡等の検出状況から、今回の調査区内においても数は僅かながら所在している可能性はあると思われた。



第77図　細谷地遺跡調査区位置図

23　一般国道46号盛岡西バイパス改築工事関連調査

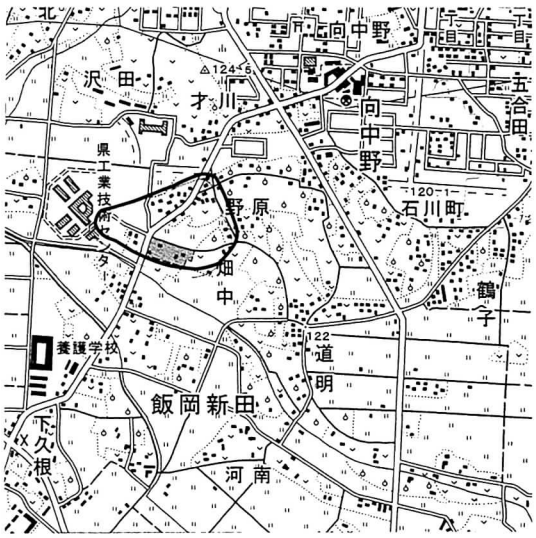
矢盛遺跡（ＬＥ26－0139）

所在地：盛岡市向中野字野原41－１ほか

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

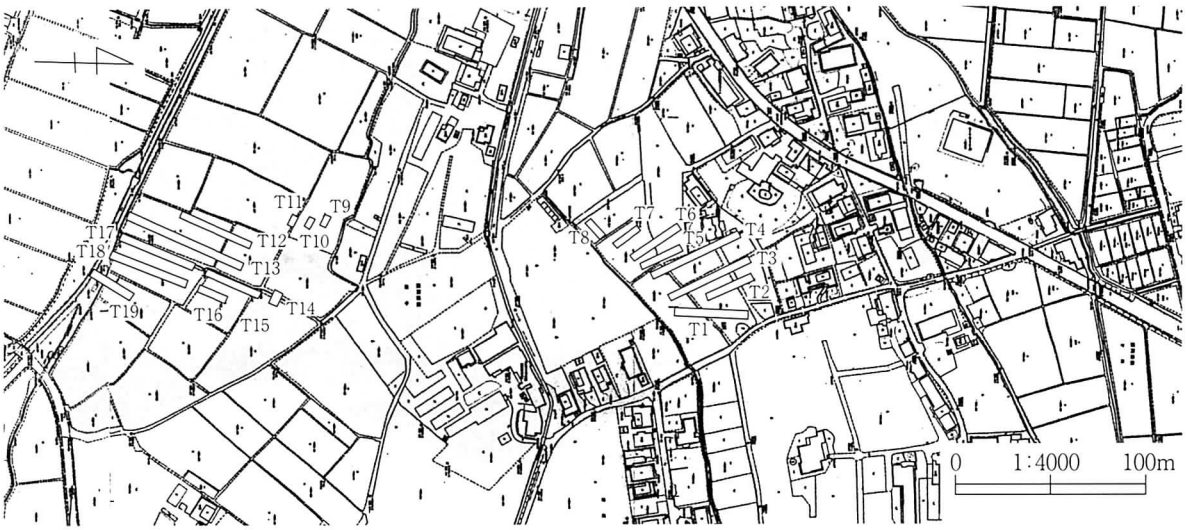
調査期日：平成17年８月30日

遺跡は、ＪＲ盛岡駅の南約3.5kmに位置し、雫石川右岸の河岸段丘上に立地している。遺跡の標高は123m前後を測り、現況は畑地である。今回の調査は一般国道46号盛岡西バイパス改築工事に伴うもので、バイパス設置予定箇所が対象である。調査の結果、T1～T6の北側の高位面では表土下に削平を受けた第Ⅲ層及び第Ⅳ層が確認された。T2以外の低位面（南側）では旧沢跡の埋土である第Ⅱ層が一部で確認されたが、それ以外は高位面と同様に表土直下で削平された第Ⅲ層・第Ⅳ層が現れる。北側調査区において、遺構、遺物は確認されなかった。



第78図　矢盛遺跡位置図

盛岡市教育委員会で試掘を実施した南側調査区では北側のT9及び南側のT13・T17～T19で古代の溝状遺構が検出されている。



第79図　矢盛遺跡調査区位置図

24　一関遊水地事業関連調査

坂下遺跡（ＮＥ76－0000）

所在地：西磐井郡平泉町平泉字坂下

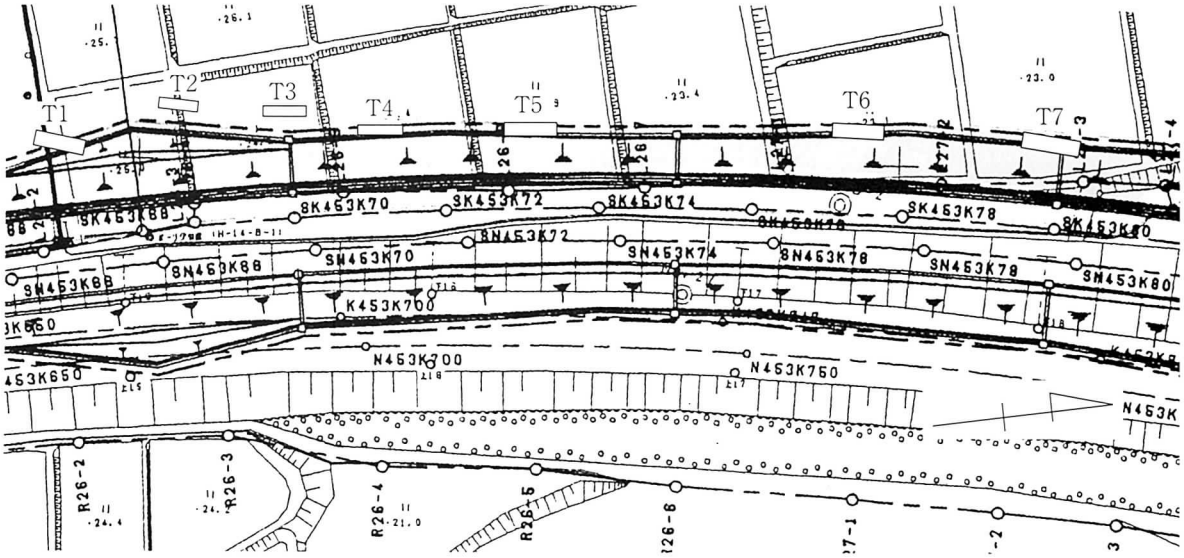
事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成17年３月８日～９日

第80図　坂下遺跡位置図

本遺跡は、ＪＲ東北本線平泉駅の北西約1.5kmに位置し、北上川右岸の河岸段丘上に立地し遺跡の標高は35m前後を測る。現況は水田と宅地である。東北本線を挟んで東側は衣川と北上川により形成された沖積地に向かって急斜面となっており、西側は沖積地に向かって緩斜面となっている。今回の調査は一関遊水地事業に係るもので、本事業に関連して敷設替えさせられるＪＲ東北本線予定地に７本のトレンチを設定した。

調査の結果、T1トレンチにおいて柱穴２基を確認し、同遺構から土師器片が出土した。柱穴の平面形は円形、規模はそれぞれ直径30cmと直径20cmであった。土師器片は基本層序第Ⅱ層の暗褐色土中から出土した。T1～T3付近では、耕作土直下に漸移層である基本層序第Ⅱ層の暗褐色土の広がりを確認した。T4～T7では、耕作土は盛土でその下層に旧表土を確認した。このことから、旧地形はT1からT7に向かって現況より急斜面になっていたことがわかった。調査対象箇所は、ＪＲ東北本線向かいの緩斜面となっている。T1とT2の間に幅約10mの沢跡を確認したことや東北本線の反対側の地形にも沢跡が確認できることから、調査対象箇所は河岸段丘の縁辺部であったと考えられる。現況の地形は、沢跡を東北本線建設やほ場整備の際に盛土したものと考えられる。



第81図　坂下遺跡調査区位置図

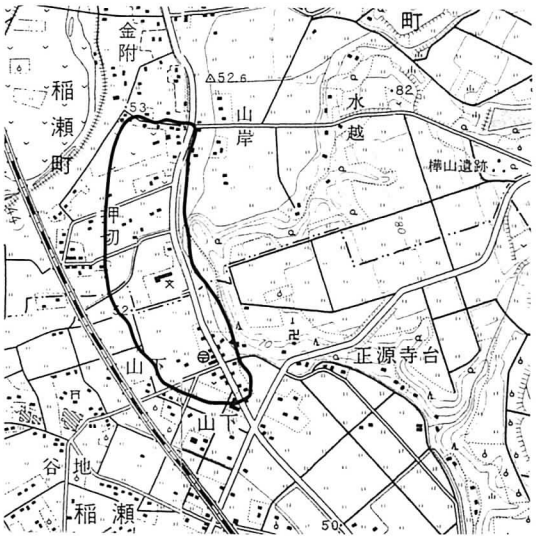
25　緊急地方道整備事業関連調査

境遺跡（ＭＥ86－0069）

所在地；北上市稲瀬町地蔵堂

事業者；北上地方振興局土木部

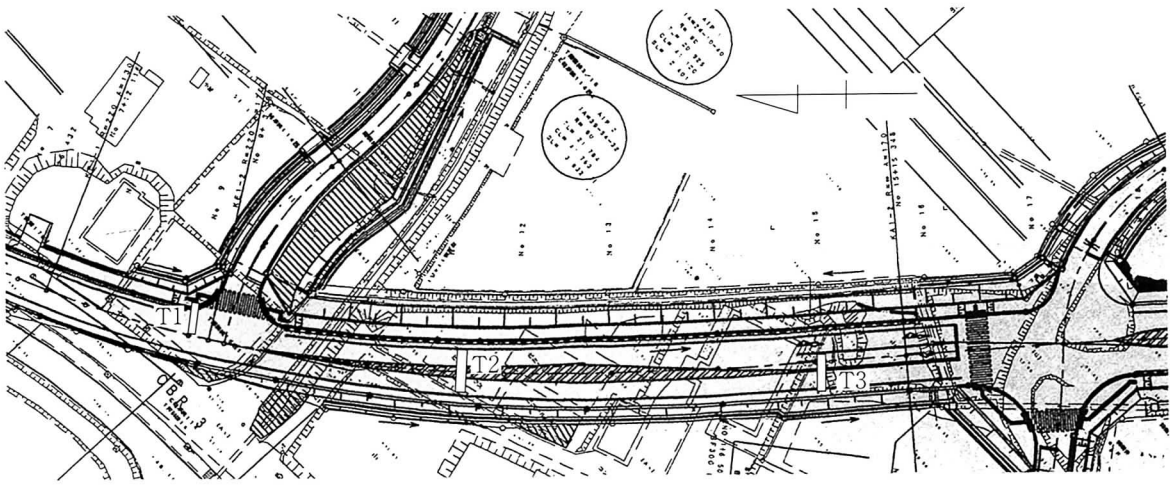
調査期日；平成18年３月14日



第82図　境遺跡位置図

遺跡は、北上市役所の南約５㎞に位置し、北上川によって形成された自然堤防上に立地している。遺跡の標高は50～51ｍ前後を測り、現況は主に水田となっている。今回の調査は緊急地方道整備事業に伴うものである。今回の調査では過去に平安時代の遺物が確認されていることから、古代に営まれた集落の位置を推測して地形の異なる３地点にＴ1～Ｔ3のトレンチを設定した。Ｔ1は今回の調査区では最も低い位置にあたり、同トレンチの層序を観察すると耕作土の下に褐色砂礫層が入り、その下にグライ化した青灰色砂質土が入る。これを掘るとその下は洪水堆積層と見られる褐色土と暗褐色土が交互に入り、地表から－390㎝ほどの地点で褐色砂礫層が確認された。本トレンチからは遺構、遺物は確認されなかった。Ｔ2はＴ1から北側に隣接する市道を隔てて位置する田面に設定した。本地点はＴ1を設定した田面に比べて高い位置にある。本トレンチの層序は表土・耕作土の下に旧耕作土の暗褐色土が堆積し、その下に洪水堆積層の褐色砂質土が入る。その下がやや黒みがかった極暗褐色土で、この上面が遺構の検出面であり、ここから竪穴住居跡が確認された。焼土、炭化物及び内黒の土師器が出土しており、底部が裏返しになって残りが非常に良いものと思われるものも１点確認されている。Ｔ3はＴ2の北東に隣接する畑地に設定した。Ｔ2を設定した水田とＴ3を設定した畑地の間は水路で区切られており、畑地の方が水田より一段低い。Ｔ3からは遺構、遺物は確認されなかったが、層序はＴ2のものと全く同じであり、この面でも遺構、遺物が所在する可能性は高い。

今回の調査区は南西側の高位面から緩やかに広がる微高地にあたり、竪穴住居跡が確認された地点はその中でも比較的高い面にあることから、当時の人々は微高地の斜面に居住していたものと見られる。



第83図　境遺跡調査区位置図

26　県単道路改良事業関連調査

野田Ⅰ遺跡（ＭＥ56－2213）

所在地：北上市才の羽々地内

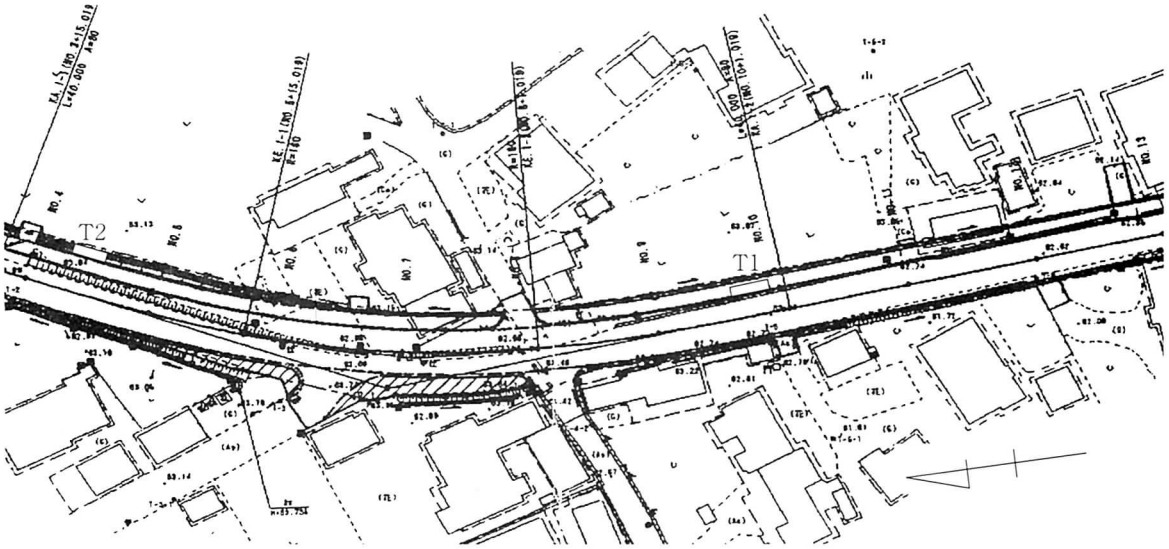
事業者：北上地方振興局土木部

調査期日：平成18年３月15日

第84図　野田Ⅰ遺跡位置図

遺跡は、北上市役所の北東約3.2kmに位置し、北上川支流の大堰川右岸に形成された沖積地上の微高地に立地している。現況は主に水田及び宅地となっている。今回の調査は歩道設置工事に伴うもので、歩道設置予定箇所及び道路側溝新設箇所が対象である。試掘調査に先立ち、当課で現地踏査をした際、石器の剥片を１点表面から採集した畑地にＴ1を設定した。第Ⅲ層上面で、径20～25cm大の柱穴状土坑が４基検出され、このうち３基は間尺が90cmであり、互いに規則性を有して並んでいたことから、掘立柱建物を構成する柱穴列であると推測した。遺構の埋土は黒色で、固くしまっていた。遺物については確認できなかったため、遺構の構築時期は不明である。

Ｔ1を設定した畑地に比べて約50cm低い畑地にＴ2を設定した。遺構及び遺物は確認できなかった。本遺跡は、縄文･弥生及び古代の複合遺跡であるから、複数の検出面が所在している可能性があることから、Ｔ1及びＴ2の一部を掘り下げたが、縄文時代、弥生時代の生活面と思われる層については確認できなかったことから、検出面は１面であると推測した。また、Ｔ1及びＴ2においても、基本層序どおりの堆積を示し、Ｔ1から約80ｍ離れた標高の低い畑地に設定したＴ2においても検出面が確認されていることから、遺構が広い範囲で所在している可能性が高いと判断した。



第85図　野田Ⅰ遺跡調査区位置図

27　ほ場整備事業中寺林地区関連調査

八幡Ⅲ遺跡（ＬＥ96－2227）

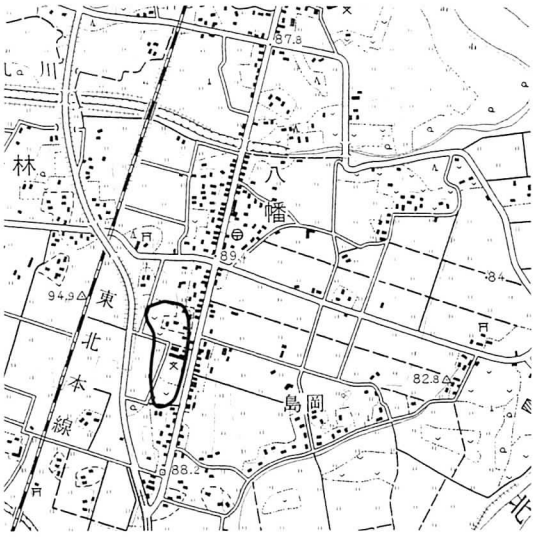
所在地：石鳥谷町中寺林地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成17年10月31日

平成18年１月10日・12日

遺跡は、ＪＲ東北本線石鳥谷駅の南約２㎞に位置し、北上川支流耳取川と葛丸川に挟まれた河岸段丘上に立地し標高は90m前後を測る。平安・近世の遺跡として周知されている。今回の調査は、ほ場整備事業に係るもので、パイプライン、給水栓設置箇所が対象である。調査対象箇所に13本のトレンチを設定した（T21～T33トレンチ番号は八幡Ⅱ遺跡からの続き）。

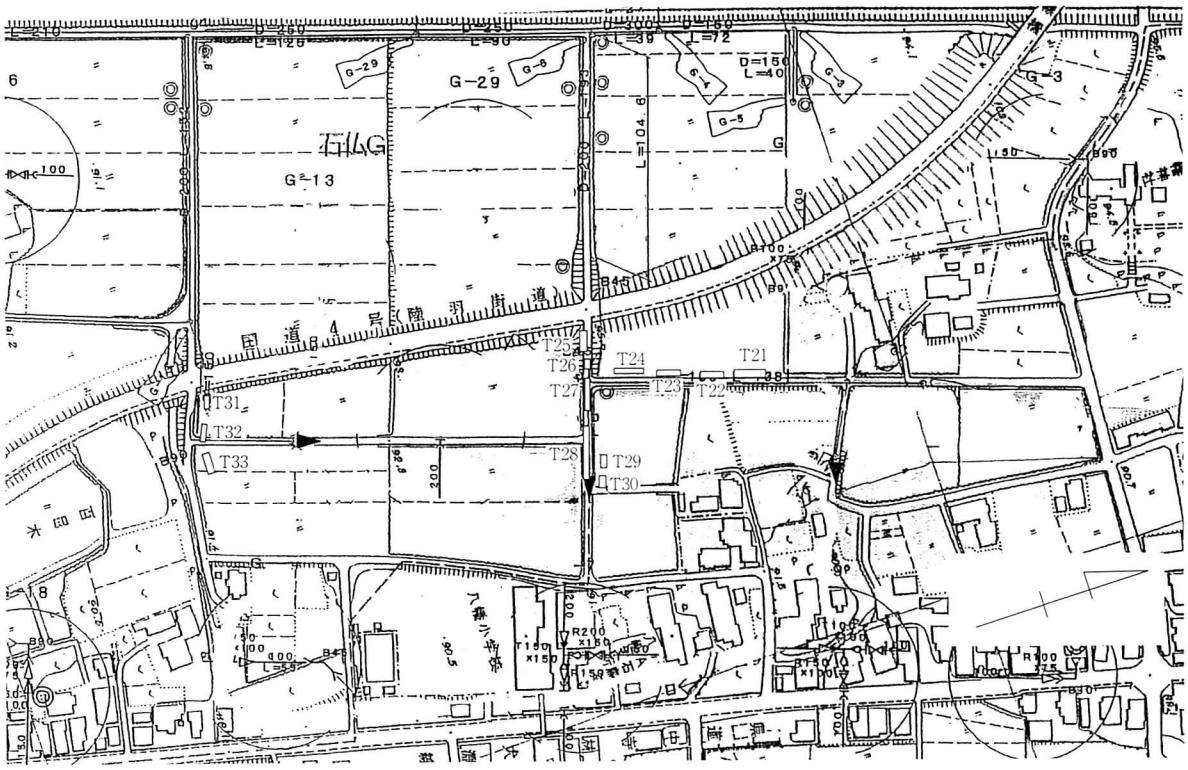


第86図　八幡Ⅲ遺跡位置図

調査の結果、路肩に設定したT21において、土坑１基と溝状遺構１条を確認した。土坑の規模は80cm×30cm以上で埋土は黒色土であった。溝状遺構は幅330cmで東西方向に伸び、トレンチ断面を掘り下げ確認したところ基本層序とは異なる黄褐色土粒がレンズ状に堆積していた。遺構の規模から堰跡の可能性も考えられる。

T17、T18（八幡Ⅱ遺跡）では、150cmの盛土下層に湿地土の黒褐色土を確認した。T22では旧表土が残っていたが、遺構及び遺物は確認できなかった。T24～T33は、盛土下層は黄褐色の地山及び地山下層の砂層であった。

調査対象箇所は開田の際に旧地形が大きく改変された箇所であり、遺構が確認されたT21は、周囲より一段高かったため、改変の影響をあまり受けずに済んだため旧地形がが残ったと推測される。今回遺構が確認された場所は、八幡Ⅱ遺跡と隣接した箇所であり地形も連続していることから、八幡Ⅲ遺跡と八幡Ⅱ遺跡は同一遺跡の可能性も考えられる。



第87図　八幡Ⅲ遺跡調査区位置図

28　ほ場整備事業中寺林地区

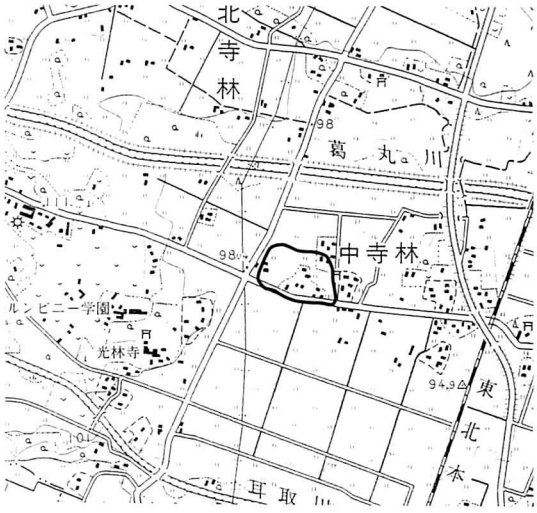
八坂遺跡（ＬＥ96－1159）

所在地：花巻市石鳥谷町中寺林地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成17年10月31日、12月２日

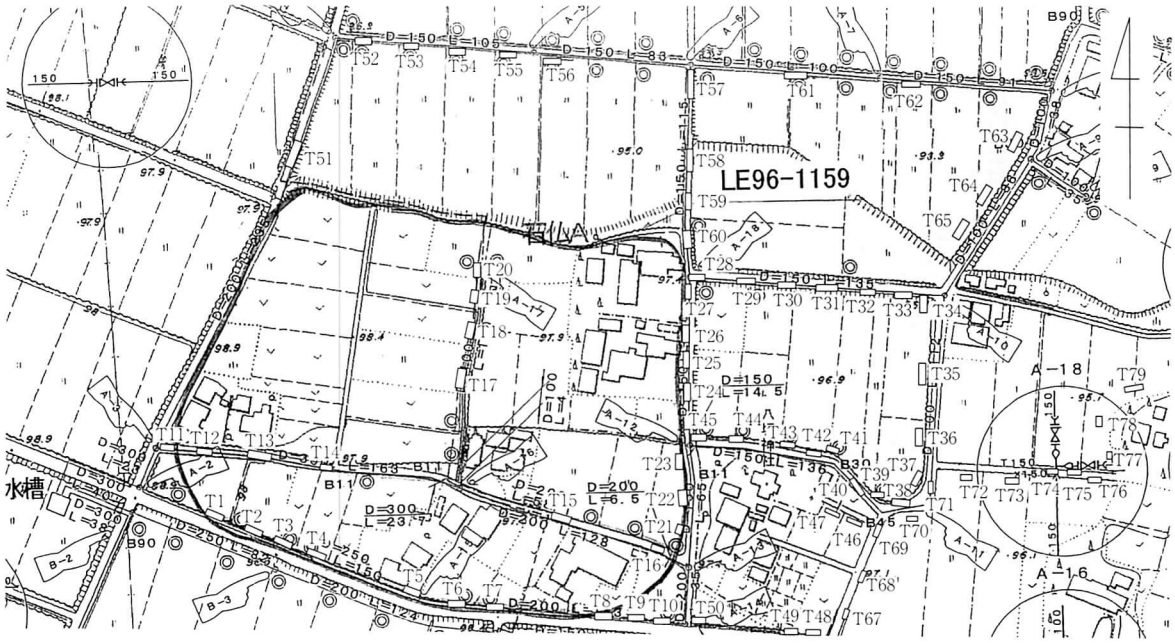
平成18年１月10日、11日、27日



第88図　八坂遺跡位置図

本遺跡は、花巻市役所石鳥谷総合支所の南西約1.5km、北上川の支流耳取川と葛丸川に挟まれた河岸段丘に立地している。遺跡の標高は98m前後を測り、現況は畑地、農道及び水田となっている。今回の調査はほ場整備事業に伴うものである。

今回の調査では遺跡の中央部、南辺部及び東辺部を中心とした区域のほか、遺跡の北側及び東側の隣接部にもトレンチを入れて調査を実施した。今回の事業は道路の路肩及び田面の畦道部にパイプラインを設置したり給水栓を取り付けたりするものであり、今回のトレンチもその部分に沿って設定した。本遺跡の南端にあたるＴ1～Ｔ10及びＴ48～Ｔ49、Ｔ1～Ｔ9については遺構、遺物とも確認されなかったが、Ｔ50については柱穴状土坑が４基確認された。確認面は第Ⅲ層上面である。Ｔ51の土坑はトレンチの北端から検出された。Ｔ10の柱穴はその距離から考えてＴ50から検出されたものと関連する可能性もある。土坑の規模は径25～35cmほどである。南端の道路沿いから一本北の道路沿いに設置したＴ11～Ｔ16ではＴ12から地表－15cmで幅30cmの溝跡１条、Ｔ14では地表－50cmで幅70cmの溝跡１条をそれぞれ検出した。またＴ15からは地表－40cmから径30cmの柱穴状土坑が１基確認された。遺跡の中央部を南北に縦断する路線上に設置したトレンチのうちＴ18からは地表－100cmの地点で土師器片を少量包含する黒褐色土層の堆積が確認された。層厚は20cm程度である。また隣接するＴ17でも－100cmで径150cm以上の住居状遺構が検出された。遺跡の東端のＴ21からは－40cmから径30cmの柱穴状土坑が１基、Ｔ30からは柱穴状土坑が２基、それぞれ確認されている。



第89図　八坂遺跡調査区位置図

29　ほ場整備事業（白山地区）

道上遺跡（ＮＥ47－0045）

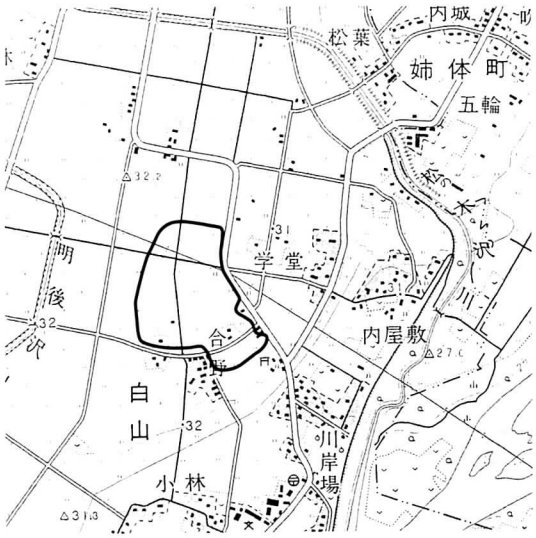
所在地：胆沢郡前沢町白山字道上地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成17年９月８日、９日

本遺跡は、前沢町役場の北東約３kmに位置し、北上川右岸の河岸段丘上に立地している。遺跡の現況は水田跡で標高は約31m前後を測る。

今回の調査はほ場整備事業に伴うもので、事業予定地内にトレンチを49本設置した。調査の結果、いずれの調査区も過去の整備事業における影響で地形が改変されている状況であった。



第90図　道上遺跡位置図

調査区西側（Ｔ4～Ｔ9、Ｔ12～Ｔ19）は低位面で、水田開田時の造成で地山まで削平されている箇所が多く、遺構はＴ7、Ｔ13、Ｔ16で溝状遺構、Ｔ11で土坑等が確認されているが、詳細時期は不明で遺物は出土していない。時期が確認されている遺構では、調査区中央の一段高い面にあるＴ27から竪穴住居跡・土坑が確認され、遺構の埋土や周辺から土師器坏・土師器甕の破片が出土している。また調査区東側のＴ32で古代の竪穴住居跡、Ｔ33で土坑が確認されるなど遺構が点在してみつかっている。また、Ｔ28～Ｔ31、Ｔ36、Ｔ45～Ｔ49では表土直下に地山が確認されるなど場所によって開田時の掘削の影響等により遺構検出面の残存状況が大きく異なっているのが確認された。

第91図　道上遺跡調査区位置図

30　資源リサイクル畜産環境整備事業
下閉伊北部地区関連調査

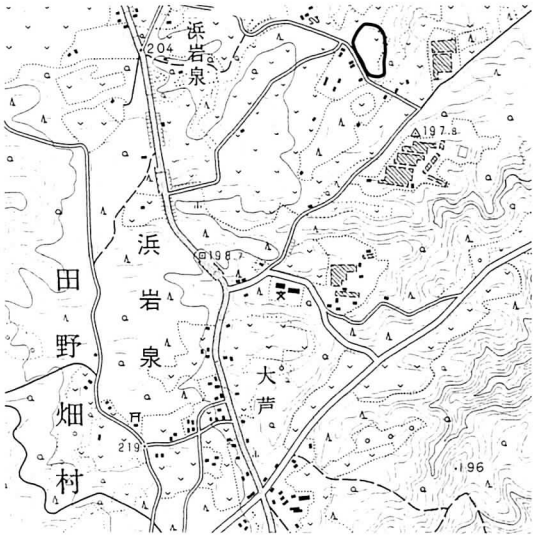
島越Ｖ遺跡（ＫＧ33－1191）

所在地：下閉伊郡田野畑村島越地内

事業者：宮古地方振興局農政部

調査期日：平成17年８月23日、24日、25日

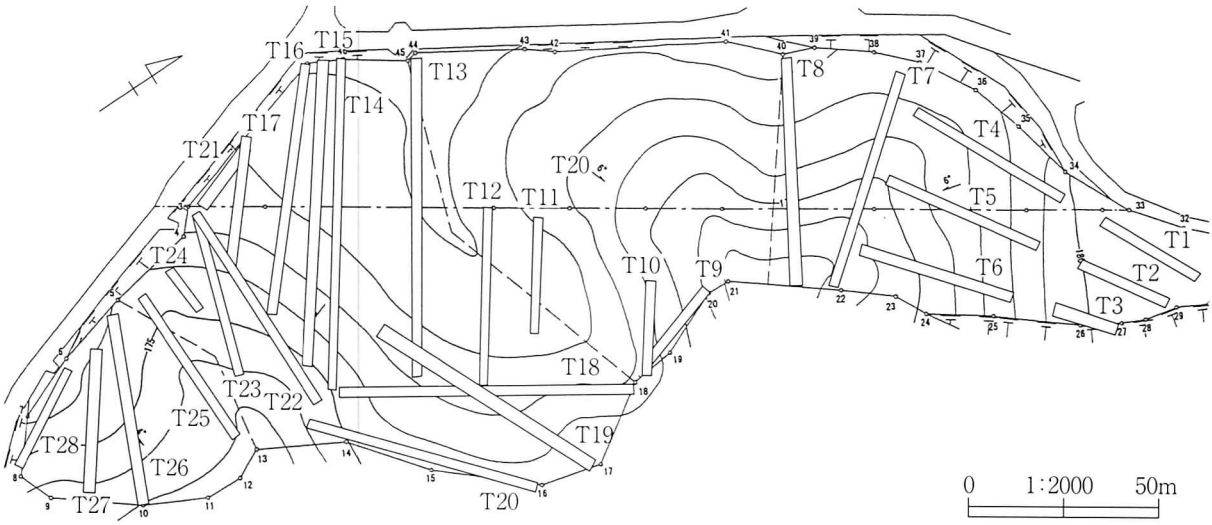
調査対象箇所は、田野畑村役場南東約4.2kmに位置し海岸段丘上に立地する。標高は185m前後を測る。現況は、主に草地となっている。遺跡は、縄文時代の集落跡として周知されている。今回の調査は、資源リサイクル畜産環境整備事業に係り、草地改良箇所、草地切土対象箇所が対象である。調査対象箇所に28本のトレンチを設定した（T1～T28）。



第92図　島越Ｖ遺跡位置図

調査の結果、調査対象箇所中央部のT11とT12において焼土状遺構２基を確認した。T11で確認した焼土状遺構は、深さ50cmの盛土直下、直径40cm円形を呈していた。T12で確認した焼土状遺構は深さ60cmにおいて、直径70cm円形を呈し、焼成もしっかりしていた。T12の遺構付近は漸移層と思われる褐色土が残っている。遺構周辺から縄文土器片も出土したことから、焼土状遺構が住居跡に伴う可能性もあると考え、トレンチを広げ住居跡の壁の立ちあがり等を探したが確認できなかった。 調査対象箇所南側のT27において、深さ80cmの盛土直下地山面において、130×80cmの楕円状土坑を確認した。盛土周辺に焼土粒がブロック状に混在する点、埋土から銅銭が出土した点などから、近世の墓坑の可能性もある。

調査対象箇所北側の斜面は表土直下地山で、漸移層がみられなかった。焼土状遺構を確認した中央部は、南東向きの緩斜面となっているが、上部は表土を剥ぐと地山が現れ、下部は盛土直下礫層が広がっていた。南側は、盛土内にゴミが混在していた。以上のことから、旧地形は、前回の草地造成等において大きく改変されたことが分かった。



第93図　島越Ｖ遺跡調査区位置図

31　資源リサイクル畜産環境整備事業
下閉伊北部地区関連調査

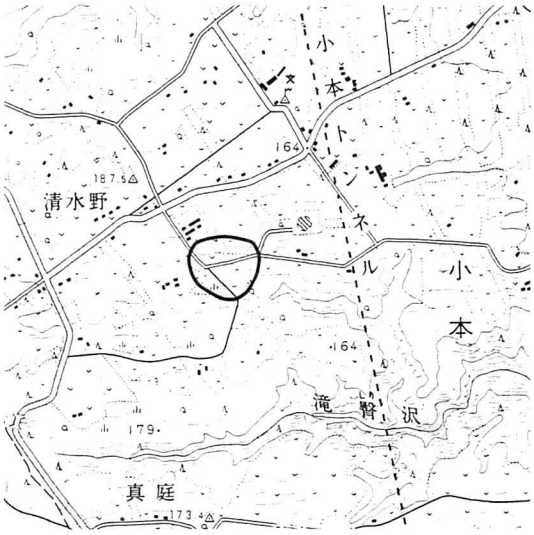
清水野Ⅴ遺跡（ＫＧ43－2376）

所在地：下閉伊郡岩泉町小本

事業者：宮古地方振興局農政部長

調査期日：平成17年９月６日

遺跡は、三陸鉄道北リアス線小本駅から北北西約2.6kmの海岸段丘上に立地する。調査対象区の現況は草地で、現道に面する北西半部（高位面）はほぼ平坦、南東側は沢に向かってやや急に落ち込む地形を呈している。

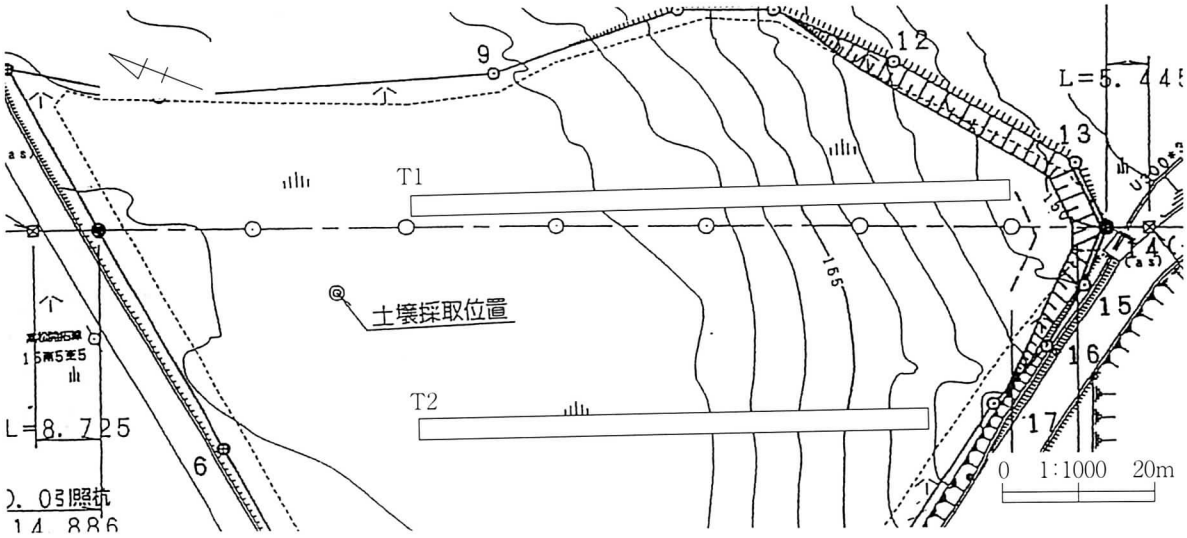


第94図　清水野Ⅴ遺跡位置図

今回の調査は畜産環境整備事業に係るもので、草地再造成箇所が対象である。高位面の縁を低位部へ切り崩すことで斜面の平滑化を図る設計であることから、高位面から切り土予定範囲、さらに低位部を連続して観察できるトレンチを２本設定した。

調査の結果、縄文時代（中期？）竪穴住居跡４棟、縄文時代（詳細時期不明）土坑５基が切り土予定箇所である高位面縁辺部付近に集中して検出された。また斜面部から低位面にかけては縄文土器片を包含する褐色土層の良好な堆積が検出された。

一方、高位面では10～15cmほどの現表土直下に地山が露出し、Ⅱ層の残存は確認されないことから、後世の整地による平坦面であることが明らかだが、周辺に残存する原地形と比較すると改変の度合いは低く、遺構が残存する可能性は高いと判断した。



第95図　清水野Ⅴ遺跡調査区位置図

32　資源リサイクル畜産環境整備事業
下閉伊北部地区関連調査

浜岩泉Ⅵ遺跡（ＫＧ33－1030）隣接地

所在地：下閉伊郡田野畑村浜岩泉192

事業者：宮古地方振興局農政部

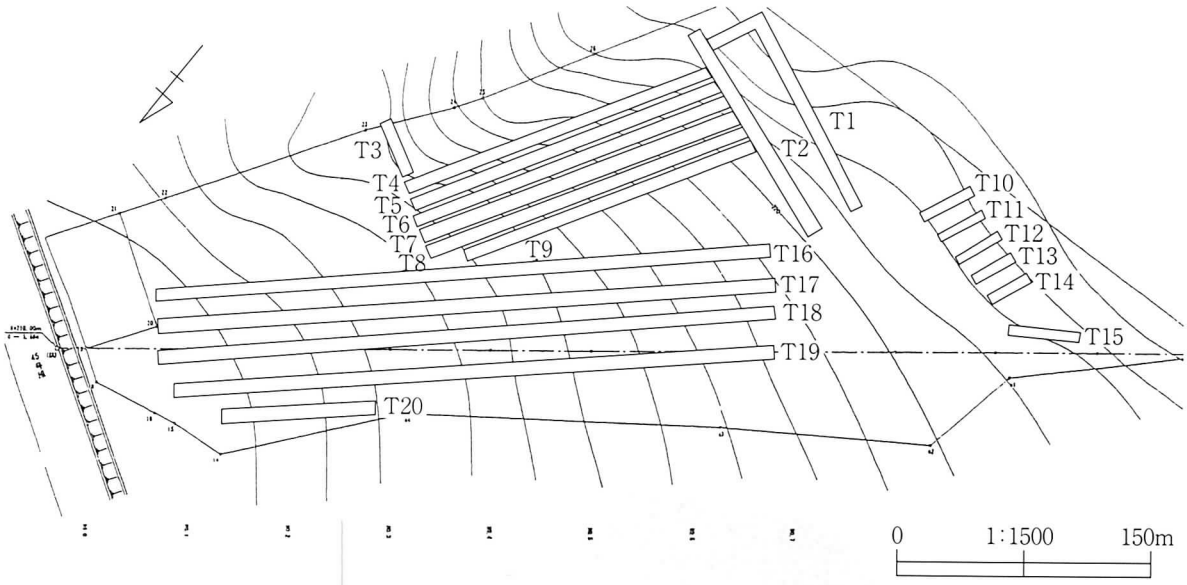
調査期日：平成17年８月26日、９月５日～６日

本調査区は、田野畑村役場の北東約3.3kmの海岸段丘上に立地する。調査区の標高は200～225mを測り、現況は牧草地となっている。

第96図　浜岩泉Ⅵ遺跡隣接地位置図

今回の調査は畜産環境整備事業に係るもので、草地再造成箇所が対象である。今回の事業においては調査区の南側の高い部分の切り土を行い、その土を調査区北部を中心とする低い部分に盛土をする計画であることから、最初に調査区南部の高位面をを中心に調査を実施した。その結果、調査区北東から北へ15m、そこから西へ７mの位置（Ｔ3南東隅部分）から径60×65cmほどの土坑が１基確認された。同遺構は地表－40cmの地点より検出されている。さらにＴ15の南西部より径90×95cmの土坑が地表－25cmの地点から検出された。

今回確認された遺構は以上土坑２基であったが、いずれも標高220mを超える地点から確認されており、盛土を予定した低位面からは遺構が確認されなかった。遺物は伴わなかったため、遺構の時期は不明である。



第97図　浜岩泉Ⅵ遺跡隣接地調査区位置図

33　資源リサイクル畜産環境整備事業
下閉伊北部地区関連調査

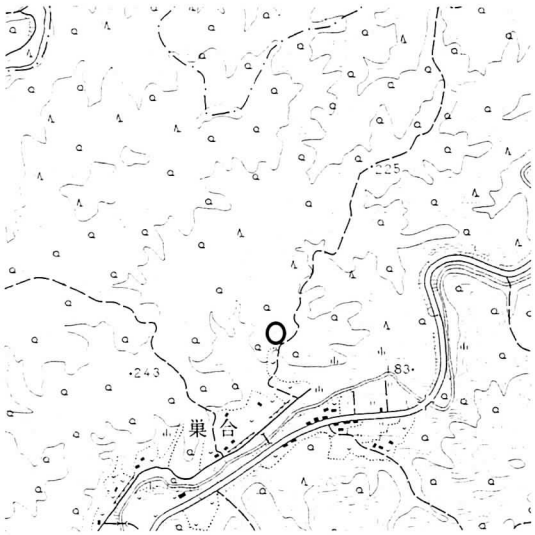
可能性あり③

所在地：下閉伊郡田野畑村萩生地内

事業者：宮古地方振興局農政部

調査期日：平成17年７月６日

８月４日

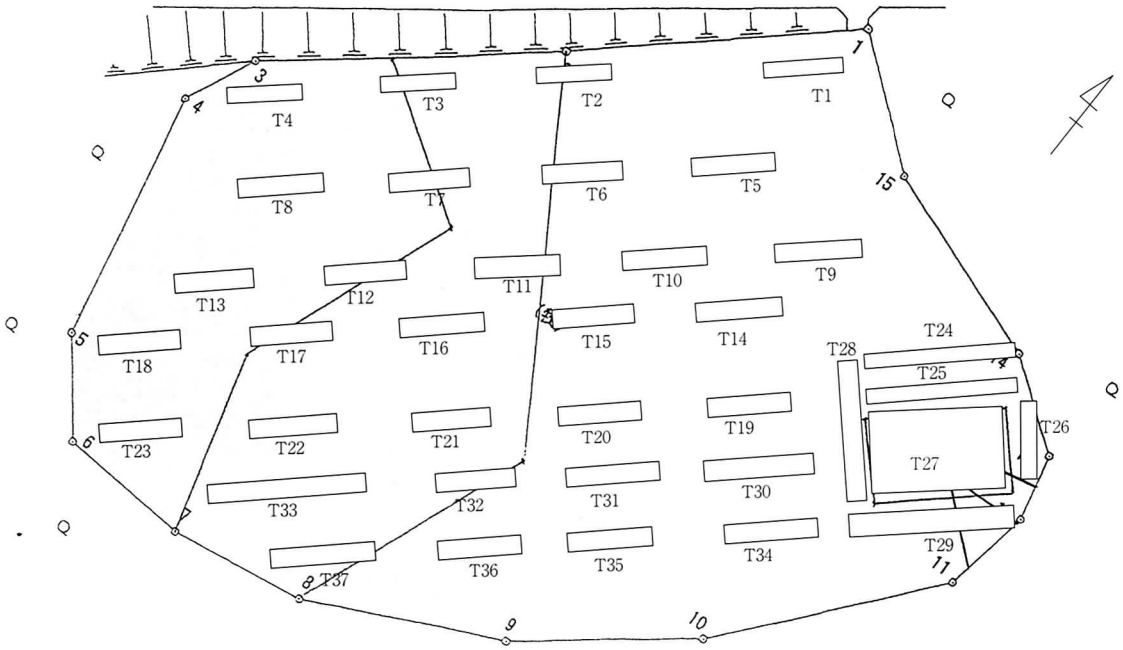


第98図　可能性あり③位置図

調査対象箇所は、田野畑村役場北西約7.5kmに位置し北上山地から連なる丘陵の南東向きの斜面に立地し、標高は200m前後を測る。現況は、草地となっている。今回の調査は、資源リサイクル畜産環境整備事業に係り、田野畑村教育委員会の分布調査において遺跡の可能性ありとの回答を得た箇所が対象である。調査対象箇所に41本のトレンチを設定した（T1～T41）。

調査の結果、T27において深さ30cmより290×40cmの陥し穴状遺構１基、130×80cm楕円状の土坑１基を確認した。遺構が確認された周辺の層序は、盛土直下風化花崗岩層であった。このことから、確認された遺構の上部は削平され、下部のみ残存したものと推測される。遺構の広がりを確認するため遺構周辺のトレンチを広げ、さらにその周辺にトレンチを密に入れたが、遺構は確認できなかった。

調査対象箇所は、東側縁辺部で盛土下に旧表土の黒褐色土が確認できが、調査対象箇所ほぼ全域が盛土直下風化花崗岩層であったことから、前回の草地造成の際、旧地形は大きく改変されたことが分かった。



第99図　可能性あり③調査区位置図

34　ほ場整備事業

高日向遺跡（ＭＥ76－2110）

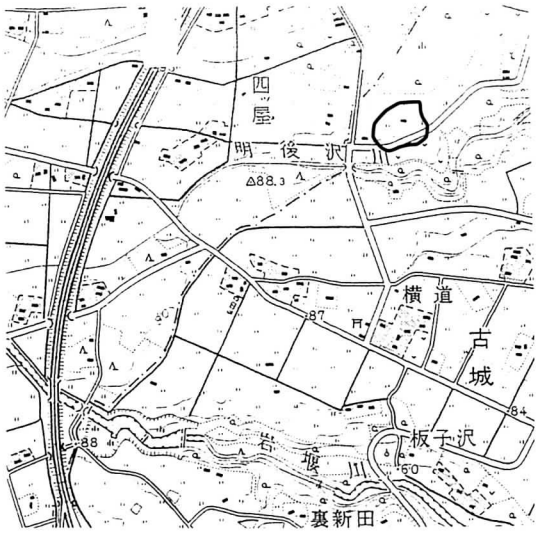
所在地：胆沢郡前沢町古城字高日向地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成17年10月12日～14日（３日間）

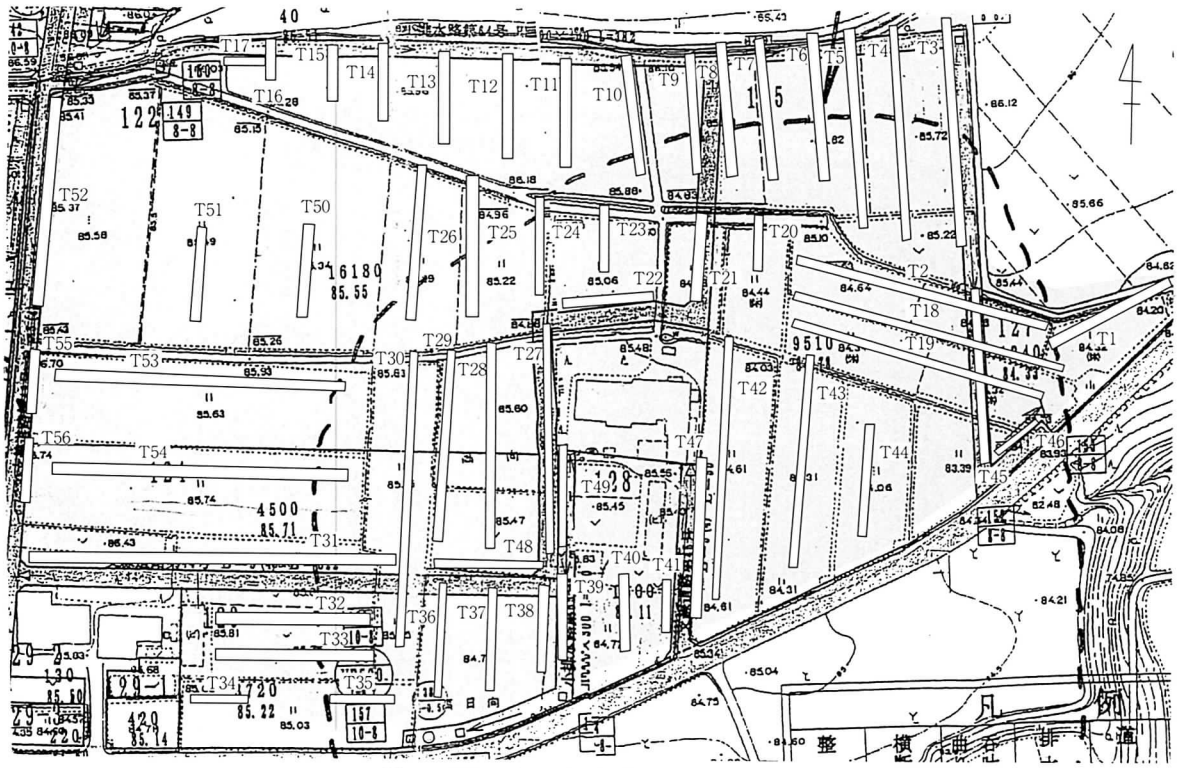
本遺跡は、前沢町役場の北約3.6kmに位置し、明後沢川左岸の河岸段丘上に立地している。遺跡の現況は水田及び畑跡で標高は85m前後を測る。

今回の調査はほ場整備事業に伴うもので、事業予定地内にトレンチを56本設置した（Ｔ1～Ｔ56）。調査の結果、いずれの調査区も過去のほ場整備事業における影響で地形が大きく改変されている状況であった。



第100図　高日向遺跡位置図

調査対象区は大半が、水田開田時の造成で地山まで掘削されている箇所が多く、第Ｉ層・表土（耕作土・盛土）の厚さは約30～80cmで、その直下で地山の褐色土が確認される。検出された遺構はT1で古代の竪穴住居跡に伴うカマド燃焼部・煙道部が確認され、周辺から土師器坏片を伴って見つかったが、遺構全体の形状や規模等は削平の影響で確認できない状況であった。他のトレンチにおいては、遺構・遺物は見つかっていない。



第101図　高日向遺跡調査区位置図

35　ほ場整備事業

高日向北遺跡（ＭＥ76－0003）

所在地：胆沢郡胆沢町小山

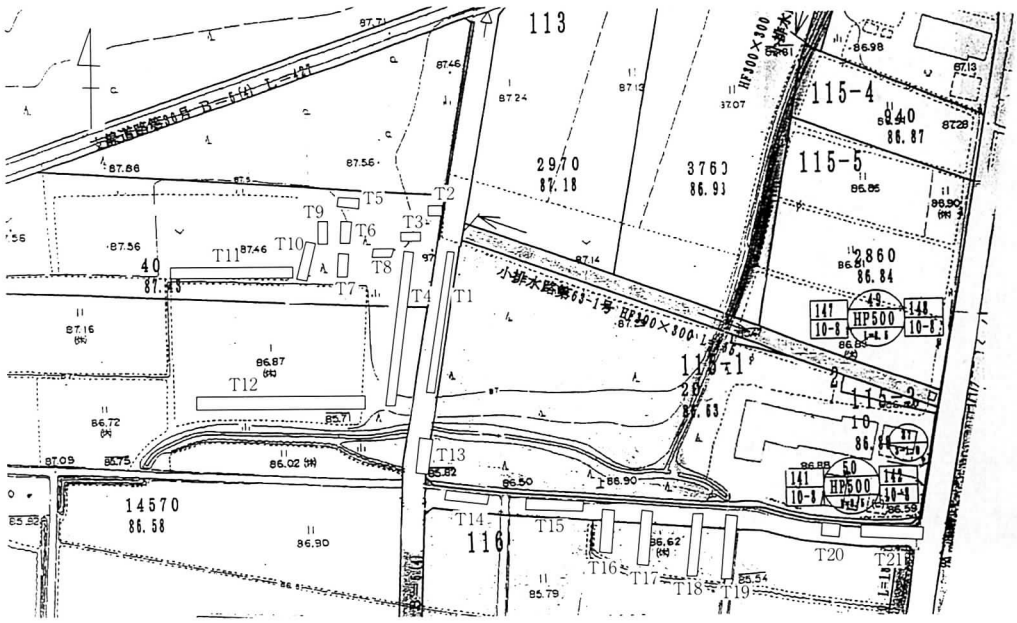
事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成17年11月４日

本遺跡は、胆沢町役場の南東約５kmに位置し、明後沢川左岸の河岸段丘上に立地している。遺跡の現況は水田及び畑跡で標高は86～87m前後を測る。

今回の調査はほ場整備事業に伴うものであるが、平成17年10月11日の調査時に現地を確認した結果、埋蔵文化財の調査が必要と思われた事業予定地内において水路および道路を新設する箇所・田面に切土を施す箇所を中心にトレンチを９本設置した（T1～T9）。調査の結果、上記のような層序が確認されたが、第Ⅱ層の黒褐色土が確認できたのはごく一部の箇所で、大半は過去の水田造成に伴う工事で地山まで掘削を受けている。遺構が確認されたのはT6・T7の表土下の第Ⅲ層からで、T6では土坑１基、T7では土坑２基・陥し穴状遺構１基が検出されたが遺物は伴わない。遺構の規模・形状はT6で検出した土坑が径110×90cmで円形、T7で検出した土坑がそれぞれ径150×120cm、210×130cmで楕円形、陥し穴状遺構が径280×40cmで溝状を呈する。遺構の時期は埋土の状況から縄文時代のものと考えられる。他のトレンチで遺構・遺物は見つかっていない。

第102図　高日向北遺跡位置図



第103図　高日向北遺跡調査区位置図

36　ほ場整備事業

沼尻遺跡（ＭＥ96－1215）

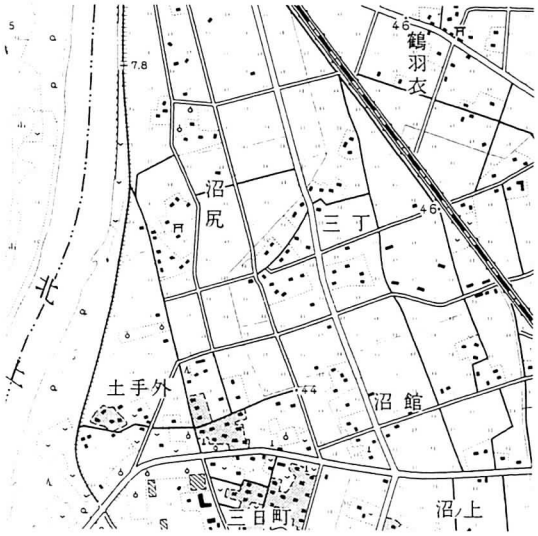
所在地：江刺市稲瀬字沼尻地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成17年11月25日

本遺跡は、江刺市役所の北西約4.3kmに位置し、北上川左岸の自然堤防上に立地している。遺跡の現況は水田跡および畑地等で標高は約44～45mを測る。

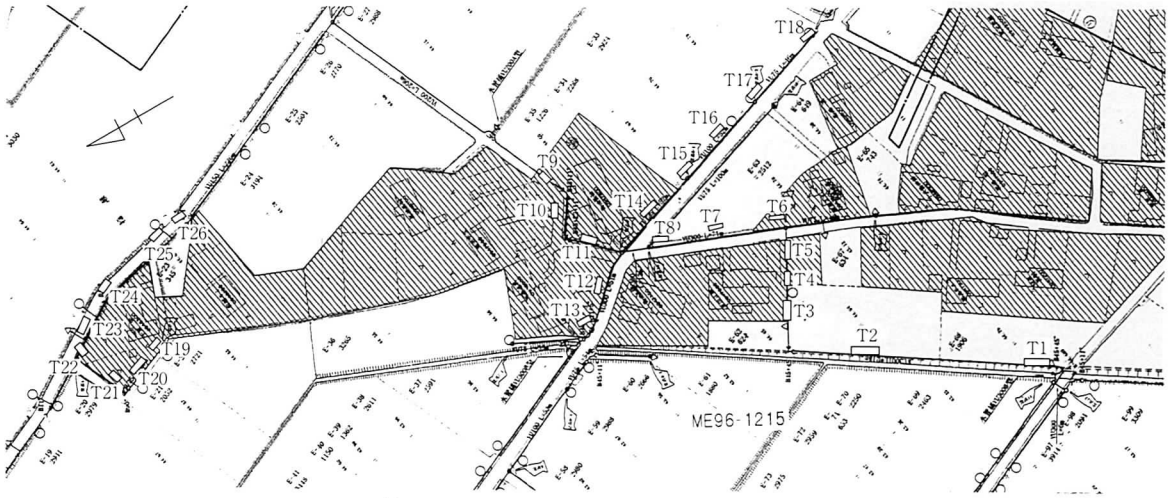
今回の調査はほ場整備事業が計画されたことを受け、当課が平成12年３月29日に分布調査を実施し、その結果近隣に存在する周知遺跡以外に地形的に埋蔵文化財を包蔵する可能性を有する箇所が複数確認されたため、試掘調査を実施することとなったものである。



第104図　沼尻遺跡位置図

周知の沼尻遺跡範囲内において事業を行う予定の箇所にトレンチを26本設置した（Ｔ1～Ｔ26）。

調査の結果、自然堤防頂部に位置し、既存の水田・水路・道路などに係わって過去に行われた工事による影響を受けているT6～T18では遺構検出面と考えられる第Ⅲ層（褐色土層）は大きく掘削され、遺構・遺物は見つかっていないが、同じく自然堤防の頂部に位置し、これらの影響の少ないT5・T12では遺構及び遺物を確認した。遺構はいずれも竪穴住居跡でT5・T12より各１棟検出し、出土した遺物から平安時代に属するものである。また堤防縁部に位置するT1～T3では過去に行われた水田開田による造成工事の影響で地山まで掘削されている状況であった。調査区西端部のT19～T26についても現在、水田に盛土を施して畑地・宅地として利用されているが、過去に行われた水田造成工事で地山が大きく掘削されているのを確認した。



第105図　沼尻遺跡調査区位置図

37　ほ場整備事業更木新田地区関連調査

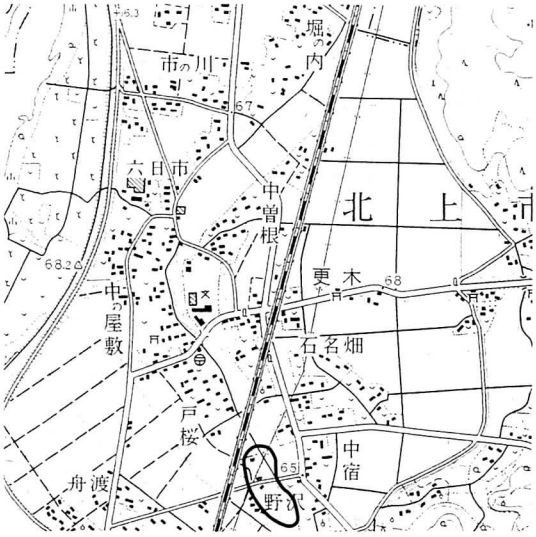
野沢Ⅰ遺跡（ＭＥ46－1386）

所在地：北上市更木17地割及び18地割地内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成18年１月10日～11日、16日～17日

本遺跡は、東日本旅客鉄道村崎野駅の北東約４kmに位置し、北上川によって形成された沖積地上にある中島状の微高地に立地しており、現況は水田及び宅地となっている。今回の調査はほ場整備事業に伴うものであり、排水路・農道設置箇所及び切土予定の田面が対象であるが、旧来の遺跡範囲内及び地形的に連続性があると思われるその隣接区域を調査対象区とし、17本のトレンチを設定して調査を行った。

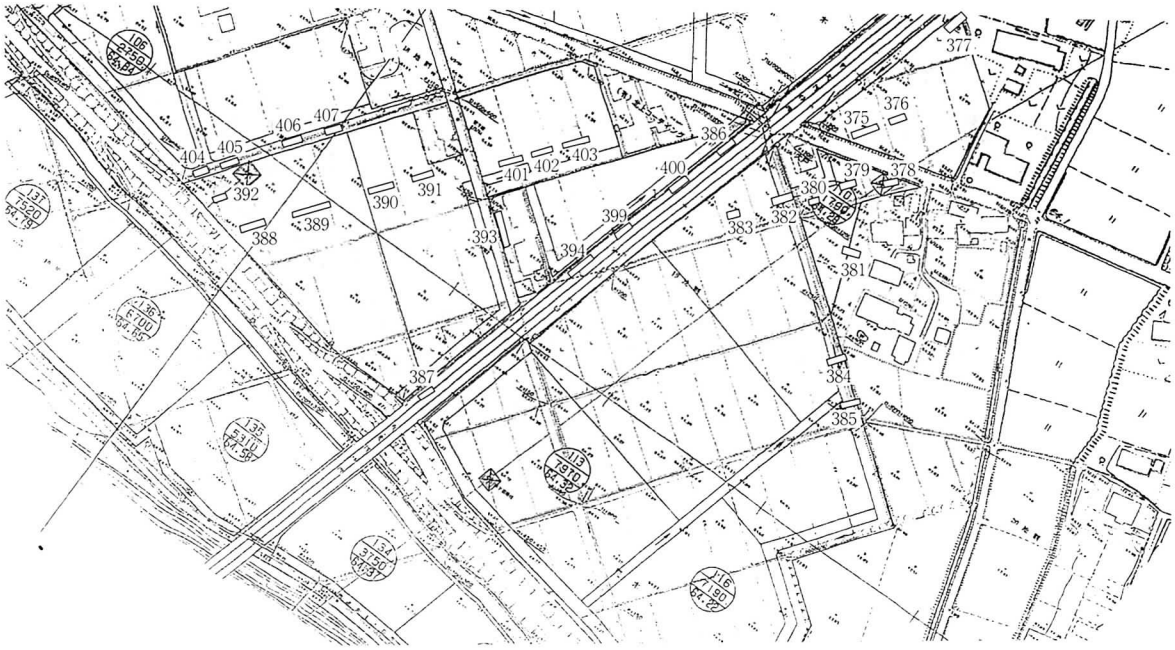


第106図　野沢Ⅰ遺跡位置図

Ｔ377においては畝間状遺構が検出され、またＴ380においては水田状遺構が検出されたほか、遺跡隣接地に設定したＴ385においては、土師器の甕の口縁部片を含む竪穴住居状遺構が検出されたことから、今回の調査区は、畑地あるいは水田といった生産の場が隣接した古代の集落跡である可能性が高いと思われる。

また、Ｔ381においては、縄文時代後晩期に属すると思われる土器を主体とする遺物包含層が表土直下で検出された。このトレンチにおいては、第Ⅱ層から第Ⅳ層までが確認できなかったことから、かつての水田造成による地形改変を受けている箇所があることが伺えた。

以上のことから、地形改変を受けている箇所が認められるものの、場所によっては、古代の生活面の下層に縄文時代の生活面が所在している可能性があることが伺えたことから、本遺跡は古代と縄文時代の複合遺跡である可能性が高い。



第107図　野沢Ⅰ遺跡調査区位置図

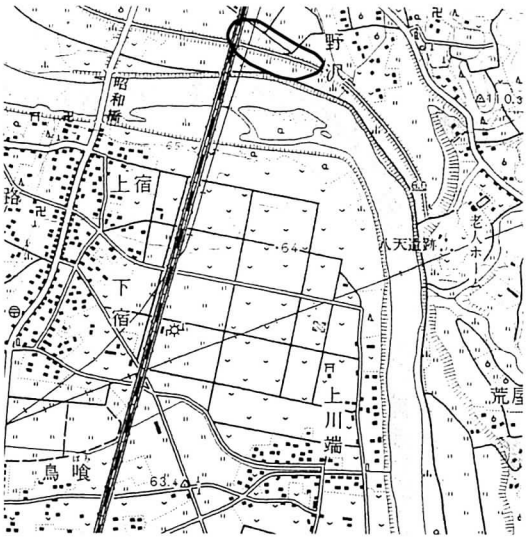
38　ほ場整備事業更木新田地区関連調査

野沢Ⅱ遺跡（ＭＥ46－2306）

所在地：北上市更木19地割地内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

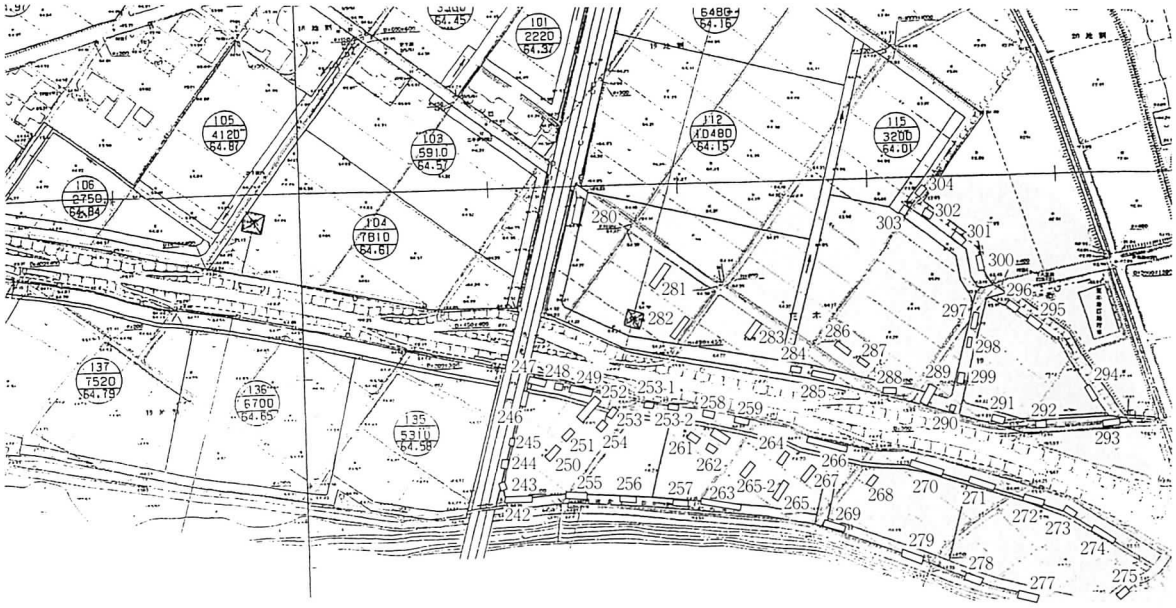
調査期日：平成17年10月24日、11月11日



第108図　野沢Ⅱ遺跡位置図

本遺跡は、北上市役所の北約８kmに位置し、北上川によって形成された自然堤防上に立地している。遺跡の標高は64m前後を測り、現況は水田となっている。今回の調査はほ場整備事業に伴うものである。今回は遺跡内及びその隣接地に60箇所のトレンチを設定して調査を実施した。本調査区の基本層序は暗褐色表土の下部に遺物、遺構が確認された暗褐色土が堆積し、その下に洪水堆積層の褐色土が入る。今回の調査区においては東北新幹線高架橋のすぐ西側は新幹線高架橋建設時にⅡ層まで削平されている状況が観察されたが、それより西側の遺跡の範囲内に含まれている部分からはまんべんなく遺構、遺物が確認されている。堤防のすぐ南側に設置したＴ253-1からは地表－35cmから縄文土器の包含層が確認され、Ｔ259のⅡ層下部からは土師器片が出土している。更にＴ262とＴ263からはどちらも東西方向に走る溝状遺構が確認されているが、方向、規模等から見てこの２つはつながる可能性がある。Ｔ265-2からは地表－40cmからフレークが、同－55cmから土師器、須恵器片が１片ずつ出土し、そのすぐ西隣のＴ265からは上層より摩滅した土師器片が、－60cmより縄文土器及びフレークが出土している。Ｔ265の縄文土器が出土した面については住居状遺構の可能性もある。Ｔ264、Ｔ267からも－50～－57cmの間から須恵器、縄文土器などが出土している。Ｔ269からはⅢ層上面の地表－80cmの地点より遺物が伴わない竪穴住居跡が検出されている。このあたりまでの地域が自然堤防の高まりの部分であり、それより西側になると一部で土師器片などが出土しているものの、遺物、遺構の密度は薄くなる。一方、堤防内は土層の堆積状況は堤防外と同様であるが、Ⅲ層は比較的浅い面で褐色土がシルト、砂層に変わっていく様子が観察された。Ｔ294では－50cmの地点の黒色土と焼土粒混じりの土から土師器片が出土している。Ｔ298の地表－25cmの地点からは縄文土器が、Ｔ299のⅡ層上面からフレークがそれぞれ出土している。Ｔ290の地表－70cmからは弥生土器の出土が確認され、Ｔ288の－25cm、Ⅱ層上部からは90cmほどの土坑が確認されている。Ｔ301の－50cmの地点から遺物包含層が確認されている。

以上の結果、本遺跡の北東部から南部中央やや東側にかけての地域は自然堤防の高まりが現在の堤防を越えて続く部分であり、遺構、遺物が集中する地域であることが明らかとなった。



第109図　野沢Ⅱ遺跡調査区位置図

39　ほ場整備事業更木新田地区関連調査

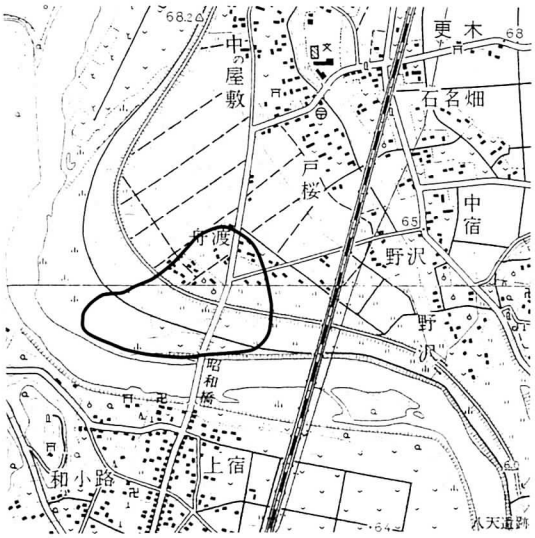
舟渡Ⅰ遺跡（ＭＥ46－1390）

所在地：北上市更木17地割及び18地割

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成17年10月17日～21日、平成18年１月25日～26日、２月１日～２日

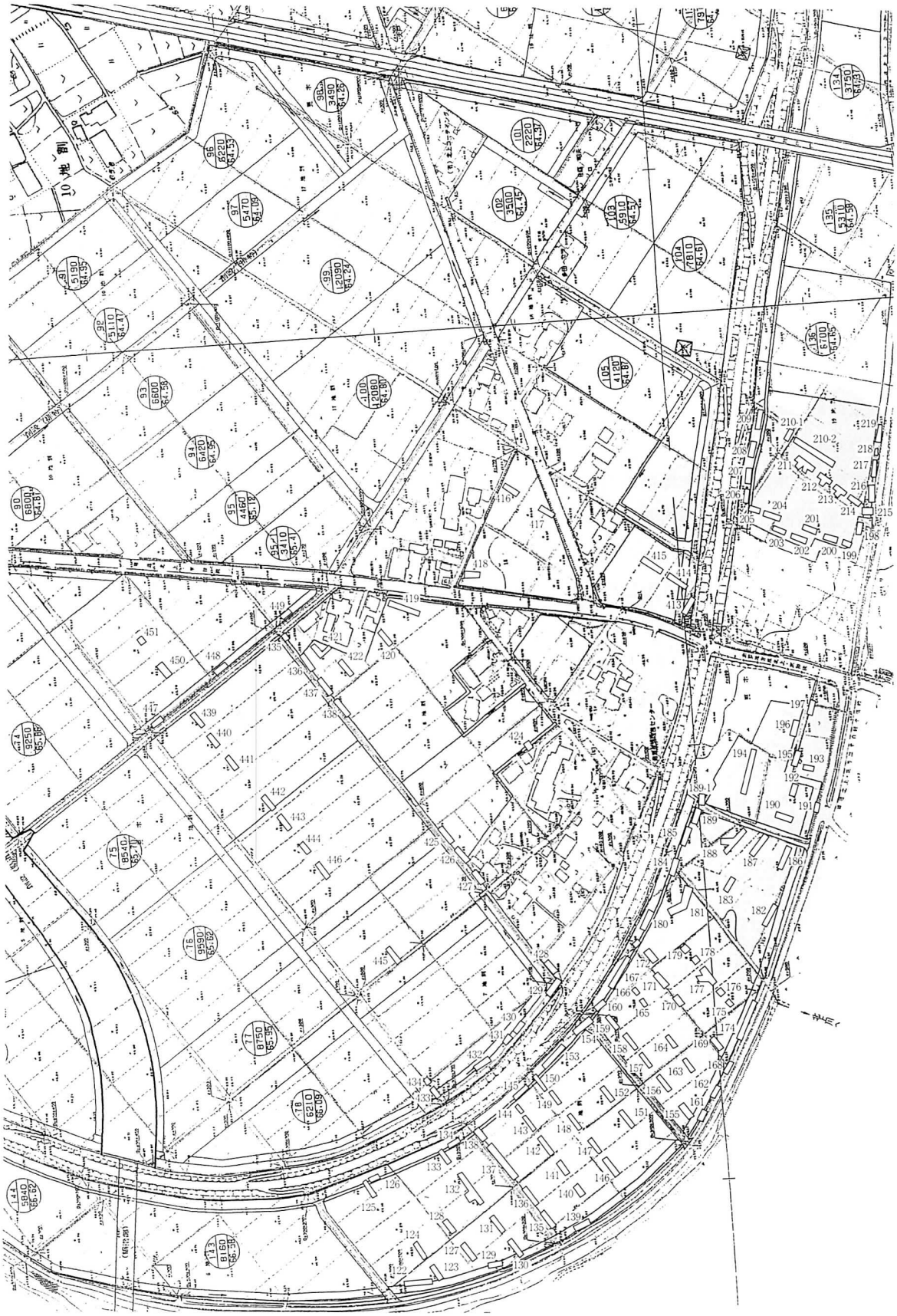
本遺跡は、東日本旅客鉄道株式会社村崎野駅の北東約2.6kmに位置し、北上川によって形成された自然堤防上に立地しており、現況は水田及び宅地である。今回の調査はほ場整備事業に伴うものであり、排水路・農道設置箇所及び切り土予定の田面が対象であるが、旧来の遺跡範囲内及び地形的に連続性があると思われるその隣接区域を調査対象区とし、140本のトレンチを設定した。



第110図　舟渡Ⅰ遺跡位置図

現在の堤防南側の比較的標高の高い水田部分から北側の住宅地が所在している区域にかけて、住居状遺構をはじめ、土坑、柱穴状遺構が数多く検出され、埋土に平安時代のものと思われる土師器片を含む遺構も検出された。また、旧地形の標高の高い部分を削平して造成されたと思われる区域においては、縄文時代後晩期に属すると思われる土器片を含む包含層が広がっており、、この包含層下には遺構が所在している可能性がある。

今回の調査区内においては、古代のものと思われる遺構は遺物を伴って数多く検出されたが、縄文時代に属すると推測される遺構は、明確には検出できなかった。本遺跡は縄文時代と古代の複合遺跡であると思われる。



第111図　舟渡Ⅰ遺跡調査区位置図

41　ほ場整備事業更木新田地区関連調査

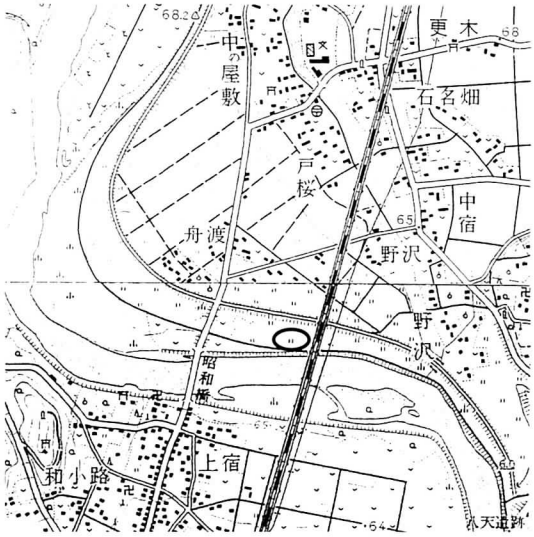
舟渡Ⅱ遺跡（ＭＥ46－2314）

所在地：北上市更木19地割

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

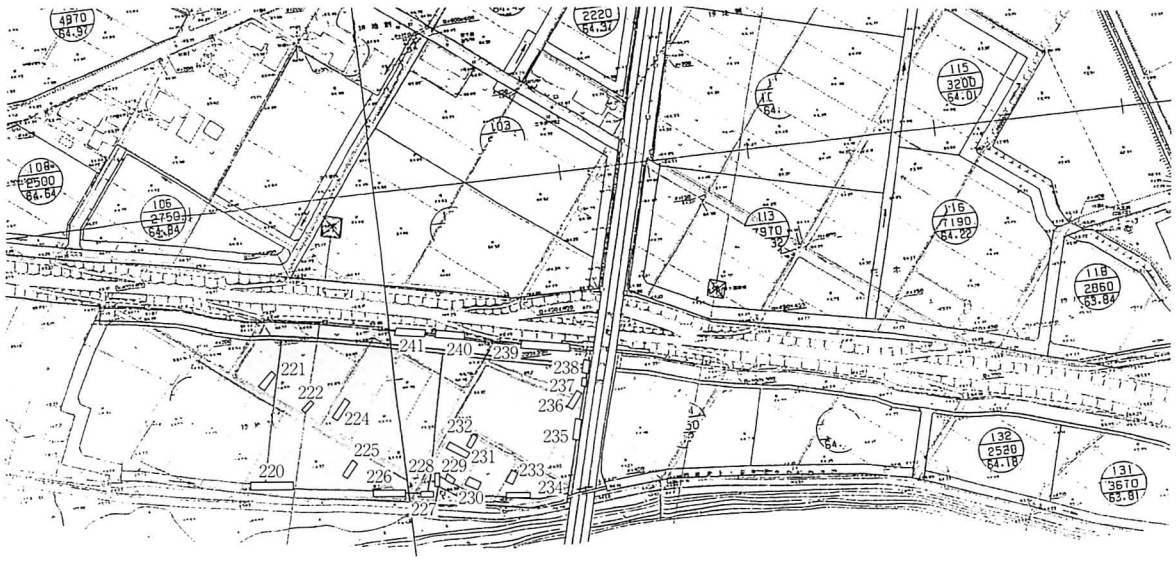
調査期日：平成17年10月24日

本遺跡は、北上市役所の北東約7.8kmに位置し、北上川によって形成された自然堤防上に立地している。遺跡の標高は65～66ｍ前後を測り、現況は水田である。今回の調査はほ場整備事業に伴うものである。



第112図　舟渡Ⅱ遺跡位置図

本遺跡の基本層序は表土下に上部に土師器、下部に縄文土器が含まれる暗褐色土が入り、最下層に地山の褐色土と続くが、調査区東部の東北新幹線の高架橋に近い地点については遺物が含まれる暗褐色土は削平されている。今回の調査では調査区の南部に設定したＴ227～234から柱穴状土坑、溝状遺構、遺物包含層などの遺構がまとまって確認されている。特に遺物包含層についてはＴ228～Ｔ230、Ｔ232～Ｔ233と南部に設定したトレンチの多くの地点で確認されており、Ｔ228においては地表－50cmで土師器が、－70cmで縄文土器及び石器の剥片がそれぞれ出土している。またＴ232では－50cmから縄文土器が出土しており、その周囲には焼土粒、炭化物等が確認されている。Ｔ227からは柱穴状土坑が２基確認された。規模は径40×40cm及び30×30cmのもので埋土には炭化物と焼土粒が少量ではあったが含まれていた。またＴ231から検出された溝状遺構は幅60cmで南西から北東へ延びていた。またＴ234から検出された柱穴状土坑は径13×14cmと小さいが、埋土中から縄文土器が１点出土している。



第113図　舟渡Ⅱ遺跡調査区位置図

42　ほ場整備事業更木新田地区関連調査

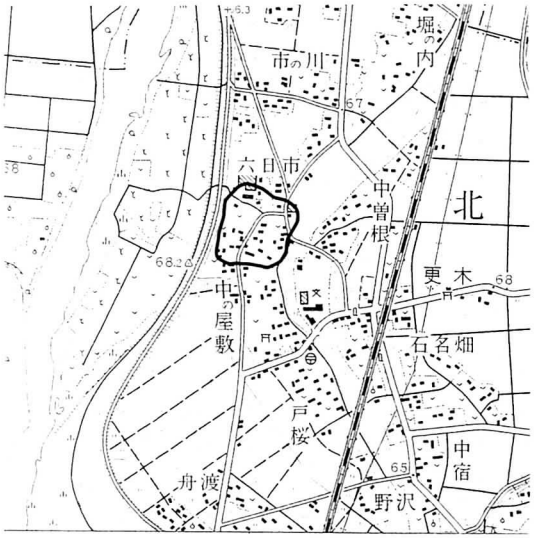
六日市遺跡（ＭＥ46－0392）

所在地：北上市更木４地割

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

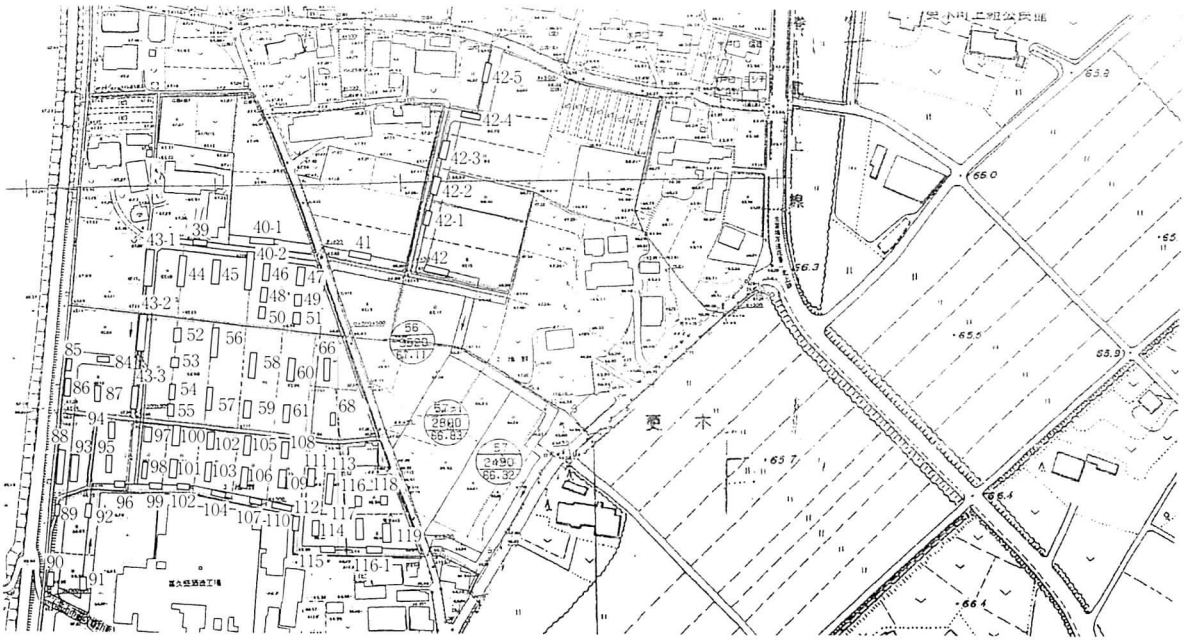
調査期日：平成17年10月12日

本遺跡は、北上市役所の北約８kmに位置し、北上川によって形成された自然堤防上に立地している。遺跡の標高は66～67m前後を測り、現況は水田である。今回の調査はほ場整備事業に伴うものである。



第114図　六日市遺跡位置図

本遺跡の基本層序は表土の下に黄褐色土、その下に黒褐色土、更に地山の褐色土と続くが、北上川によって自然堤防が形成されたことを示す層序となっている。今回の調査区からは土坑及び陥し穴状遺構の２つの遺構が確認されている。土坑は調査区の南側に設定したT113で検出されているが、規模は90×90cm、検出面は地表から－50cmほどである。これに関連する遺構、遺物をＴ111、Ｔ114、Ｔ116、Ｔ117などを設定して確認したが、それらのトレンチからは確認することができなかった。陥し穴状遺構は調査区の南西部にあたるＴ88から検出された。規模は160×30cm以上で向きはほぼ東西、検出面は地表から－80cmほどである。遺構の一部は東側の調査区外に伸びているものと見られる。



第115図　六日市遺跡隣接地調査区位置図

43　ほ場整備事業更木新田地区関連調査

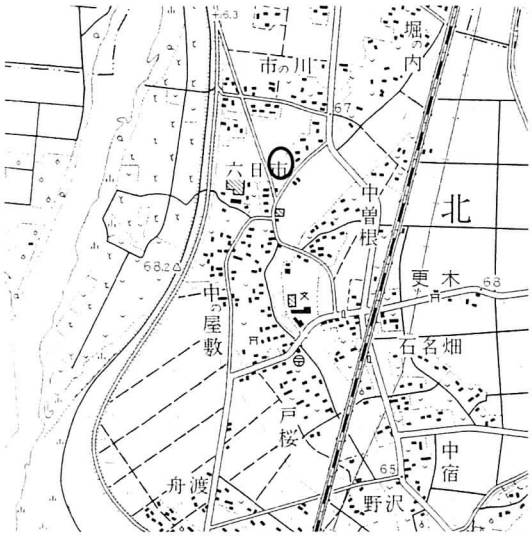
市の川Ⅱ遺跡（ＭＥ46－0374）

所在地：北上市更木３地割

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

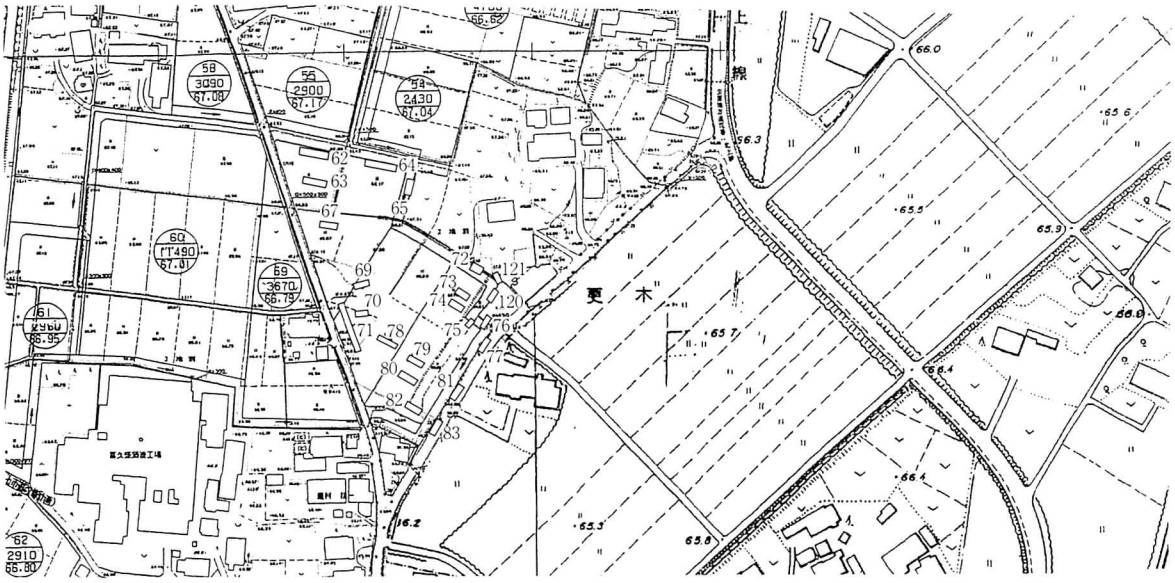
調査期日：平成17年10月12日

本遺跡は、北上市役所の北約８kmに位置し、北上川によって形成された自然堤防上に立地している。遺跡の標高は66m前後を測り、現況は水田である。今回の調査はほ場整備事業に伴うものである。



第116図　市の川Ⅱ遺跡位置図

本遺跡の基本層序は表土の下に暗褐色土、その下に遺構検出面である黒褐色土、更に地山の褐色土と続く。本調査区最南端に設定したＴ82から煙道が東向きの竪穴住居跡が検出された。カマドから土師器の甕が出土しており、時期は平安時代のものと見られる。検出面は地表－45cmであった。竪穴住居が検出された面より北東側の一段高い面に設定したＴ79、Ｔ80には黒褐色土が残存していたものの、遺構、遺物は確認できなかった。また、調査区北側の遺跡の隣接地に設定したＴ65からは陥し穴状遺構が検出された。向きは南西から北東で規模は26×170cm以上を測り、北東側に伸びる部分は今回の事業区域外に所在する。検出面は地表－80cmであった。陥し穴状遺構の所在するＴ65の面とほぼ同じ高さの地点にＴ62～Ｔ64を設定したが、黒褐色土が20cmほどしか残存せず、遺構も検出されなかった。



第117図　市の川Ⅱ遺跡調査区位置図

44　ほ場整備事業更木新田地区関連調査

八天北遺跡（ＭＥ47－2051）

所在地：北上市更木34地割

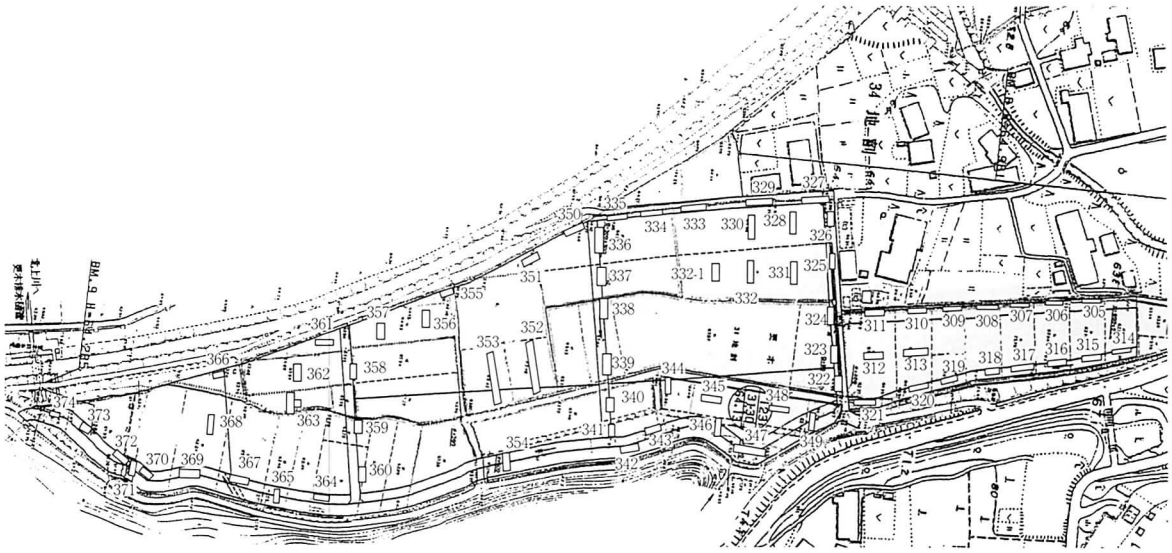
事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成17年11月10日～11日

本遺跡は、北上市役所の北約８kmに位置し、北上川によって形成された自然堤防上に立地している。遺跡の標高は64m前後を測り、現況は水田である。今回の調査はほ場整備事業に伴うものである。

第118図　八天北遺跡位置図

調査の結果、今回設定した72箇所のトレンチのいずれにおいても過去の水田造成時に掘削は受けているものの、旧地形が大きく改変されていることはなく、埋蔵文化財が所在する層は比較的良好な状態で保存されている状況であった。調査区南部の段丘縁から調査区西部にかけては湿地状の土質であり、表土直下に青灰色粘土層が、そしてその下には同色の砂礫層が確認された。調査区西部の本遺跡の範囲に係る部分は湿地帯部より一段高い部分であり、旧地形の残りも良い。T368の地表－40cmから時期不明の土器が、またT356の－40cmから土師器が、－45cmから縄文土器がそれぞれ出土している。T355の－80cmからは径70cmほどの土坑が確認された。田区123～124にあたる地域のT328～T336からは平安時代の竪穴住居跡・土坑・溝跡・柱穴状土坑などに伴って土師器坏・土師器甕、須恵器甕の破片などが出土している。また第Ⅲ層上面から縄文土器片も微量ながら出土している。調査区東部のT305～T321からは遺物、遺構とも確認されておらず、遺跡の範囲は八天北遺跡の範囲より東部の田面124の地域にかけてであることが明らかになった。この部分は土層の堆積状況からも自然堤防の高位面であるものと思われる。



第119図　八天北遺跡調査区位置図

45　特定交通安全施設整備事業

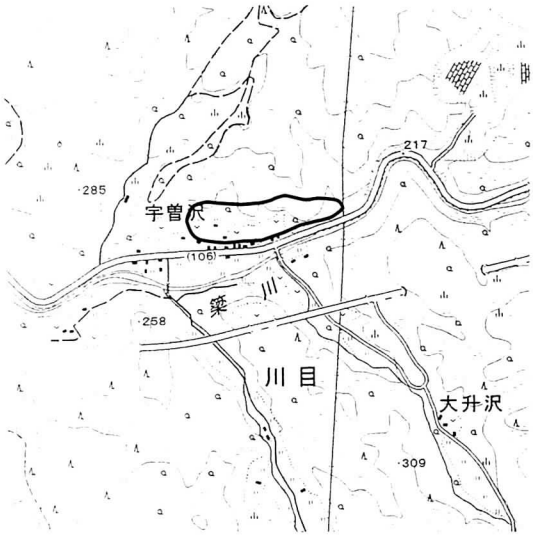
宇曽沢遺跡（ＬＥ28－0376）

所在地：盛岡市川目字宇曽沢

事業者：盛岡地方振興局土木部

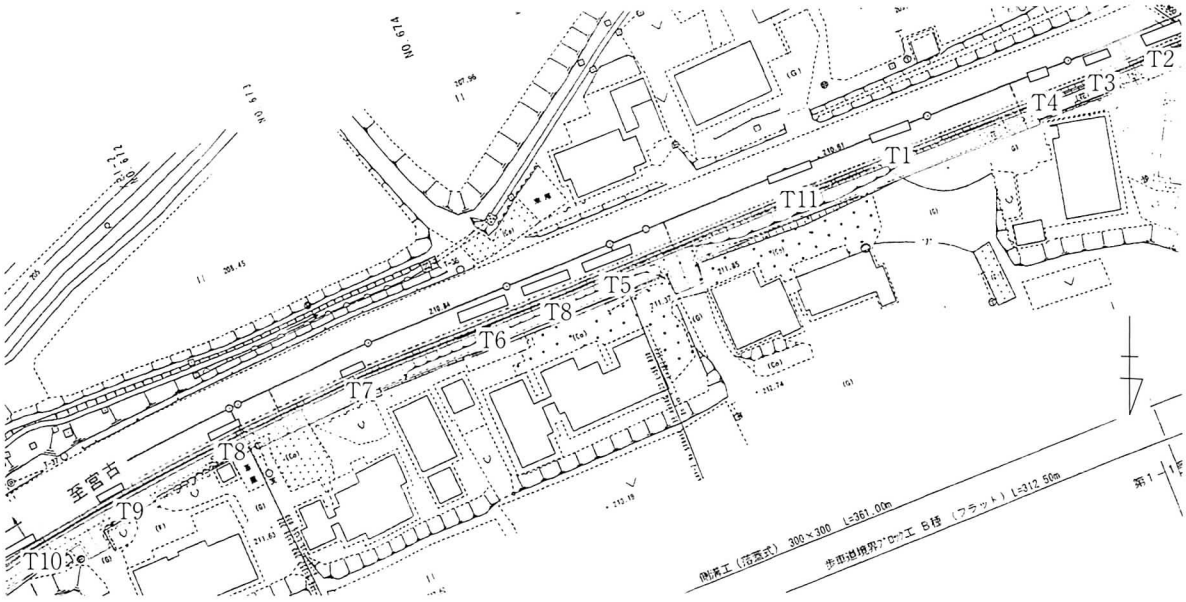
調査期日：平成17年９月21日、９月30日

本遺跡は、ＪＲ仙北町駅から東約９kmに位置し、梁川右岸の河岸段丘上に立地する。標高は210m前後を測り、現況は畑地等である。今回の調査は一般国道106号川目地区の歩道設置予定箇所が対象で、調査対象箇所にトレンチを11本設置した（T1～T11）。



第120図　宇曽沢遺跡位置図

調査の結果、第Ⅰ層・盛土、第Ⅱ層・黒褐色土、第Ⅲ層・暗褐色土、第Ⅳ層・褐色土の層序を確認した。全体に現道および旧歩道建設時にかなり掘削を受けており、調査区西端に位置するT2、T11及び、東端に位置するT9、T10では盛土下に第Ⅱ層・第Ⅲ層はなく、第Ⅳ層の地山および礫層であった。T3から東側に向かって傾斜する地形であったため、T6～T8では縄文時代の遺物を包含する第Ⅱ層～第Ⅲ層の残存状況が良く、T6で土坑と土器片、T7で土器片と石鏃、T8で土器片がそれぞれ検出･出土した。T6で検出した土坑の規模は径約90cmで、形状は円形を呈し、第Ⅲ層で検出した。T6より西側のトレンチ（T1～T5・T11）と調査区東端のT9、T10からは遺物・遺構は見つかっていない。



第121図　宇曽沢遺跡調査区位置図

46　特定交通安全施設整備事業

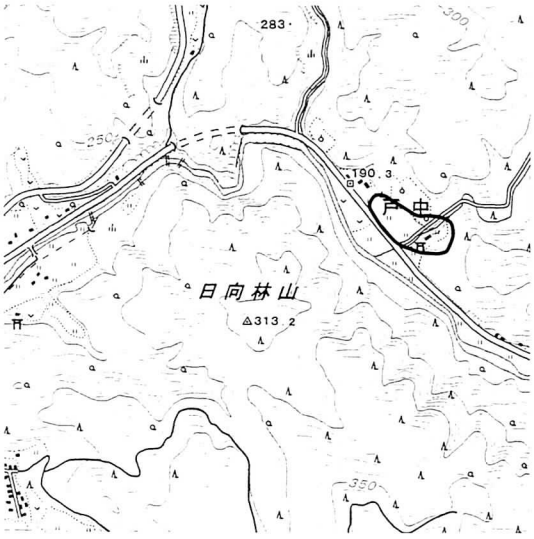
戸仲遺跡（ＬＥ28－0232）

所在地：盛岡市川目字戸仲

事業者：盛岡地方振興局土木部

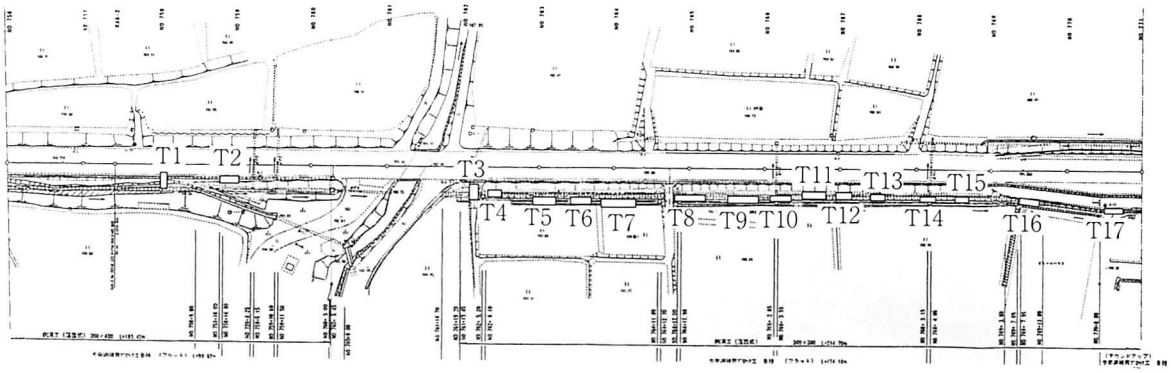
調査期日：平成17年９月30日、11月16日、９月30日

本遺跡は、ＪＲ仙北町駅から東約7.8kmに位置し、梁川右岸の河岸段丘上に立地する。標高は190m前後を測り、現況は水田および水路等である。今回の調査は一般国道106号川目地区の歩道設置予定箇所が対象で、調査対象箇所にトレンチを17本設定した（T1～T17）。



第122図　戸仲遺跡位置図

調査の結果、第Ⅰ層・盛土、第Ⅱ層・黒褐色土、第Ⅲ層・暗褐色土、第Ⅳ層・褐色土、第Ⅴ層・砂礫層の層序を確認した、埋蔵文化財を包蔵する可能性のある第Ⅱ層･第Ⅲ層を確認できたのは調査区東端のT1、T2および、西側のT8～T17で、水田造成時に行った工事の影響をあまり受けていない箇所である。T3～T7は耕作土直下に砂礫層があり、第Ⅱ層～第Ⅳ層はすでに掘削された状況であった。遺物が出土したのはT8～T17で縄文時代の土器･石器の破片が出土した。遺構はT11の西端で土坑が１基検出された。遺構の規模は径50cm、埋土は黒褐色土で土器片・焼土粒などを含み、地表面より90cm下で確認された。また、土層の堆積状況等から遺構・遺物の分布する範囲は今回調査した箇所よりさらに北西側に延びていることを確認した。



第123図　戸仲遺跡調査区位置図

47　農用地総合整備事業下閉伊北区域

真木沢Ⅵ遺跡（ＫＧ33－2096）隣接地

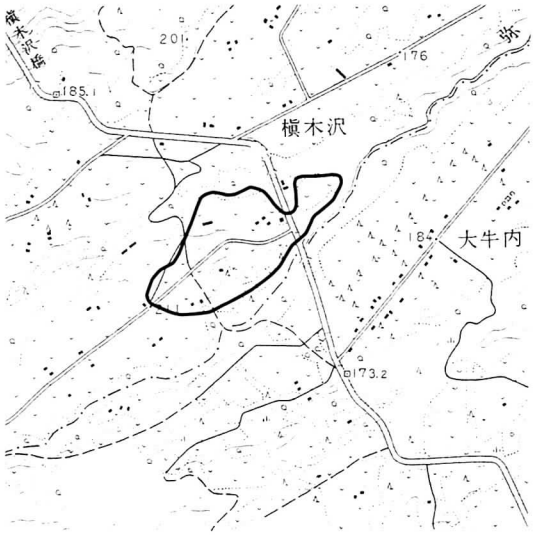
所在地：下閉伊郡田野畑村真木沢地内

事業者：緑資源機構下閉伊北建設事業所

調査期日：平成17年４月19日

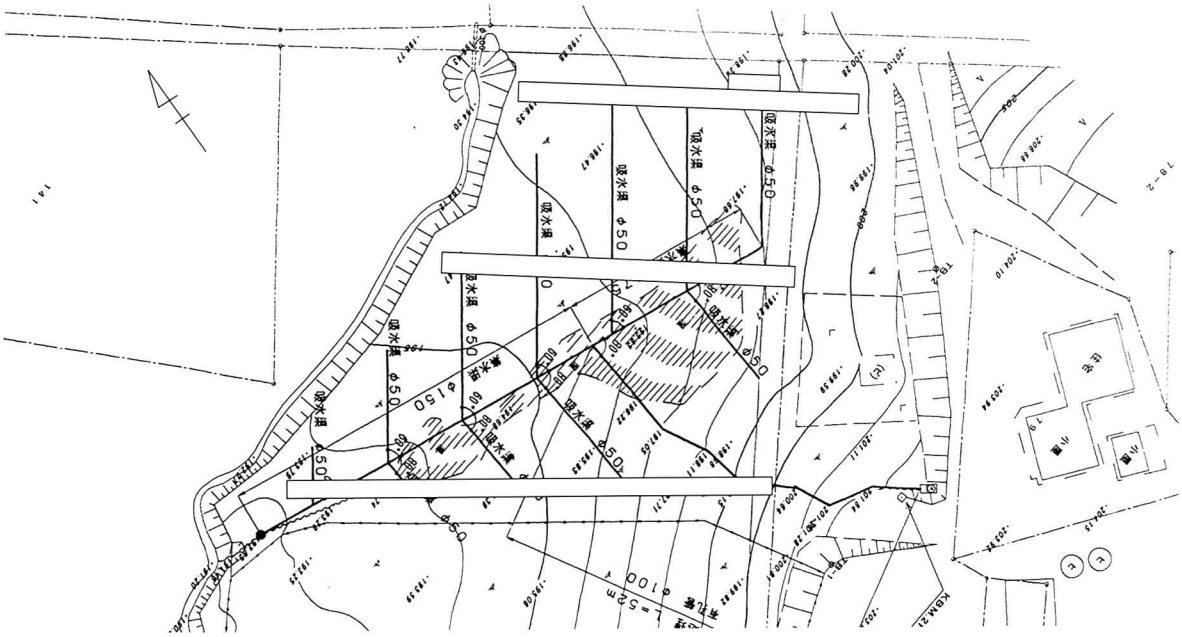
本調査区は国道45号線沿いに隣接する真木沢部落公民館から南西に約200ｍの場所に位置し、現況は牧草地である。標高は192～200ｍを測り、遺跡の東側の段丘上位に真木沢Ⅵ遺跡が隣接する。

今回の調査は農用地総合整備事業に伴うもので、畑周辺が湿地となっているため、暗渠を設置して排水整備を行うもので、この暗渠の設置予定箇所の傾斜に沿ってトレンチを３本設定した（T1～T3）。

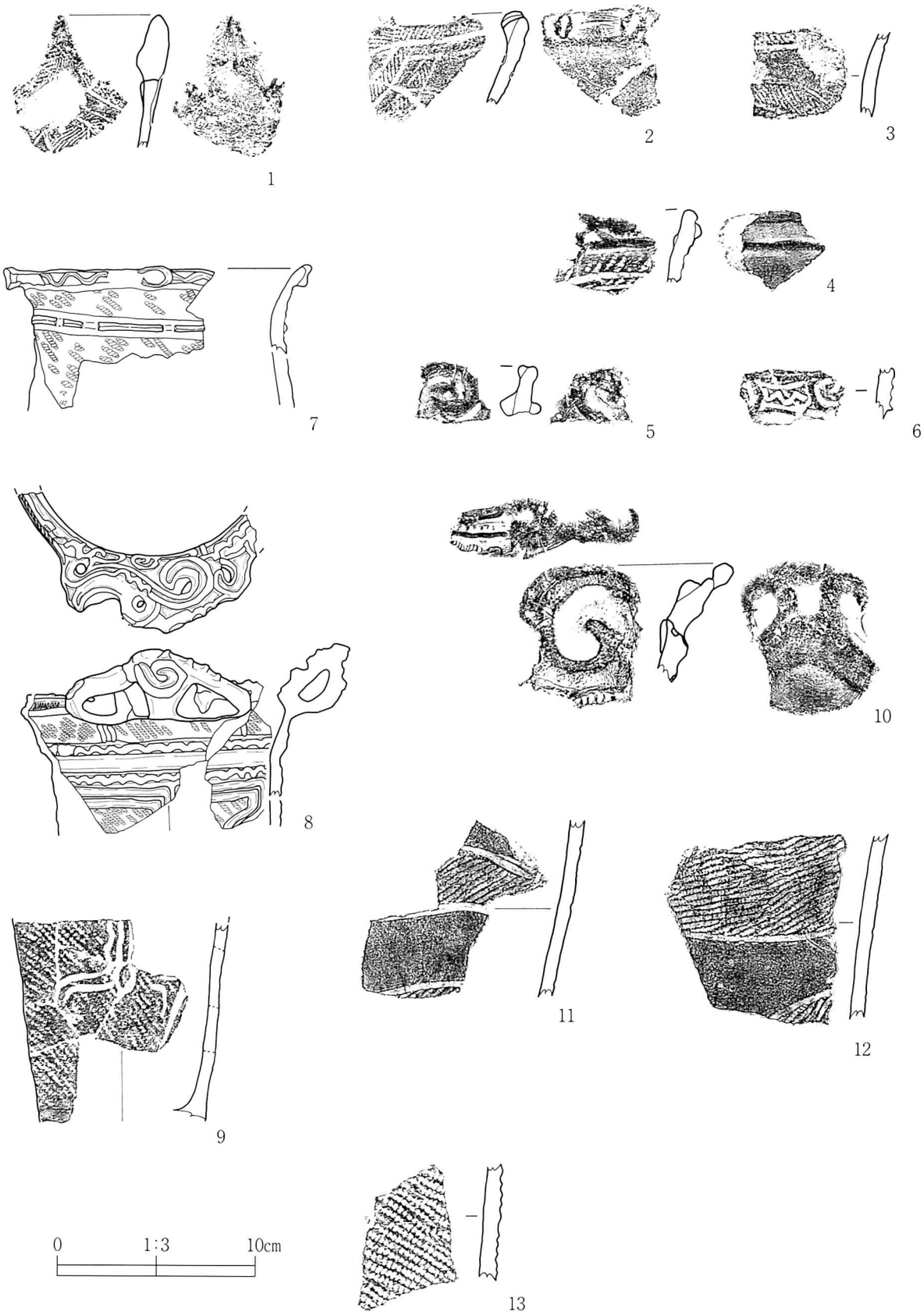


第124図　真木沢Ⅵ遺跡位置図

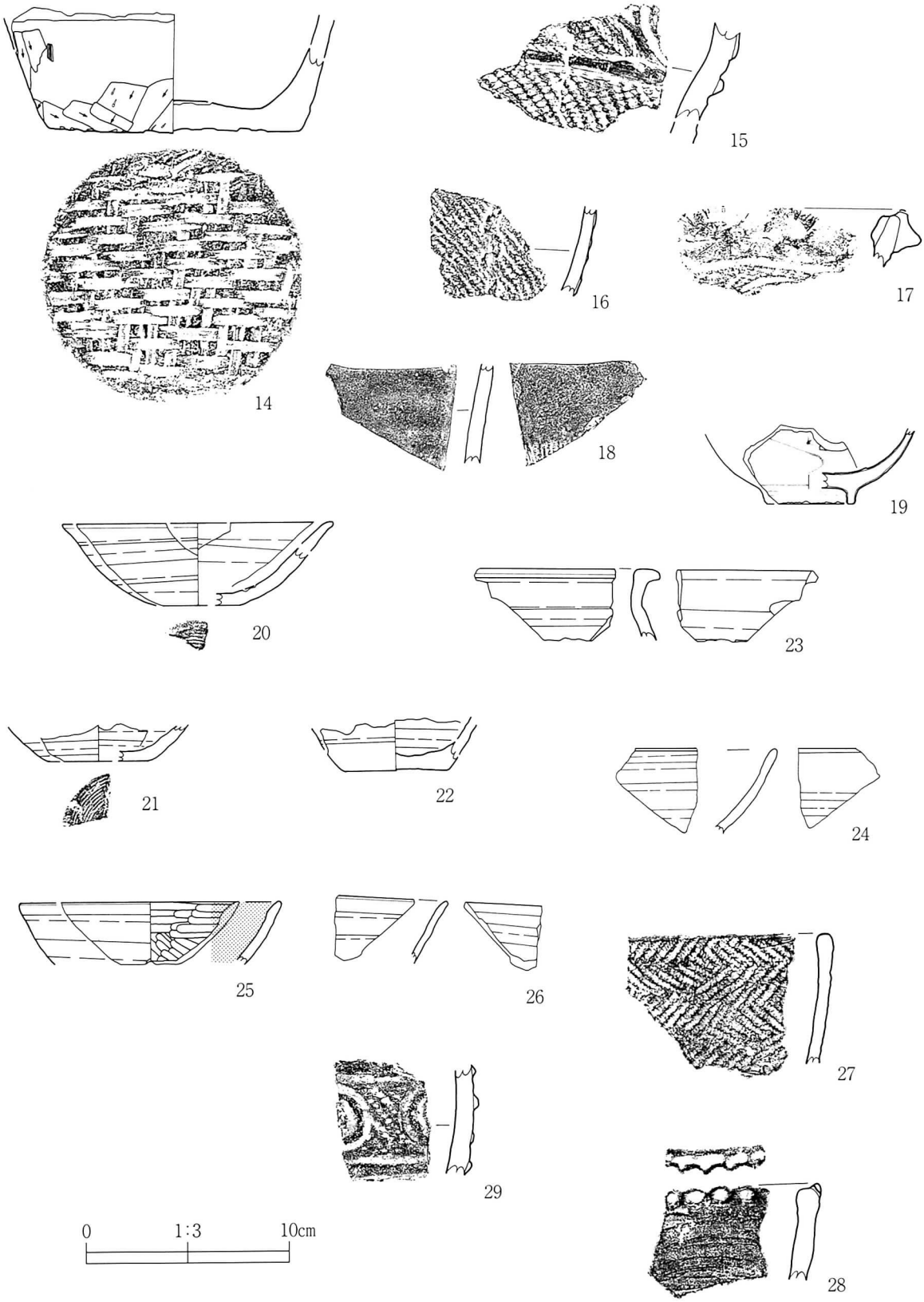
調査の結果、T1では斜面上位の地山面（第Ⅴ層：暗褐色土）から土坑２基を検出し、縄文土器片１点が出土した。検出面の残るのはT1の斜面上位側から約25ｍまでで、斜面下位側は旧地形が崖状になっていたため盛土（第Ⅱ層～第Ⅳ層）を施し、整地を行ったと考えられる。盛土の厚さは約１ｍで盛土下の地山はグライ化した粘土質土である。T2もT1と同様に斜面上位側から約20ｍまでは表土下に第Ⅴ層が確認できるが、遺構・遺物は見つからなかった。また、斜面下位側はT1と同様、整地による盛土が施されており、盛土下からは遺構・遺物はみつかっていない。T3では斜面上位側が削平のため、T1、T2で観察された遺構面出面は残存せず、礫層が剥き出しになった状況であり、トレンチ下位に盛土が施されているのはT1、T2と同じである。



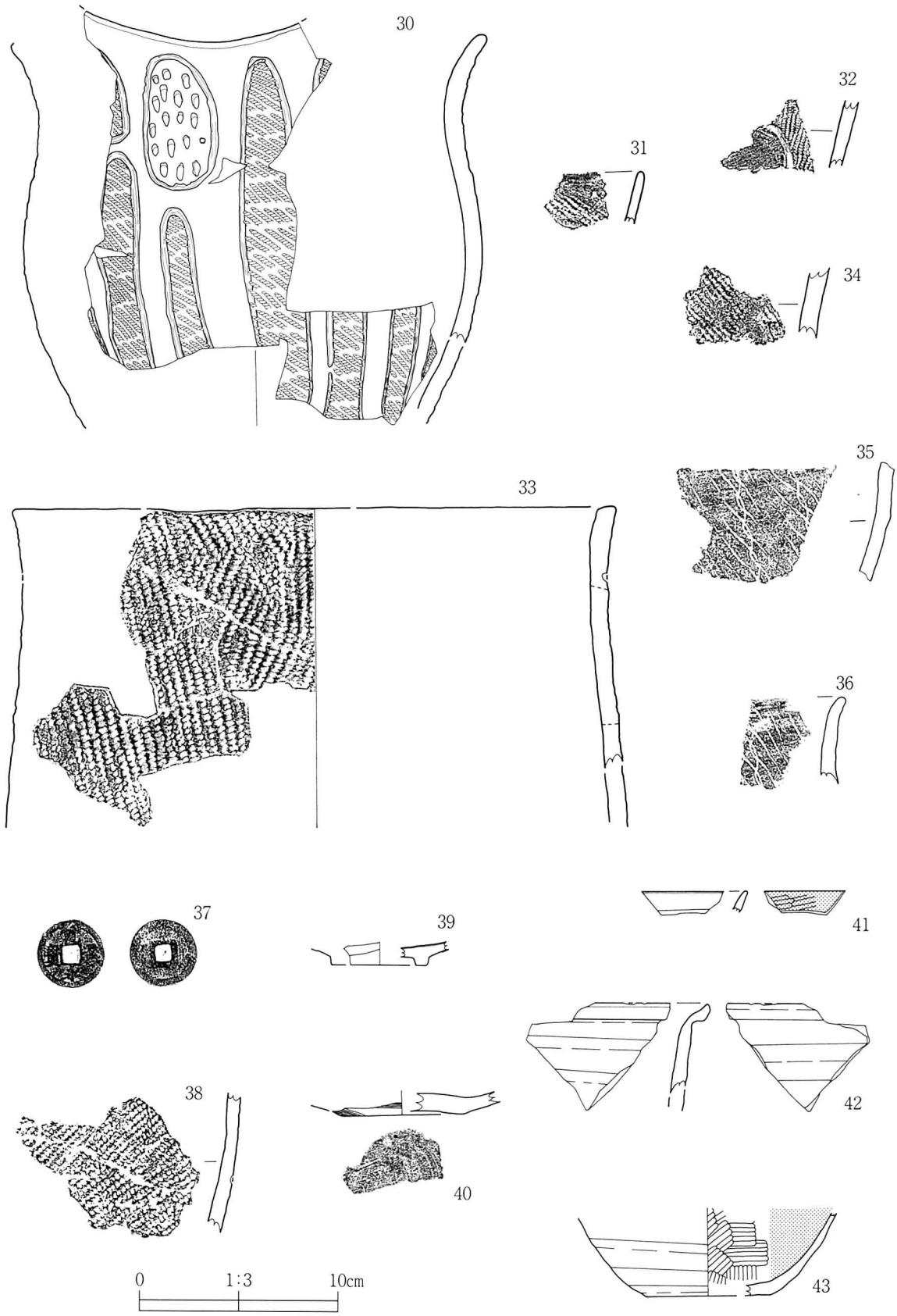
第125図　真木沢Ⅵ遺跡調査区位置図



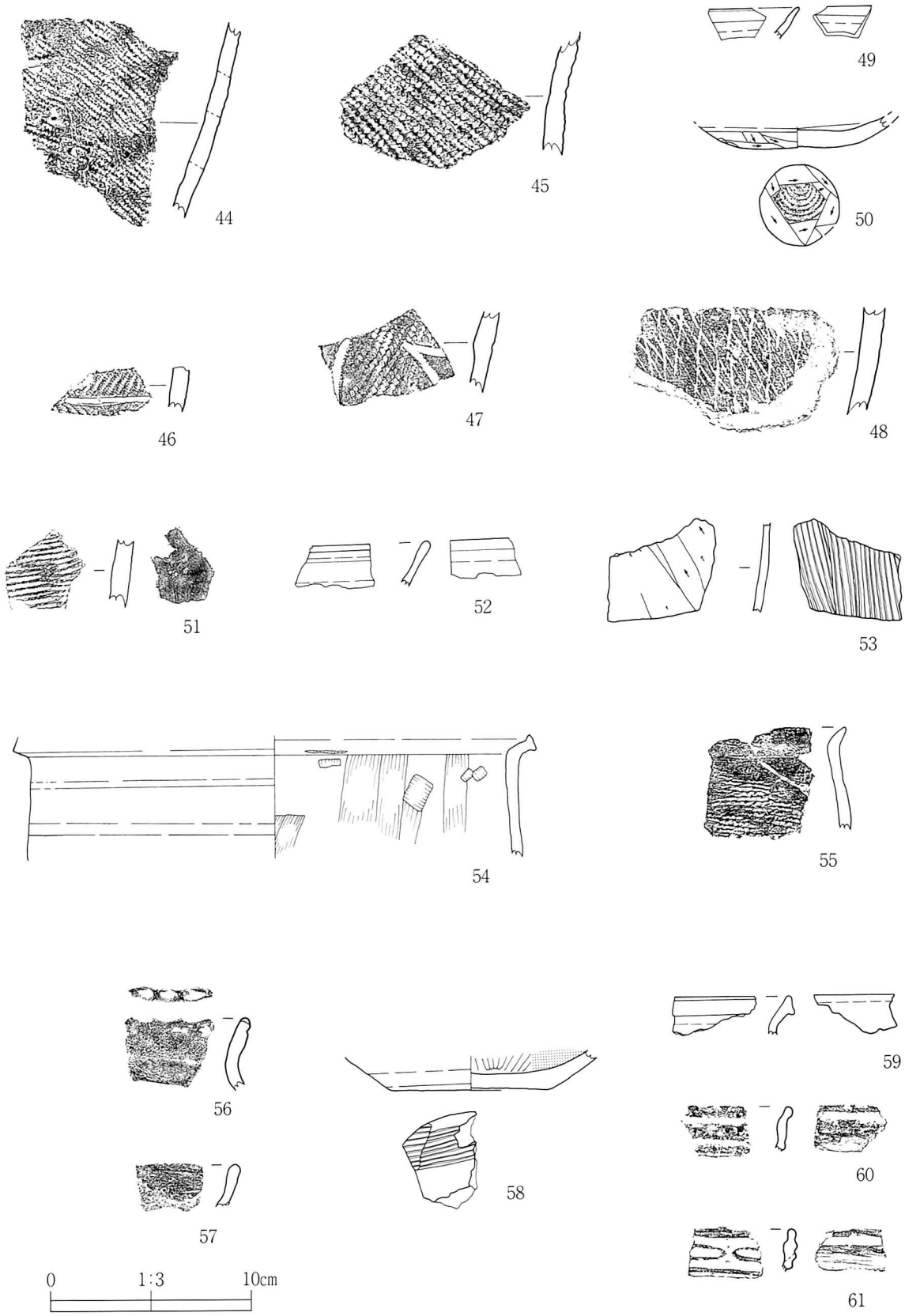
第126図　試掘調査出土遺物１



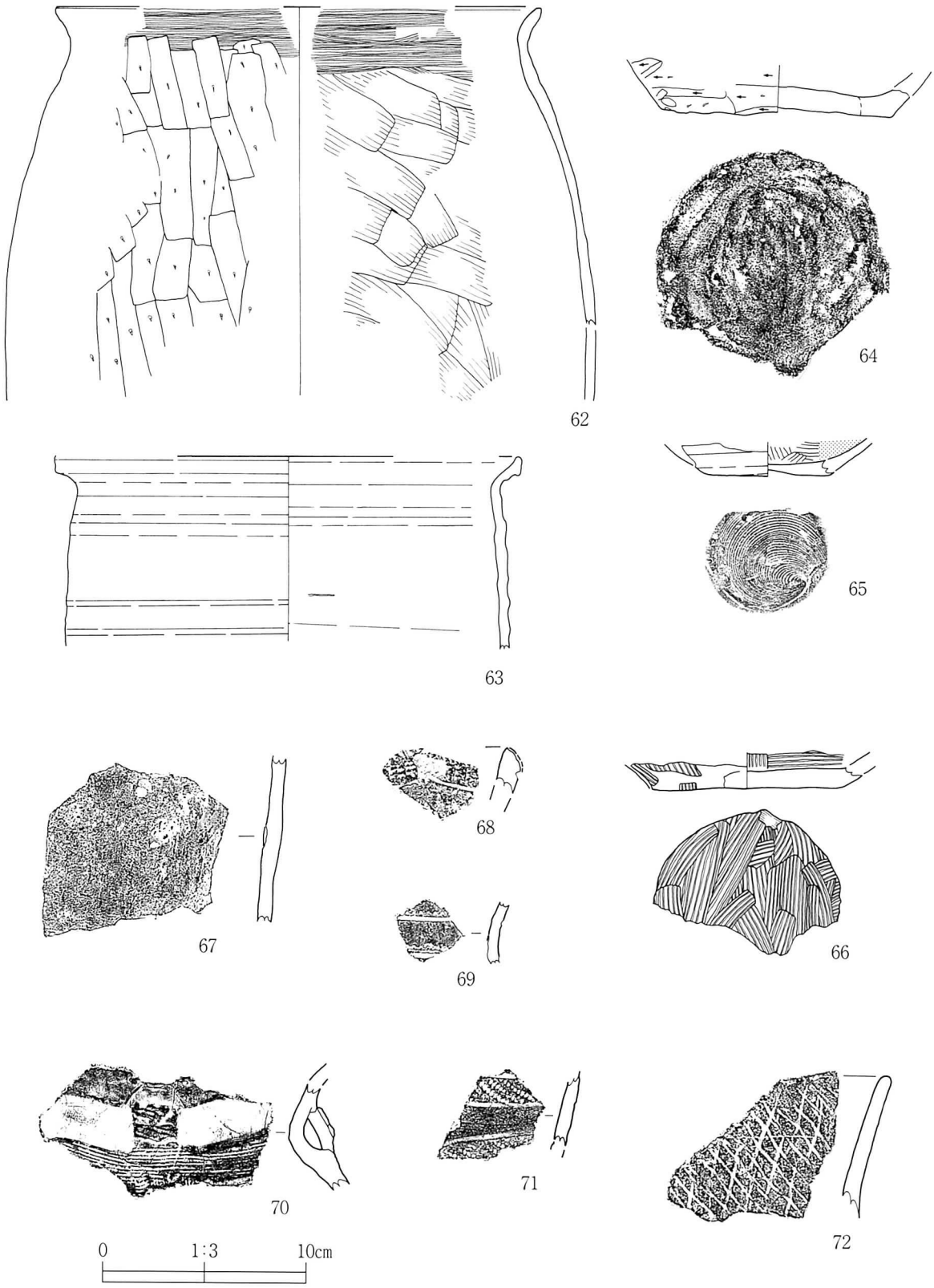
第127図　試掘調査出土遺物２



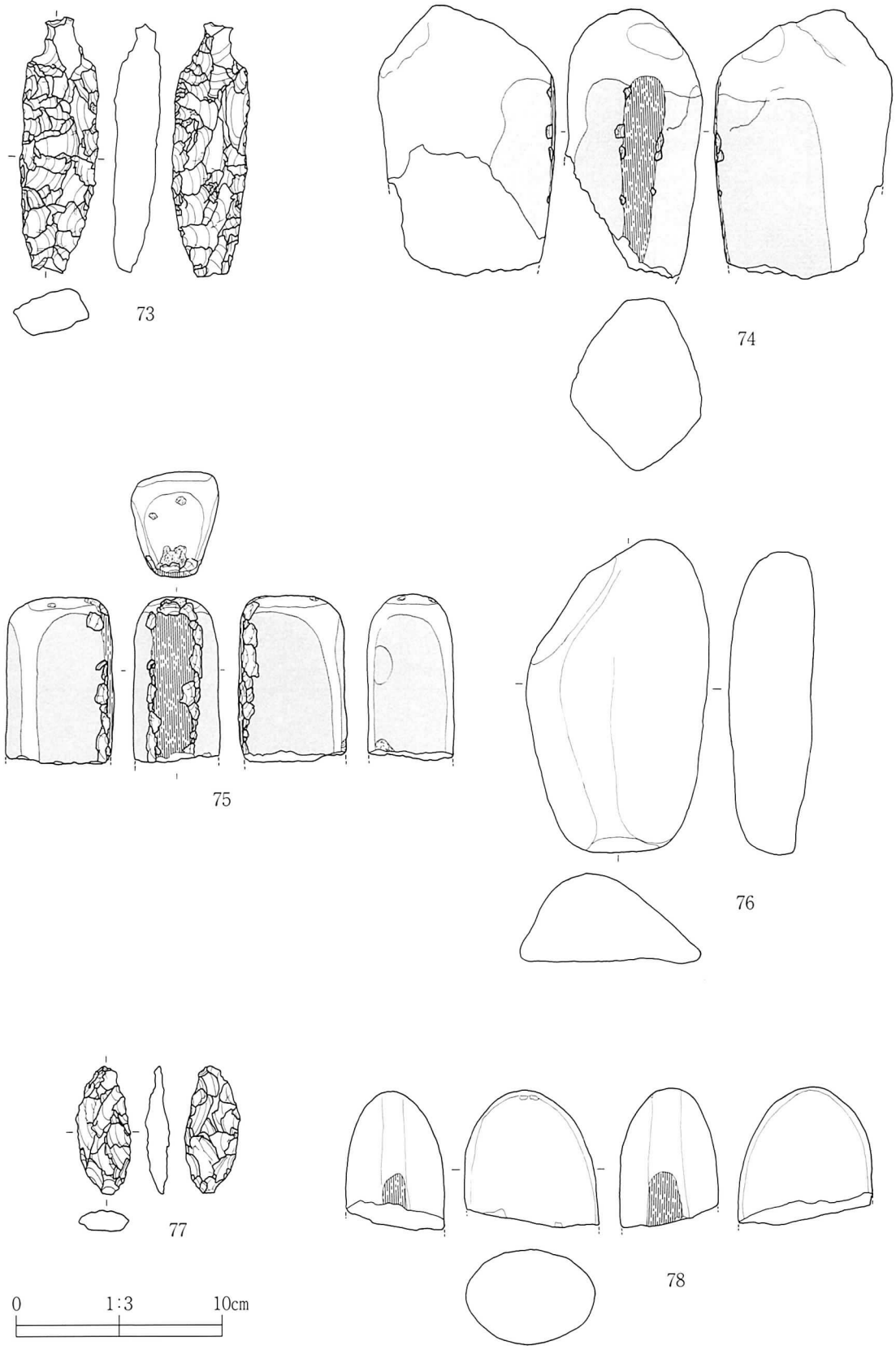
第128図　試掘調査出土遺物３



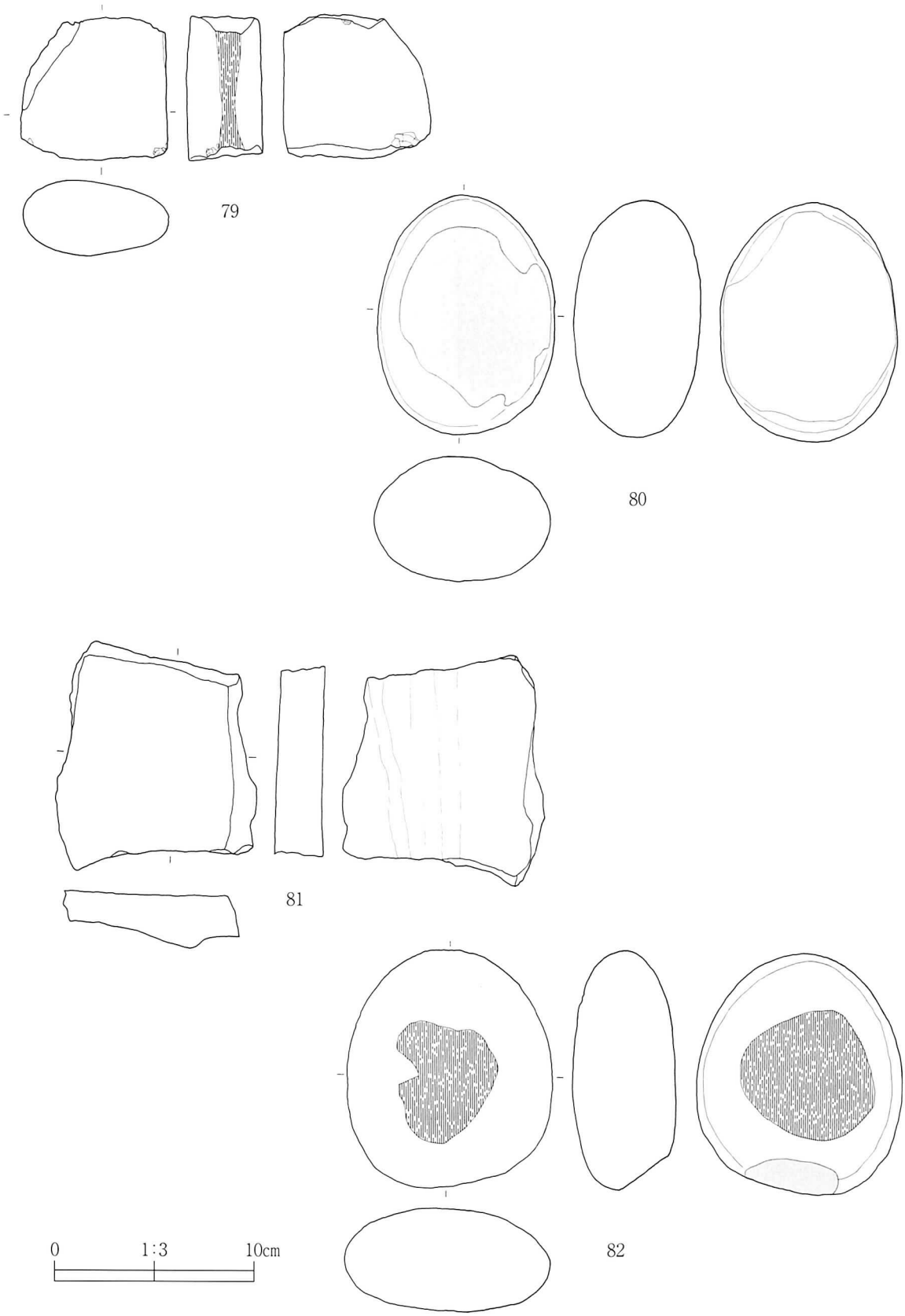
第129図　試掘調査出土遺物４



第130図　試掘調査出土遺物５



第131図　試掘調査出土遺物６



第132図　試掘調査出土遺物７

試掘調査掲載遺物一覧（1）

掲載番号	遺構名	出土地点	層位	特徴
1	大平野Ⅱ	T40焼土周辺	第Ⅱ層	縄文土器
2	大平野Ⅱ	T40焼土周辺	第Ⅱ層	縄文土器(後期後葉～末葉)・突起あり
3	大平野Ⅱ	T40焼土周辺	第Ⅱ層	縄文土器(後期)
4	大平野Ⅱ	T50	第Ⅱ層	縄文土器(大木7)
5	大平野Ⅱ	T50	第Ⅱ層	縄文土器(大木7)
6	大平野Ⅱ	T50	第Ⅱ層	縄文土器(大木7)
7	大平野Ⅱ	T50	第Ⅱ層	縄文土器(後期)
8	大平野Ⅱ	T50、T51	第Ⅱ層	縄文土器(大木6)
9	大平野Ⅱ	T50、T51	第Ⅱ層	縄文土器(後期)
10	大平野Ⅱ	T50、T51	第Ⅱ層	縄文土器(大木7)
11	堀野遺跡群	T50	第Ⅱ層	縄文土器(後期中葉)
12	堀野遺跡群	T50	第Ⅱ層	縄文土器(後期中葉)
13	徳島	T5	第Ⅱ層	縄文土器
14	小林繁長	T69	第Ⅲ層	縄文土器甕(中期)・底部・網代痕
15	小林繁長	T70	第Ⅲ層	縄文土器(大木7)
16	小林繁長	T70	第Ⅲ層	縄文土器
17	小林繁長	T71	第Ⅲ層	縄文土器
18	小林繁長	T71	第Ⅲ層	近世陶磁器(擂鉢)
19	小林繁長	T71	第Ⅰ層	近世陶磁器
20	崩田	T12（竪穴住居跡）	第Ⅱ層	土師器(9C後～10C前)
21	崩田	T12（竪穴住居跡）	第Ⅱ層	土師器(9C後～10C前)
22	崩田	T12（竪穴住居跡）	第Ⅱ層	土師器(9C後～10C前)
23	可能性あり15	T92（柱穴状土坑）	第Ⅱ層	土師器(9C後)
24	白山上野	T17	第Ⅱ層	土師器(9C後)
25	岩谷堂柳沢Ⅰ	T58	耕作土	土師器
26	岩谷堂柳沢Ⅰ	T58	耕作土	土師器
27	清田台	T3	第Ⅱ層	縄文土器(中期)
28	栃洞	T3	第Ⅱ層	縄文土器(後期後葉)
29	栃洞	T3	第Ⅱ層	縄文土器(後期後葉)
30	袋帯	T11	第Ⅱ層	縄文土器(大木9)
31	袋帯	T11	第Ⅱ層	縄文土器
32	袋帯	T11	第Ⅱ層	縄文土器
33	袋帯	T11	第Ⅱ層	縄文土器
34	吉田館	T11	第Ⅱ層	縄文土器
35	山館	T5	第Ⅱ層	弥生土器
36	山館	T5	第Ⅱ層	弥生土器
37	東Ⅳ	T1	第Ⅲ層検出面	寛永通宝
38	昼久保Ⅴ	T6	第Ⅱ層	縄文土器(中期)・LR
39	細谷地	T7	撹乱層	近世陶磁器(大堀相馬・19C)
40	坂下	T1	第Ⅱ層	土師器坏・底部・糸切り痕
41	道上	T27（土坑）	第Ⅱ層	土師器坏・内黒・ミガキ・ロクロ
42	道上	T27（土坑）	第Ⅱ層	土師器甕
43	道上	T27（土坑）	第Ⅱ層	土師器坏・内黒・ミガキ・ロクロ・糸切り痕
44	島越Ⅴ	T6	第Ⅲ層下部	縄文土器
45	島越Ⅴ	T6	第Ⅲ層下部	縄文土器
46	清水野	T1	第Ⅱ層	縄文土器(後期)
47	清水野	T1	第Ⅱ層	縄文土器(後期)
48	清水野	T1	第Ⅱ層	縄文土器(後期)
49	高日向	T1	第Ⅱ層	土師器坏(9C中～後)・ロクロ

試掘調査掲載遺物一覧（2）

掲載番号	遺構名	出土地点	層位	特徴
50	高日向	T1	第Ⅱ層	土師器坏(9C中～後)・ロクロ・底部・糸切り痕
51	沼尻	T5	第Ⅱ層	須恵器
52	沼尻	T5	第Ⅱ層	土師器坏・ロクロ
53	沼尻	T5	第Ⅱ層	須恵器
54	野沢Ⅱ	T259	第Ⅱ層	土師器甕・ロクロ・ケズリ
55	野沢Ⅱ	T298	第Ⅱ層	縄文土器
56	舟渡Ⅰ	T204	第Ⅱ層	縄文土器
57	舟渡Ⅰ	T199	第Ⅱ層	縄文土器
58	舟渡Ⅱ	T228	第Ⅱ層	土師器坏・底部
59	舟渡Ⅱ	T228	第Ⅱ層	土師器坏・口縁部
60	舟渡Ⅱ	T232	第Ⅲ層	縄文土器
61	舟渡Ⅱ	T232	第Ⅲ層	縄文土器
62	市の川Ⅱ	T82(竪穴住居カマド付近)	第Ⅱ層上部	土師器甕・ケズリ
63	市の川Ⅱ	T82(竪穴住居カマド付近)	第Ⅱ層上部	土師器甕・ロクロ
64	市の川Ⅱ	T81	第Ⅱ層下部	土師器甕・底部・ケズリ
65	八天北	T332	礫層上層	土師器坏・内黒・ミガキ
66	八天北	T336（土坑）	第Ⅲ層検出面	土師器甕
67	宇曽沢	T8	第Ⅱ層	縄文土器
68	宇曽沢	T6	第Ⅱ層	縄文土器
69	宇曽沢	T8	第Ⅱ層	縄文土器
70	戸仲	T11	第Ⅱ層	縄文土器
71	戸仲	T11	第Ⅱ層	縄文土器
72	戸仲	T11	第Ⅱ層	縄文土器
73	岩谷堂柳沢Ⅱ	T3	第Ⅱ層黒色土内	有舌尖頭器
74	昼久保Ⅴ	T3	第Ⅱ層暗褐色土内	磨石
75	昼久保Ⅴ	T3	第Ⅱ層暗褐色土内	磨石
76	昼久保Ⅴ	T6	第Ⅱ層	磨石
77	島越Ⅴ	T6	第Ⅲ層下部	有舌尖頭器
78	島越Ⅴ	T6	第Ⅲ層下部	磨石
79	島越Ⅴ	T6	第Ⅲ層下部	磨石・石斧
80	島越Ⅴ	T6	第Ⅲ層下部	磨石
81	島越Ⅴ	T6	第Ⅲ層下部	砥石
82	島越Ⅴ	T6	第Ⅲ層下部	敲石

分布調査一覧

1　凍雪害対策事業　　事業者：大船渡地方振興局土木部　　調査期日　平成17年４月14日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1						気仙郡住田町字窪田地内	遺跡なし

2　特殊改良一種事業　　事業者：久慈地方振興局土木部　　調査期日　平成17年５月20日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1		可能性あり				九戸郡川井村第６地割字沼袋地内	

3　津付ダム建設事業　　事業者：大船渡地方振興局土木部津付ダム建設事務所　　調査期日　平成17年５月23日・24日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1		可能性あり①				気仙郡住田町世田米字津付地内	
2		可能性あり②					
3		可能性あり③					
4		可能性あり④					
5	NE13-0143	子飼沢高炉跡	近世		製鉄跡	気仙郡住田町世田米字子飼沢地内	
6		可能性あり⑤					
7		可能性あり⑥					
8		可能性あり⑦					
9		可能性あり⑧					

4　一般国道106号都南川目道路改築事業　　事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所　　調査期日　平成17年５月26日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1						胆沢郡胆沢町若柳地内	遺跡なし

5　農業用水再編対策事業　　事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室　　調査期日　平成17年６月２日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1						胆沢郡胆沢町若柳地内	遺跡なし

6　地域水田農業支援排水対策特別事業　　事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室　　調査期日　平成17年６月２日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1							

7　農業用水再編対策事業胆沢平野地区太郎ヶ沢排水路　事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室　調査期日　平成17年６月２日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1		可能性あり				胆沢郡胆沢町簾森地内	

8　大荒沢通常砂防事業　事業者：北上地方振興局土木部　調査期日　平成17年７月28日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1		可能性あり				和賀郡沢内村川舟地内	

9　一関遊水地事業(第２遊水地管理用道路新設工事)　事業者：国土交通省岩手河川国道事務所　調査期日　平成17年７月21日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1	NE76-1249	館岡Ⅰ遺跡	縄文・中近世		城館跡・散布地	西磐井郡平泉町長島地内	
2	NE76-1279	館岡Ⅱ遺跡	縄文・中近世		城館跡・散布地	西磐井郡平泉町長島地内	
3		可能性あり					
4	NE76-1383	小島館(古館)	縄文・中近世		城館跡	西磐井郡平泉町長島地内	

10　花巻空港土木工事　事業者：花巻空港事務所　調査期日　平成17年８月３日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1		可能性あり①				石鳥谷町江曽第９、10、11地割	
2		可能性あり②					

11　緊急道路整備事業　事業者：宮古地方振興局土木部　調査期日　平成17年８月３日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1		可能性あり①					
2		可能性あり②					
3		可能性あり③					

12　緊急道路整備事業　事業者：二戸地方振興局農政部農村整備室　調査期日　平成17年８月10日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1		可能性あり１					
2		可能性あり２					

13　県単道路改良事業　　事業者：大船渡地方振興局土木部長　　調査期日　平成17年８月19日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構　・　遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1		可能性あり１					
2		可能性あり２					
3		可能性あり３					

14　主要地方道八戸大野線歩道整備工事　　事業者：久慈地方振興局土木部長　　調査期日　平成17年10月４日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構　・　遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1		可能性あり①					
2		可能性あり②					

15　一般県道野田港線歩道整備工事　　事業者：久慈地方振興局土木部長　　調査期日　平成17年10月４日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構　・　遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1		可能性あり①					
2		可能性あり②					
2		可能性あり③					
2		可能性あり④					
2		可能性あり⑤					

16　農業農村整備事業　　事業者：北上地方振興局農林部農村整備室長　　調査期日　平成17年10月６日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構　・　遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1		小屋館遺跡	中世	帯郭・堀跡	城館跡	北上市口内町	
2		可能性あり①					
3		可能性あり②					
4		可能性あり③					

17　森林管理道　鈴峠１号線開設工事　　事業者：盛岡地方振興局林務部長　　調査期日　平成17年12月28日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構　・　遺　物	種　　別	所　在　地	備　　考
1		可能性あり①					
2	KF25-0380	荒沢遺跡	縄文	土器片	散布地	葛巻町江刈地内	周知

18　道路改築事業　　事業者：宮古地方振興局土木部長　　調査期日　平成18年１月19日～20日
平成18年１月23日～24日、３月14日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構　・　遺　物	種　　別	所　在　地	備　考
1		可能性あり１					
2		可能性あり２					
3	LG33-2166	松山大地田沢	古代		集落跡	宮古市松山第７地割大地田沢地内	周知
4		可能性あり３					
5		可能性あり４					
6	LG33-2162	松山下谷地	縄文・古代		散布地	宮古市松山第８地割下谷地地内	周知
7		可能性あり５					
8		可能性あり６					
9	LG33-2086	松山館	古代・中世		城館跡	宮古市田鎖第５地割鰻内ほか	周知
10	LG33-2040		縄文・古代		散布地		新規
11	LG33-2358	田鎖	縄文・古代	縄文土器・須恵器	散布地		周知
12	LG32-2333	田鎖館（三合並館）	中世		城館跡	宮古市田鎖第２地割斎藤師地内	周知
13		可能性あり７					
14		可能性あり８					

19　一関研究開発工業団地整備事業　　事業者：岩手県土地開発公社　　調査期日　平成18年３月23日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構　・　遺　物	種　　別	所　在　地	備　考
1		可能性あり１					
2		可能性あり２					
3		可能性あり３					
4		可能性あり４					
5		可能性あり５					
6		可能性あり６					

平成17年度試掘調査一覧

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
1	平成17年4月18日	農用地総合整備事業下閉伊北区域	緑資源機構下閉伊北建設事業所長	浜岩泉Ⅲ遺跡	田野畑村
2	平成17年4月18日～19日	国営いさわ南部農地整備事業	東北農政局いさわ南部農地整備事業所長	上大畑平Ⅰ遺跡	胆沢町
3	平成17年4月18日	国営いさわ南部農地整備事業	東北農政局いさわ南部農地整備事業所長	上大畑平Ⅱ遺跡	胆沢町
4	平成17年4月18日	国営いさわ南部農地整備事業	東北農政局いさわ南部農地整備事業所長	上大畑平Ⅲ遺跡	胆沢町
5	平成17年4月19日	農用地総合整備事業下閉伊北区域	緑資源機構下閉伊北建設事業所長	真木沢Ⅵ遺跡	田野畑村
6	平成17年4月21日	県単交通安全施設整備事業(貝喰工区)	二戸地方振興局土木部長	太田向２遺跡	軽米町
7	平成17年4月21日	県単交通安全施設整備事業(貝喰工区)	二戸地方振興局土木部長	太田向４遺跡	軽米町
8	平成17年4月22日	河川災害復旧事業	盛岡地方振興局土木部長	南野遺跡	矢巾町
9	平成17年4月25日	一関遊水地事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり３	平泉町
10	平成17年4月25日	一般県道夏油温泉江釣子線寺田地区歩道設置工事	北上地方振興局土木部長	里小屋遺跡	北上市
11	平成17年4月26日	河川災害復旧事業	盛岡地方振興局土木部長	川目Ｂ遺跡隣接地	盛岡市
12	平成17年5月9日	緊急地方道路整備事業	花巻地方振興局土木部長	上和町Ⅰ及び備中館	石鳥谷町
13	平成17年5月9日	緊急地方道路整備事業(村道代行)	北上地方振興局土木部長	鍵沢Ⅰ遺跡	沢内村
14	平成17年5月10日	経営体育成基盤整備事業	北上地方振興局農林部農村整備室長	烏喰Ⅰ遺跡	北上市
15	平成17年5月10日	経営体育成基盤整備事業	北上地方振興局農林部農村整備室長	岡島遺跡	北上市
16	平成17年5月10日	経営体育成基盤整備事業	北上地方振興局農林部農村整備室長	中居俵Ⅱ遺跡	北上市
17	平成17年5月11日	一般県道夏油温泉江釣子線寺田地区歩道設置工事	北上地方振興局土木部長	里小屋遺跡	北上市
18	平成17年5月11日～12日	一般国道107号和賀仙人地区堆雪帯工事	北上地方振興局土木部長	切留Ⅳ遺跡	北上市
19	平成17年5月11日～12日	一般国道107号和賀仙人地区堆雪帯工事	北上地方振興局土木部長	切留Ⅱ遺跡	北上市
20	平成17年5月16～17日	緊急地方道路整備事業	二戸地方振興局土木部長	吉田館跡	北上市
21	平成17年5月17日	教員住宅下水道整備事業	学校財務課総括課長	蒔田Ⅲ遺跡	九戸村
22	平成17年5月20日	一般国道340号和井内地区道路改築事業	宮古地方振興局土木部長	永田Ⅲ遺跡	新里村
23	平成17年5月25日～27日	国営いさわ南部農地整備事業	東北農政局いさわ南部農地整備事業所長	上大畑平Ⅰ遺跡	胆沢町
24	平成17年5月25日～27日	国営いさわ南部農地整備事業	東北農政局いさわ南部農地整備事業所長	上大畑平Ⅱ遺跡	胆沢町
25	平成17年5月25日～27日	国営いさわ南部農地整備事業	東北農政局いさわ南部農地整備事業所長	上大畑平Ⅲ遺跡	胆沢町
26	平成17年5月30日～7月29日	胆沢ダム建設事業	国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所長	大平野Ⅱ遺跡	胆沢町
27	平成17年6月1日	遠野第二生活貯水池建設事業	遠野地方振興局土木部長	栃洞遺跡	遠野市
28	平成17年6月16日	一般国道4号小鳥谷バイパス改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	五月舘跡	一戸町
29	平成17年6月1日～2日	県立花巻厚生・北上病院統合整備事業	医療局管理課総括課長	蒲沢遺跡	北上市

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
30	平成17年6月8日～15日	県立花巻厚生・北上病院統合整備事業	医療局管理課総括課長	蒲沢遺跡	北上市
31	平成17年6月16日～17日	緊急地方道路整備事業	釜石地方振興局土木部長	桜峠遺跡	釜石市
32	平成17年6月20日	地域振興支援道路ネットワーク整備事業	千厩地方振興局農林部農村整備室長	清田台遺跡	千厩町
33	平成17年7月1日	一般国道4号線平泉バイパス改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり	平泉町
34	平成17年7月4日	花巻空港整備事業実施計画	花巻空港事務所長	石持Ⅰ遺跡	花巻市
35	平成17年7月4日～5日	資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区	宮古地方振興局農政部長	可能性あり①	田野畑村
36	平成17年7月4日～5日	資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区	宮古地方振興局農政部長	可能性あり①	田野畑村
37	平成17年7月13日～14日	緊急地方道路整備事業	釜石地方振興局土木部長	可能性あり①	釜石市
38	平成17年7月13日～14日	緊急地方道路整備事業	釜石地方振興局土木部長	可能性あり③	釜石市
39	平成17年7月14日～15日	国営いさわ南部農地整備事業	東北農政局いさわ南部農地整備事業所長	宮沢原下遺跡	胆沢町
40	平成17年7月14日～20日	県立花巻厚生・北上病院統合整備事業	医療局管理課総括課長	蒲沢遺跡	北上市
41	平成17年5月11日～12日	一般国道107号和賀仙人地区堆雪帯工事	北上地方振興局土木部長	切留Ⅳ遺跡	北上市
42	平成17年5月11日～12日	一般国道107号和賀仙人地区堆雪帯工事	北上地方振興局土木部長	切留Ⅱ遺跡	北上市
43	平成17年5月11日～12日	一般国道107号和賀仙人地区堆雪帯工事	北上地方振興局土木部長	切留Ⅲ遺跡	北上市
44	平成17年8月2日	緊急地方道路整備事業	宮古地方振興局土木部長	川代Ⅱ遺跡	宮古市
45	平成17年8月9日、18日	緊急地方道路整備事業	二戸地方振興局土木部長	吉田館跡	浄法寺町
46	平成17年8月23日	主要地方道軽米九戸線細屋地区交通安全施設整備(歩道)工事	二戸地方振興局土木部長	上細屋遺跡隣接地	九戸村
47	平成17年8月25日	資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区	宮古地方振興局農政部長	島越Ⅲ遺跡	田野畑村
48	平成17年8月25日	資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区	宮古地方振興局農政部長	島越Ⅶ遺跡	田野畑村
49	平成17年8月31日	主要地方道軽米九戸線細屋地区交通安全施設整備(歩道)工事	二戸地方振興局土木部長	上細屋遺跡隣接地	九戸村
50	平成17年8月29日	一般国道46号盛岡西バイパス改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	矢盛遺跡	盛岡市
51	平成17年8月29日	一般国道46号盛岡西バイパス改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	細谷地遺跡	盛岡市
52	平成17年8月9日	畑地帯総合整備事業	二戸地方振興局農政部農村整備室長	上家向遺跡	一戸町
53	平成17年8月9日	畑地帯総合整備事業	二戸地方振興局農政部農村整備室長	中村遺跡	一戸町
54	平成17年8月25日	一般国道4号平泉バイパス改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	瀬原Ⅰ遺跡	平泉町
55	平成17年9月1日～2日	一般県道二戸一戸線堀野地区交通安全施設整備(歩道)工事	二戸地方振興局土木部長	堀野遺跡群	二戸市
56	平成17年9月5日～6日	一般県道二戸一戸線堀野地区交通安全施設整備(歩道)工事	二戸地方振興局土木部長	堀野遺跡群	二戸市
57	平成17年9月8日～9日	一般県道二戸一戸線堀野地区交通安全施設整備(歩道)工事	二戸地方振興局土木部長	堀野遺跡群	二戸市
58	平成17年9月12日	一般県道夏油温泉江釣子線寺田地区歩道設置工事	北上地方振興局土木部長	里小屋遺跡	北上市
59	平成17年7月6日、8月4日	資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区	宮古地方振興局農政部長	可能性あり③	田野畑村

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
60	平成17年8月26、9月5～7	資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区	宮古地方振興局農政部長	島越Ⅴ遺跡	田野畑村
61	平成17年8月26、9月5～7	資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区	宮古地方振興局農政部長	浜岩泉Ⅲ遺跡	田野畑村
62	平成17年8月26、9月5～7	資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区	宮古地方振興局農政部長	大牛内Ⅶ遺跡	田野畑村
63	平成17年8月26、9月5～7	資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区	宮古地方振興局農政部長	清水野Ⅴ遺跡	田野畑村
64	平成17年8月26、9月5～7	資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区	宮古地方振興局農政部長	浜岩泉Ⅵ遺跡隣接地	田野畑村
65	平成17年8月4日～5日	資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区	宮古地方振興局農政部長	島越Ⅴ遺跡隣接地	田野畑村
66	平成17年8月30日～31日	馬淵川沿岸農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	可能性あり１	一戸町
67	平成17年8月30日～31日	馬淵川沿岸農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	可能性あり２	一戸町
68	平成17年8月30日～31日	馬淵川沿岸農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	可能性あり３	一戸町
69	平成17年8月30日～31日	馬淵川沿岸農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	可能性あり４	一戸町
70	平成17年9月8日～9日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	迎畑遺跡隣接地	前沢町
71	平成17年9月8日～9日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	道上遺跡	前沢町
72	平成17年9月16日	いさわ南部農地整備事業	東北農政局いさわ南部農地整備事業所長	上大畑平Ⅱ遺跡	胆沢町
73	平成17年9月12日	畑地帯総合整備事業　東奥中山地区	二戸地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり１	一戸町
74	平成17年9月12日	畑地帯総合整備事業　東奥中山地区	二戸地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり２	一戸町
75	平成17年9月12日～13日	20側場外点検道路舗装工事	花巻空港事務所長	可能性あり①	石鳥谷町
76	平成17年9月12日～13日	20側場外点検道路舗装工事	花巻空港事務所長	可能性あり②	石鳥谷町
77	平成17年9月16日	県単独急傾斜地崩壊対策事業	水沢地方振興局土木部長	赤坂Ⅲ遺跡隣接地	前沢町
78	平成17年9月22日	主要地方道一関北上線下門岡地区道路改良工事	北上地方振興局土木部長	斉羽場館跡隣接地	北上市
79	平成17年9月20日	主要地方道上米内湯沢線米内地区道路拡幅工事	盛岡地方振興局土木部長	下米内遺跡	盛岡市
80	平成17年9月21日～22日	主要地方道二戸安代線福田地区道路改良工事	二戸地方振興局土木部長	福田館遺跡隣接地	二戸市
81	平成17年9月26日	県単道路改良事業	大船渡地方振興局土木部長	可能性あり①	住田町
82	平成17年9月26日	県単道路改良事業	大船渡地方振興局土木部長	可能性あり②	住田町
83	平成17年9月26日	県単道路改良事業	大船渡地方振興局土木部長	可能性あり③	住田町
84	平成17年9月26日～27日	道路改築事業	宮古地方振興局土木部長	袈綿遺跡	宮古市
85	平成17年9月28日	一般県道盛岡滝沢線青山地区特定交通安全施設整備等	盛岡地方振興局土木部長	長畑遺跡	盛岡市
86	平成17年9月28日～30日	馬淵川沿岸農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	IE89－0201遺跡	二戸市
87	平成17年9月28日～30日	馬淵川沿岸農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	可能性あり⑤	二戸市
88	平成17年9月28日～30日	馬淵川沿岸農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	可能性あり⑥	二戸市
89	平成17年9月21日・30日	一般国道106号川目地区歩道設置工事	盛岡地方振興局土木部長	宇曽沢遺跡	盛岡市

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
90	平成17年9月29日	経営体育成基盤整備事業　土渕地区	遠野地方振興局農政部農村整備室長	火石遺跡	遠野市
91	平成17年10月3日	緑資源幹線林道葛巻田子線浄法寺区間開設工事	緑資源機構盛岡地方建設部長	大欠切Ⅱ遺跡	一戸町
92	平成17年10月3日	一般県道永沢水沢線特定交通安全事業	水沢地方振興局土木部長	兵法田遺跡	水沢市
93	平成17年10月7日	主要地方道一関北上線下門岡地区道路改良工事	北上地方振興局土木部長	金附館遺跡隣接地	北上市
94	平成17年10月7日	経営体育成基盤整備事業	花巻地方振興局農林部農村整備室長	宿・宿館遺跡	石鳥谷町
95	平成17年10月11日	主要地方道盛岡和賀線羽場地区・緊急地方道路整備事業	盛岡地方振興局土木部長	因幡遺跡	盛岡市
96	平成17年10月7日	緊急地方道路整備事業	宮古地方振興局土木部長	可能性あり①	川井村
97	平成17年10月7日	緊急地方道路整備事業	宮古地方振興局土木部長	可能性あり②	川井村
98	平成17年10月7日	緊急地方道路整備事業	宮古地方振興局土木部長	可能性あり③	川井村
99	平成17年10月5日～7日	下水道施設整備事業	学校財務課総括課長	中島遺跡	胆沢町
100	平成17年10月5日～6日	経営体育成基盤整備事業　古城地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり⑭	前沢町
101	平成17年10月5日～6日	経営体育成基盤整備事業　古城地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり⑮	前沢町
102	平成17年10月12日	経営体育成基盤整備事業　増沢東部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡	江刺市
103	平成17年10月12日～14日	経営体育成基盤整備事業　徳岡東部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	高日向遺跡	胆沢町
104	平成17年10月12日～14日	経営体育成基盤整備事業　徳岡東部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	高日向遺跡隣接地	胆沢町
105	平成17年10月17日	緊急地方道路整備事業	二戸地方振興局土木部長	桂平Ⅱ遺跡	浄法寺町
106	平成17年10月17日	緊急地方道路整備事業	二戸地方振興局土木部長	桂平Ⅰ遺跡	浄法寺町
107	平成17年10月17日	一般県道岩手大更線道路改築事業	盛岡地方振興局土木部岩手出張所長	北切遺跡及び隣接地	八幡平市
108	平成17年10月18日	県単交通安全施設整備事業(貝喰工区)	二戸地方振興局土木部長	太田向４遺跡	軽米町
109	平成17年10月18日	かんがい排水事業　稲瀬地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	柏原館跡隣接地	江刺市
110	平成17年10月18日	経営体育成基盤整備事業土渕地区	遠野地方振興局農政部農村整備室長	水内遺跡	遠野市
111	平成17年10月18日	経営体育成基盤整備事業土渕地区	遠野地方振興局農政部農村整備室長	阿部館遺跡	遠野市
112	平成17年10月18日	経営体育成基盤整備事業土渕地区	遠野地方振興局農政部農村整備室長	火石遺跡	遠野市
113	平成17年10月20日～21日	経営体育成基盤整備事業　古城地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり⑭	前沢町
114	平成17年10月5日～6日	経営体育成基盤整備事業　古城地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり⑮	前沢町
115	平成17年10月24日～26日	経営体育成基盤整備事業　増沢東部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	岩谷堂柳沢Ⅰ遺跡	江刺市
116	平成17年10月24日～26日	経営体育成基盤整備事業　増沢東部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡	江刺市
117	平成17年10月24日～26日	経営体育成基盤整備事業　増沢東部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	金打遺跡	江刺市
118	平成17年10月25日	経営体育成基盤整備事業都鳥地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	牡丹野遺跡	胆沢町
119	平成17年10月24日～26日	経営体育成基盤整備事業都鳥地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	作屋敷遺跡	胆沢町

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
120	平成17年10月25日	経営体育成基盤整備事業都鳥地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	尼坂遺跡	胆沢町
121	平成17年10月27日	中山間地域総合整備事業　日頃市西地区	大船渡地方振興局農林部長	上宿遺跡	大船渡市
122	平成17年10月27日	一般国道4号渋民バイパス改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	昼久保Ⅴ遺跡	玉山村
123	平成17年10月27日～28日	一般国道4号渋民バイパス改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	武道Ⅳ遺跡	玉山村
124	平成17年10月27日～28日	経営体育成基盤整備事業　大明神地区	花巻地方振興局農林部農村整備室長	上野々遺跡	石鳥谷町
125	平成17年10月27日～28日	県営資源リサイクル畜産環境整備事業馬淵川北部地区	二戸地方振興局農政部長	上野新田遺跡隣接地	二戸市
126	平成17年10月31日	緑資源幹線林道葛巻田子線葛巻浄法寺区間開設事業	独立行政法人緑資源機構盛岡地方建設部長	東Ⅳ遺跡	一戸町
127	平成17年10月31日	県営経営体育成基盤整備事業西山Ⅰ工区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	KE87-2372遺跡	雫石町
128	平成17年10月31日	経営体育成基盤整備事業　中寺林地区	花巻地方振興局農林部農村整備室長	八幡Ⅱ遺跡	石鳥谷町
129	平成17年10月31日	経営体育成基盤整備事業　中寺林地区	花巻地方振興局農林部農村整備室長	八幡Ⅲ遺跡	石鳥谷町
130	平成17年10月31日	経営体育成基盤整備事業　中寺林地区	花巻地方振興局農林部農村整備室長	八坂遺跡	石鳥谷町
131	平成17年10月31日	経営体育成基盤整備事業　中寺林地区	花巻地方振興局農林部農村整備室長	愛郷遺跡	石鳥谷町
132	平成17年11月1日	農業用水再編対策事業　胆沢平野地区太郎ヶ沢排水路	水沢地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり	前沢町
133	平成17年11月1日～2日	経営体育成基盤整備事業　古城地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり⑭	前沢町
134	平成17年11月1日～2日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	迎畑遺跡隣接地	前沢町
135	平成17年11月1日～2日	馬淵川沿岸農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所	可能性あり７	二戸市
136	平成17年11月1日～2日	馬淵川沿岸農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	可能性あり８	二戸市
137	平成17年11月1日～2日	馬淵川沿岸農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	可能性あり９	二戸市
138	平成17年11月4日	経営体育成基盤整備事業　徳岡東部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	高日向遺跡隣接地	胆沢町
139	平成17年11月4日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部第5地区	北上地方振興局農林部農村整備室長	高前田遺跡	北上市
140	平成17年11月4日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部第5地区	北上地方振興局農林部農村整備室長	下成沢Ⅱ遺跡	北上市
141	平成17年11月4日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部第5地区	北上地方振興局農林部農村整備室長	葛西壇遺跡	北上市
142	平成17年11月8日	緊急地方道路整備事業	二戸地方振興局土木部長	川口Ⅰ遺跡	二戸市
143	平成17年11月9日	緊急地方道路整備事業	二戸地方振興局土木部長	桂平Ⅰ遺跡	浄法寺町
144	平成17年11月10日	道路改築事業	大船渡地方振興局土木部長	栃ヶ沢遺跡	陸前高田市
145	平成17年11月11日	一般国道45号中野バイパス改築事業	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	真木沢Ⅴ遺跡	田野畑村
146	平成17年11月11日	経営体育成基盤整備事業　徳岡東部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	高日向遺跡隣接地	胆沢町
147	平成17年11月7日～9日	交流ネットワーク道路整備事業	水沢地方振興局土木部長	可能性あり13	江刺市
148	平成17年11月7日～9日	交流ネットワーク道路整備事業	水沢地方振興局土木部長	可能性あり14	江刺市
149	平成17年11月9日	松園養護学校整備事業	学校財務課総括課長	松屋敷遺跡	盛岡市

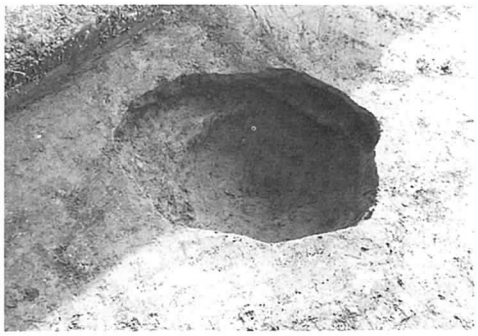
No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
150	平成17年11月14日～17日	第２クリーンセンター整備・運営事業	環境生活部資源循環推進課総括課長	可能性あり	九戸村
151	平成17年11月14日～15日	農用地総合整備事業　下閉伊北地区	独立行政法人緑資源機構下閉伊北建設事業所長	細沢向遺跡	田野畑村
152	平成17年11月15日～16日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	白山上野遺跡	前沢町
153	平成17年11月16日	一般国道106号川目地区歩道設置工事	盛岡地方振興局土木部長	戸仲遺跡	盛岡市
154	平成17年11月15日～16日	経営体育成基盤整備事業　満倉地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	崩田遺跡	水沢市
155	平成17年11月17日	経営体育成基盤整備事業　古城地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり⑭	前沢町
156	平成17年11月17日	東北横断自動車道釜石秋田線(宮守～東和間)	東日本高速道路株式会社東北支社北上工事事務所	落合館	遠野市
157	平成17年11月18日	東北横断自動車道釜石秋田線(宮守～東和間)	東日本高速道路株式会社東北支社北上工事事務所	桜沢Ⅱ遺跡	東和町
158	平成17年11月17日～18日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	小林繁長遺跡	前沢町
159	平成17年11月21日～24日	経営体育成基盤整備事業　増沢東部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	岩谷堂柳沢Ⅰ遺跡	江刺市
160	平成17年11月21日～24日	経営体育成基盤整備事業　増沢東部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡	江刺市
161	平成17年11月21日～24日	経営体育成基盤整備事業　増沢東部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	金打遺跡	江刺市
162	平成17年11月22日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり⑤	江刺市
163	平成17年11月21日	経営体育成基盤整備事業　猫川左岸地区	遠野地方振興局農政部農村整備室長	森ノ下Ⅱ遺跡	遠野市
164	平成17年11月22日	経営体育成基盤整備事業　猫川左岸地区	遠野地方振興局農政部農村整備室長	宇南田Ⅰ遺跡	遠野市
165	平成17年11月24日	経営体育成基盤整備事業　江釣子第二地区	北上地方振興局農林部農村整備室長	鳩岡崎三館隣接地	北上市
166	平成17年11月24日	経営体育成基盤整備事業　江釣子第一地区	北上地方振興局農林部農村整備室長	下糠塚古館遺跡	北上市
167	平成17年11月24日～25日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	沼尻遺跡	江刺市
168	平成17年11月24日～25日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり⑥	江刺市
169	平成17年11月24日～25日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり⑦	江刺市
170	平成17年11月25日	経営体育成基盤整備事業　大川目地区	久慈地方振興局農政部農村整備室長	新町遺跡	久慈市
171	平成17年11月25日	経営体育成基盤整備事業　満倉地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	崩田遺跡	水沢市
172	平成17年11月28日	一般国道4号小鳥谷バイパス改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	五月館遺跡	一戸町
173	平成17年11月28日～29日	緑資源幹線林道葛巻・田子線葛巻・浄法寺区間開設工事	独立行政法人緑資源機構盛岡地方建設部長	東Ⅳ遺跡隣接地	一戸町
174	平成17年11月29日	農免道農道総合整備事業	水沢地方振興局農政部農村整備室長	野崎堤西遺跡	金ヶ崎町
175	平成17年11月28日	農免道農道総合整備事業	水沢地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり７	金ヶ崎町
176	平成17年11月29日	一般国道106号川目地区歩道設置工事	盛岡地方振興局土木部長	戸仲遺跡	盛岡市
177	平成17年11月29日	北上川上流流域下水道事業	北上川上流流域下水道事務所	船田Ⅲ遺跡	玉山村
178	平成17年11月30日～12月１	中山間地域総合整備事業町井地区	花巻地方振興局農林部農村整備室長	徳島遺跡	東和町
179	平成17年12月2日	経営体育成基盤整備事業　徳岡東部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	中の森遺跡	胆沢町

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
180	平成17年12月2日	経営体育成基盤整備事業　中寺林地区	花巻地方振興局農林部農村整備室長	八坂遺跡	石鳥谷町
181	平成17年12月5日	一般県道二戸一戸線堀野地区交通安全施設整備(歩道)工事	二戸地方振興局土木部長	堀野遺跡群	二戸市
182	平成17年12月5日	中山間総合整備事業	遠野地方振興局農政部農村整備室長	桃畑遺跡	大槌町
183	平成17年12月6日	胆沢ダム建設事業	国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所長	蜂谷遺跡	胆沢町
184	平成17年12月5日	県立花巻厚生・北上病院統合整備事業	医療局管理課総括課長	蒲沢遺跡	北上市
185	平成17年12月6日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	小林繁長遺跡	前沢町
186	平成17年12月12日	地方特定道路整備事業	大船渡地方振興局土木部長	雲南遺跡	陸前高田市
187	平成17年11月24日	中山間地域総合整備事業日野沢地区	久慈地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり①	山形村
188	平成17年12月15日～16日	一関遊水地事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	坂下遺跡	平泉町
189	平成17年12月15日～16日	一関遊水地事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	衣関遺跡	平泉町
190	平成17年12月15日	主要地方道八戸大野線向田地区歩道整備工事	久慈地方振興局土木部長	可能性あり②	大野村
191	平成17年12月16日	県営畑地帯総合整備事業　盛岡西部地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	木節遺跡	盛岡市
192	平成17年12月16日	県営畑地帯総合整備事業　盛岡西部地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	LE25-1204遺跡	盛岡市
193	平成17年12月16日	県営畑地帯総合整備事業　盛岡西部地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	清水野遺跡	矢巾町
194	平成17年12月19日～20日	ほ場整備事業	一関地方振興局農林部農村整備室長	骨寺村荘園遺跡	一関市
195	平成17年12月22日	経営体育成基盤整備事業　猫川左岸地区	遠野地方振興局農政部農村整備室長	森ノ下Ⅱ遺跡	遠野市
196	平成18年1月10日～11日	経営体育成基盤整備事業　中寺林地区	花巻地方振興局農林部農村整備室長	八幡Ⅱ遺跡	石鳥谷町
197	平成17年1月10日～11日	経営体育成基盤整備事業　中寺林地区	花巻地方振興局農林部農村整備室長	八坂遺跡	石鳥谷町
198	平成18年1月10日・12日	経営体育成基盤整備事業　中寺林地区	花巻地方振興局農林部農村整備室長	八幡Ⅲ遺跡	石鳥谷町
199	平成18年1月11日	経営体育成基盤整備事業　中寺林地区	花巻地方振興局農林部農村整備室長	愛郷遺跡	石鳥谷町
200	平成18年1月27日	経営体育成基盤整備事業　中寺林地区	花巻地方振興局農林部農村整備室長	八坂遺跡	石鳥谷町
201	平成18年1月13日	河川災害復旧工事	盛岡地方振興局土木部長	南野遺跡	矢巾町
202	平成18年1月16日～20日	下水道施設整備事業	学校財務課総括課長	中島遺跡	胆沢町
203	平成18年1月17日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部第５地区	北上地方振興局農林部農村整備室長	高前田遺跡	北上市
204	平成18年1月23日	中山間地域総合整備事業　猿沢地区	千厩地方振興局農林部農村整備室長	大畑南沢遺跡	一関市
205	平成18年1月23日	中山間地域総合整備事業　猿沢地区	千厩地方振興局農林部農村整備室長	大畑柳沢遺跡	一関市
206	平成18年1月26日	梁川ダム建設一般国道106号起点部工事用道路(仮設)工事	梁川ダム建設事務所長	戸仲遺跡	盛岡市
207	平成18年2月3日	緊急地方道路整備事業	二戸地方振興局土木部長	不動館	二戸市
208	平成18年2月1日～2日	県立花巻・北上統合病院整備事業	医療局管理課総括課長	蒲沢遺跡	北上市
209	平成18年2月6日	経営体育成基盤整備事業　御所野地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	御所野Ⅴ遺跡隣接地	雫石町

No.	調　査　期　日	事　　業　　名	事　　業　　者	遺　跡　名	所在地
210	平成18年2月6日	経営体育成基盤整備事業　御所野地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	御所野Ⅳ遺跡隣接地	雫石町
211	平成18年2月6日	経営体育成基盤整備事業　御所野地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	塩ケ森遺跡隣接地	雫石町
212	平成18年2月8日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	中島遺跡	江刺市
213	平成18年2月8日	地方特定道路整備事業	大船渡地方振興局土木部長	雲南遺跡	陸前高田市
214	平成18年2月13日～14日	森林管理道茅森線改築工事	久慈地方振興局林務部長	ウバドウヤ製鉄跡	山形村
215	平成18年2月15日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	水沢地方振興局農政部農村整備室長	中島遺跡	江刺市
216	平成18年2月16日	地方特定道路整備事業	水沢地方振興局土木部長	根岸遺跡隣接地	江刺市
217	平成18年2月17日	経営体育成基盤整備事業　江釣子第一地区	北上地方振興局農林部農村整備室長	新平遺跡	北上市
218	平成18年2月22日	緊急地方道路整備事業	北上地方振興局土木部長	金附遺跡隣接地	北上市
219	平成18年3月1日	特殊改良一種事業	久慈地方振興局土木部長	可能性あり②	山形村
220	平成18年3月6日～7日	緊急地方道整備事業	北上地方振興局土木部長	黒岩宿遺跡	北上市
221	平成18年3月8日	県営畑地総合整備事業　盛岡西部地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	清水野遺跡	矢巾町
222	平成18年3月13日	経営体育成基盤整備事業　江釣子第一地区	北上地方振興局農林部農村整備室長	下糠塚古館遺跡	北上市
223	平成18年3月14日	緊急地方道路整備事業	北上地方振興局土木部長	境遺跡	北上市
224	平成18年3月15日	県単道路改良事業	北上地方振興局土木部長	野田Ⅰ遺跡	北上市
225	平成18年3月16日～17日	一関遊水地事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	衣関遺跡	平泉町
226	平成18年3月23日	下水道施設整備事業	学校財務課総括課長	中島遺跡	奥州市

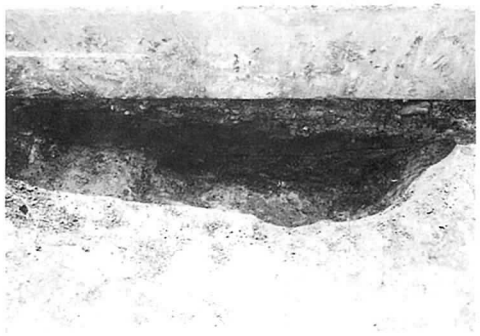
Ⅲ　写真図版

斉羽場館跡完掘状況



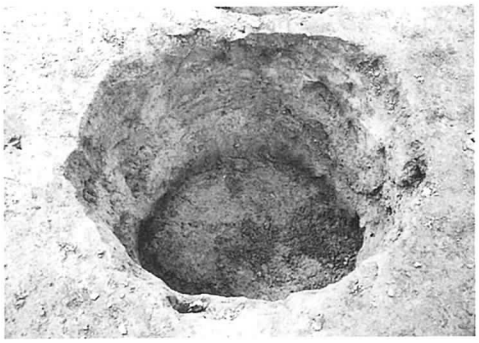
斉羽場館跡土坑完掘状況

上和町Ⅰ遺跡・溝状遺構完掘状況



上和町Ⅰ遺跡・溝状遺構断面

田屋遺跡完掘状況



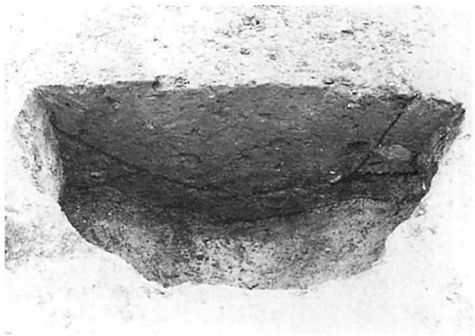
田屋遺跡４号土坑完掘

田屋遺跡７号土坑完掘

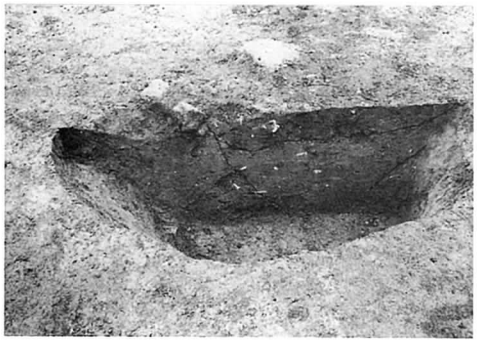
田屋遺跡６号土坑完掘

写真図版１　県内遺跡調査状況（１）

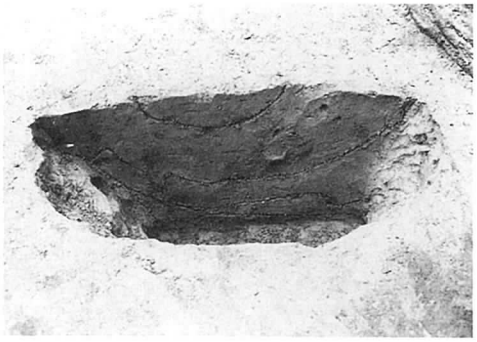
田屋遺跡７号土坑断面



田屋遺跡１号土坑断面



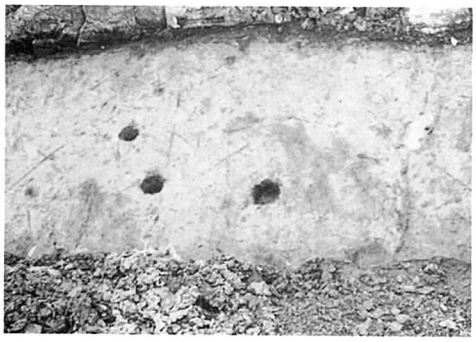
田屋遺跡２号土坑断面



田屋遺跡５号土坑断面

田屋遺跡６号土坑断面

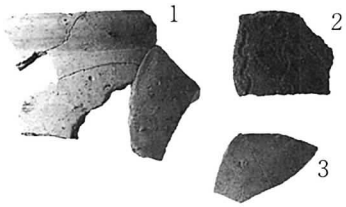
兵法田遺跡土坑完掘



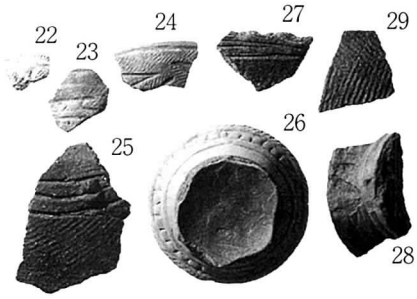
兵法田遺跡調査区全景

巣子Ⅵ遺跡調査区全景

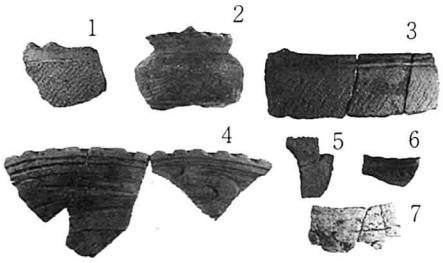
写真図版２　県内遺跡調査状況（２）



備中館・上和町Ⅰ遺跡

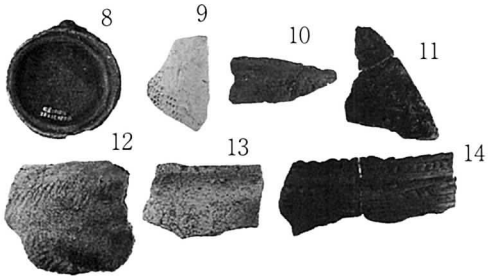


田屋遺跡



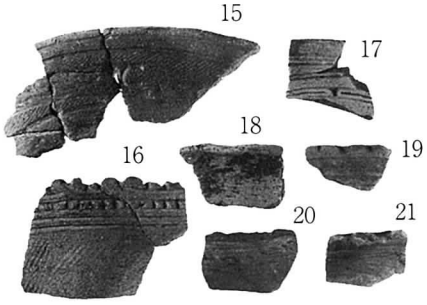
田屋遺跡

石持Ⅰ遺跡

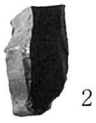


田屋遺跡

蒲沢遺跡

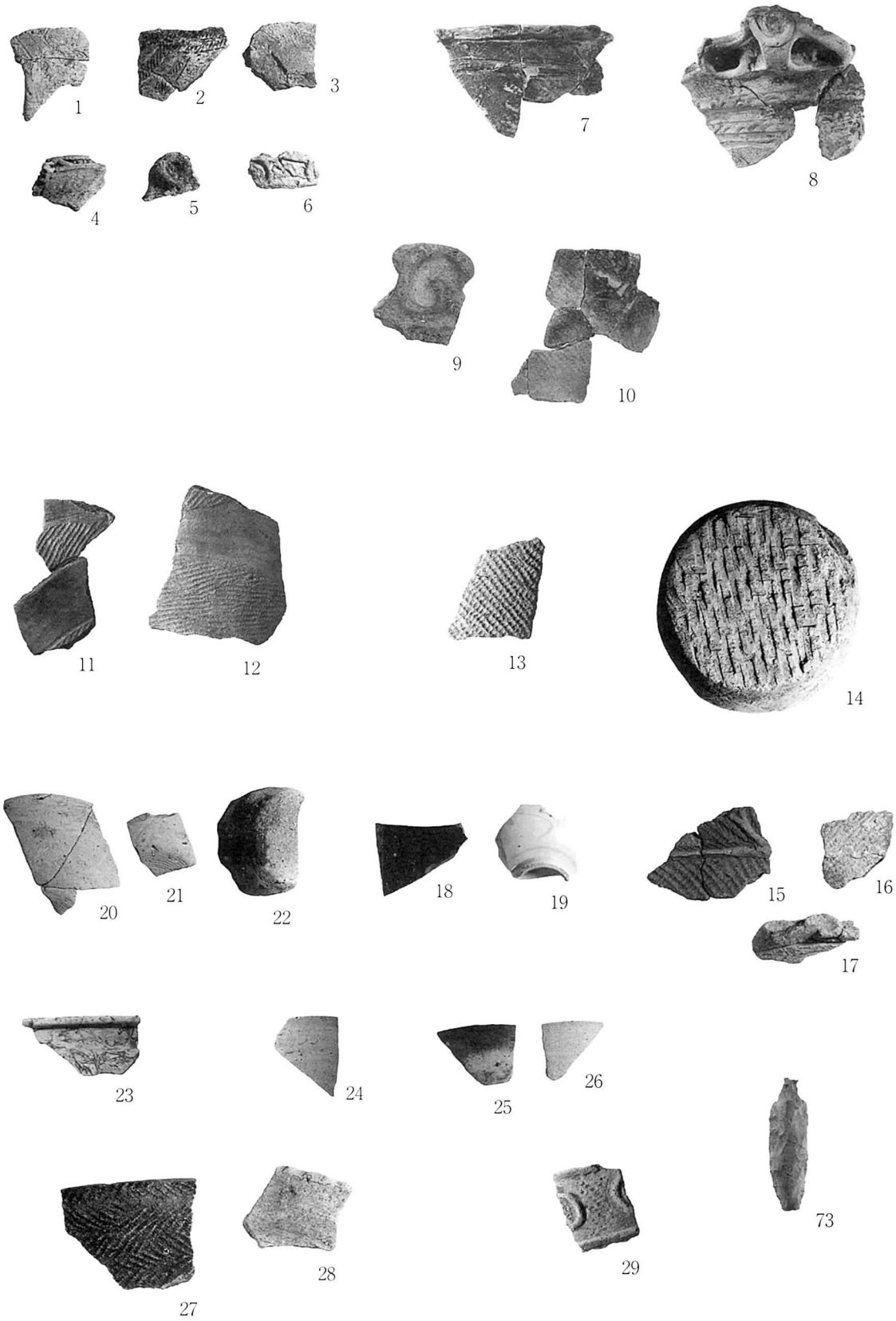


田屋遺跡

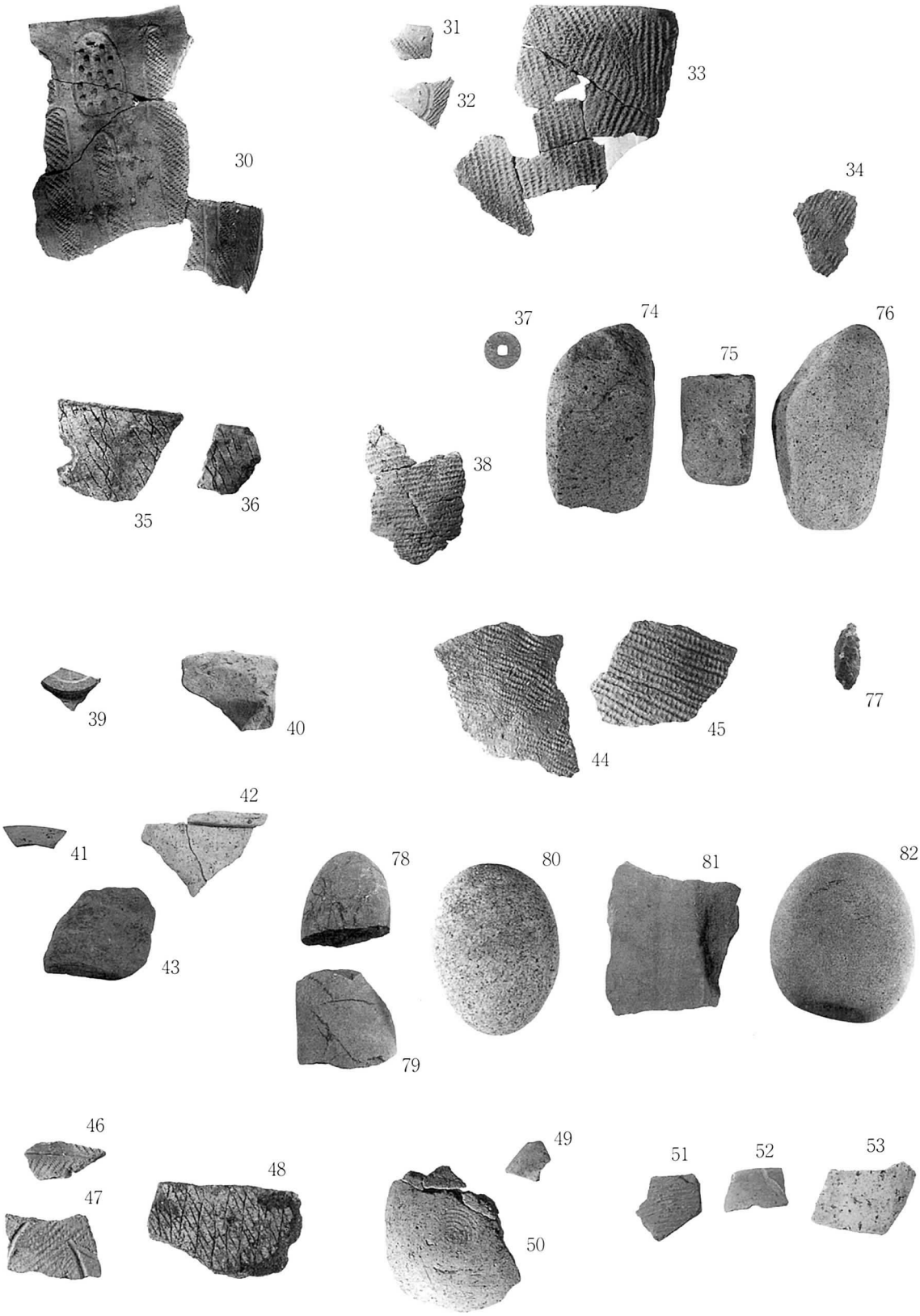


蒲沢遺跡

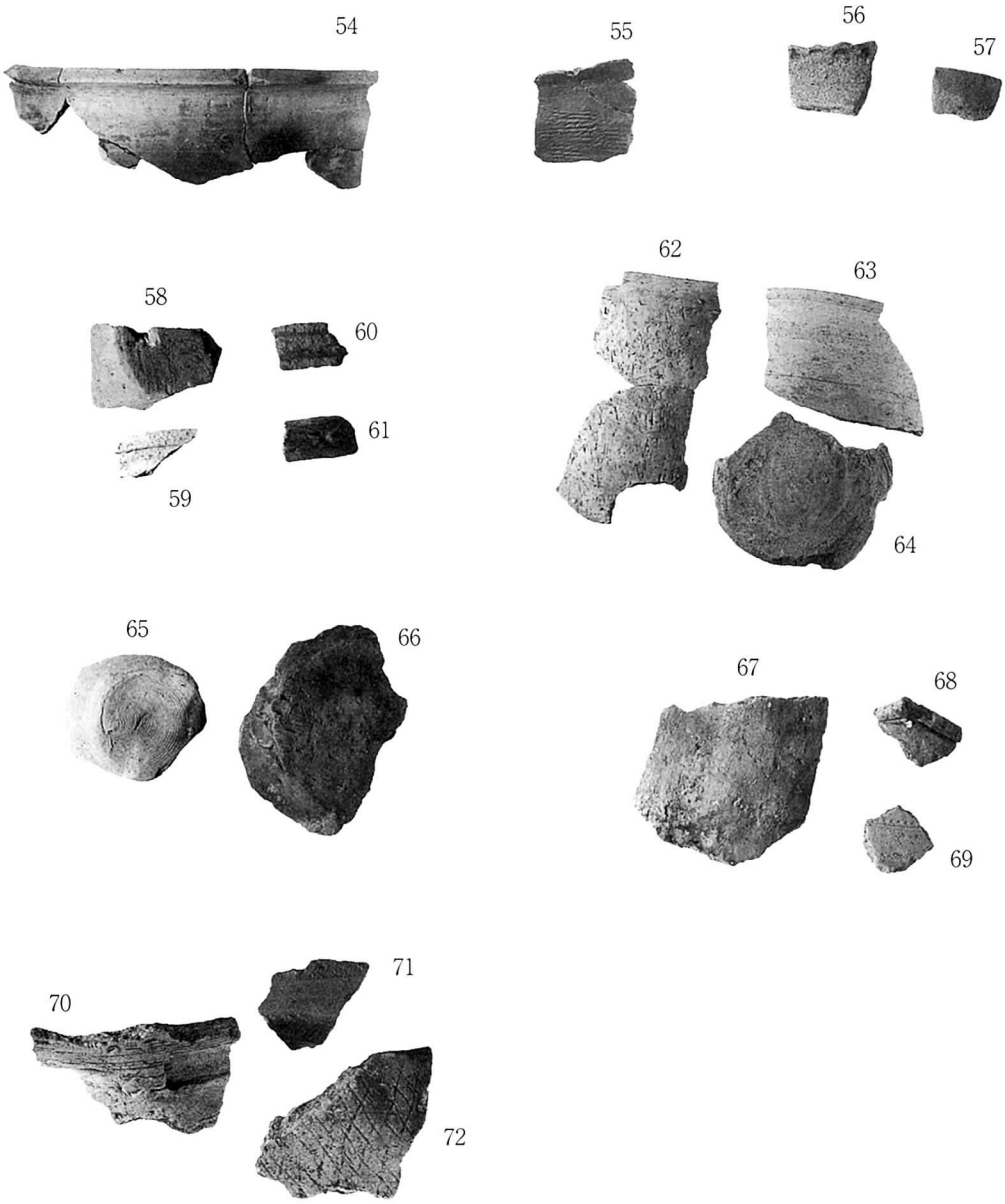
写真図版３　県内遺跡等出土遺物（１）～発掘調査～



写真図版４　県内遺跡等出土遺物（２）～試掘調査



写真図版５　県内遺跡等出土遺物（３）～試掘調査



写真図版６　県内遺跡等出土遺物（４）～試掘調査

岩手県文化財調査報告書第124集

岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成17年度）

発行日　平成19年３月31日

発　行　岩手県教育委員会
岩手県盛岡市内丸10－１

編　集　岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課

印　刷　㈱ 杜 陵 印 刷
盛岡市みたけ二丁目22番50号

古紙配合率100％の再生紙を使用しています。